

2013-業績一覧-臨床系講座

著者	日本歯科大学
雑誌名	日本歯科大学生命歯学部研究年報
巻	2013
ページ	65-160
発行年	2014
URL	http://id.nii.ac.jp/1102/00000710/

● 歯科保存学講座 Department of Endodontics

1. 所属構成員等

教 授	勝海一郎
准 教 授	前田宗宏
講 師	小倉陽子
助 教	
臨床研究生	天野 亮子
客 員 教 授	興地隆史（併任）
非常勤講師	船木 毅, 内山 誠也, 後藤 浩, 石塚 克巳, 箕浦 孝昭 高橋 千明, 長谷川和貴, 関口 晃弘, 久保田智也, 石川 泰 依田（山田）陽子, 遠藤 春江, 立浪 秀幸, 小澤 稔史, 内山 浩平
大 学 院 生	丸山沙絵子, 西田 太郎, 前野 雅彦, 永島万理子

2. 研究テーマ

- 1) 歯内療法用器材の開発 Development of endodontic instruments and materials.
- 2) 根管の拡大形成法に関する研究 Investigation of root canal preparation method.
- 3) 根管充填法に関する研究 Investigation of root canal obturation method.
- 4) 歯内療法用薬剤に関する研究 Investigation of endodontic agents.
- 5) 根管充填用セメント, 仮封材に関する研究 Investigation of root canal cement and hydraulic temporary sealing materials.
- 6) 歯髄炎症に関する研究 Investigation of pulp inflammation.
- 7) 歯内療法における創傷治癒に関する研究 Investigation of wound healing in endodontics.
- 8) 感染根管臭に関する研究 Investigation of malodorant in infected root canal.
- 9) Er : YAG レーザーの歯内療法分野への応用に関する研究 Application of Er : YAG laser for endodontics.
- 10) 歯内療法における予後に関する研究 Investigation of endodontic prognosis.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

特許取得

- 1) 株式会社ビーブランド・メディコーデンタル：橋本修一, 前田宗宏, 石塚克巳, 勝海一郎, 平成25年5月31日, 特許第5280801号, 歯科用組成物.

4. 学位取得者

- 1) 丸山沙絵子：「フロアブルレジンとユニバーサルレジンによる歯頸部修復の接着差違」, 平成26年

2月3日, 日本歯科大学.

- 2) 前野雅彦:「CAD/CAM セラミックアンレーの接着 象牙質レジンコーティングとセメント接着時ボンディング材事前塗布の効果」, 平成26年2月3日, 日本歯科大学.
- 3) 西田太郎:「マイクロフォーカス X 線 CT による下顎切歯根管形態の分析」, 平成26年3月7日, 日本歯科大学.

5. 主催学会等

- 1) 平成25年度東京都歯科医師会卒後研修, 歯内療法 ～成功の鍵～, 日本歯科大学生命歯学部, 平成25年7月18日, 勝海一郎, 日本歯科大学附属病院総合診療科歯内療法チームとの共催.

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

- 1) 東京都歯科医師会 (卒後研修) 奨学寄付, 898,935円

8. 研究業績

A. 著書

記載事項なし

B. 原著

- 1) 前田宗宏, 小澤稔史, 勝海一郎: ニッケルチタン製根管口拡大器具の繰り返し使用が切削動態に及ぼす影響, ○日本歯科保存学雑誌, 2014; 57 (1): 58-66, doi: 10.11471/shikahozon.57.58
Maeda M, Ozawa T, Katsuumi I. Influence of cutting aspect on continuous use of Ni-Ti orifice opener. The Japanese Journal of Conservative Dentistry, 2014; 57 (1): 58-66, doi: 10.11471/shikahozon.57.58

C. 総説・解説

- 1) 勝海一郎: マイクロフォーカス X 線 CT の歯内療法分野への応用, 日本歯科理工学会誌, 32 (6): 449-452, 2013.
- 2) 西田太郎, 勝海一郎: マイクロフォーカス X 線 CT を用いて観察した下顎切歯の根管形態, 別冊 the Quintessence YEARBOOK 2014 今だからこそ押さえておきたい! 世界の歯内療法の潮流, 113-114, 2014.

D. 報告 (臨床・症例・研究等)・紀要

- 1) 勝海一郎: 巻頭言 Odontology について, 歯学, 103 (春季特集号): 2014.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

- 1) Amano R, Katsuumi I. Evaluation of root canal morphology in maxillary lateral incisor using a micro-focus x-ray CT device, J Endod, 39 (3) : e21, 2013.
- 2) Nishida T, Katsuumi I. Analysis of root canal morphology in mandibular incisor by a micro-focus x-ray CT device, J Endod, 39 (3) : e29, 2013.
- 3) Maeda M, Hashimoto S, Ishitsuka K, Ogura Y, Katsuumi I. Antibacterial effect of new root canal sealer containing low concentration of eugenol, J Endod, 39 (3) : e38, 2013.
- 4) Ogura Y, Maeda M, Katsuumi I. Efficacy of several techniques for removal of calcium hydroxide from root canals, J Endod, 39 (3) : e39, 2013.
- 5) Nishida T, Katsuumi I. Root canal morphology of mandibular incisor using micro-focus x-ray CT device, The 9th World Endodontic Congress Scientific Final Program, 35, 2013.
- 6) Ogura Y, Maeda M, Katsuumi I. Comparison of the removal techniques of calcium hydroxide from root canals, The 9th World Endodontic Congress Scientific final Program, 37, 2013.
- 7) Maeda M, Hashimoto S, Ishitsuka K, Katsuumi I. Physical properties of new root canal sealer including oleic acid and low concentration of eugenol, The 9th World Endodontic Congress Scientific Final Program, 37, 2013.
- 8) Maruyama S, Maseki T, Nara Y. Retention of flowable and universal composites in Cervical restorations, The 5th international congress on adhesive dentistry program, 26, 2013.
- 9) 前野雅彦, 山田 正, 中村昇司, 柵木寿男, 奈良陽一郎: レジンコーティングがCAD/CAM セラミックアンレー修復の窩洞適合性に及ぼす影響, 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第138回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 72, 2013.
- 10) 小倉陽子, 前田宗宏, 勝海一郎: ウォータージェットポンプを用いたスミア層除去に関する検討 噴射時間の影響について, 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第138回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 132, 2013.
- 11) 西田太郎, 勝海一郎: マイクロフォーカス X 線 CT 装置による下顎切歯根管形態の評価 (第3報), 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第138回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 199, 2013.
- 12) 前田宗宏, 橋本修一, 石塚克巳, 勝海一郎: オレイン酸, ユージノールおよび酸化亜鉛を主剤とした新規根管充填用シーラーの寸法変化と硬化度, 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第138回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 209, 2013.
- 13) 内川喜盛, 北原和樹, 大澤銀子, 岡田智雄, 仲谷 寛, 横澤 茂, 北村和夫, 大津光寛, 小川智久, 菊池憲一郎, 鈴木淳子, 岩田 洋, 小倉陽子, 安田麻子, 石川結子: 医療コミュニケーション実習に対する学生の意識について, 2013年度日本歯科医学教育学会総会および学術大会

- (第32回) プログラム・抄録集, 99, 2013.
- 14) 横澤 茂, 内川喜盛, 大澤銀子, 北原和樹, 池田利恵, 石川結子, 井出吉昭, 岩田 洋, 大津光寛, 岡田智雄, 小川智久, 小倉陽子, 織田總一郎, 菊池憲一郎, 北村和夫, 鈴木淳子, 仲谷寛, 安田麻子: 日本歯科大学附属病院における歯科医療コミュニケーションセミナーの概要, 2013年度日本歯科医学教育学会総会および学術大会 (第32回) プログラム・抄録集, 100, 2013.
- 15) 森 俊幸, 関根哲子, 壹岐宏二, 庫山未希, 勝海一郎, 元吞昭夫, 池見宅司: コンポジットレジン色彩学的研究 ―背景色と厚さの違いで得られた TP 値標準曲線の情報―, 2013年度日本歯科色彩学会総会・学術大会 (第21回) プログラム・抄録集, 18, 2013.
- 16) 丸山沙絵子, 河合貴俊, 原 学, 柵木寿男, 奈良陽一郎: 歯頸部修復に対するフロアブルレジンの有用性, 2013年度日本歯科保存学会秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 30, 2013.
- 17) 前野雅彦, 山田 正, 中村昇司, 柵木寿男, 奈良陽一郎: レジンコーティングと咀嚼環境想定 of 動的荷重が CAD/CAM セラミックアンレー修復の窩底部接着強さに及ぼす影響, 2013年度日本歯科保存学会秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 91, 2013.
- 18) 前田宗宏, 橋本修一, 石塚克巳, 勝海一郎: オレイン酸, ユージノールおよび酸化亜鉛を主剤とした新規根管充填用シーラーの根尖封鎖能, 2013年度日本歯科保存学会秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 210, 2013.
- 19) 西田太郎, 勝海一郎: マイクロフォーカス X 線 CT 装置による下顎切歯根管形態の評価 (第4報), 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 216, 2013.
- 20) 天野亮子, 勝海一郎: マイクロフォーカス X 線 CT 装置による上顎側切歯根管形態の評価 (第5報), 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 217, 2013.
- 21) Maeno M, Yamada T, Maseki T, Nara Y. Effect of dynamic-load and immediate-dentin-sealing on adhesion of CAD/CAM restoration, J Dent Res, 93 (SI-A) : 11-17, 2014.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

記載事項なし

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

- 1) 勝海一郎: 歯内療法・最近の潮流, 平成25年度東京都歯科医師会卒後研修会, 日本歯科大学生命歯学部 (東京), 2013年7月18日.
- 2) 前田宗宏: 根管拡大形成の考え方, 平成25年度東京都歯科医師会卒後研修会, 日本歯科大学

命歯学部（東京），2013年7月18日．

- 3) 小倉陽子：最新歯内療法用器材 応用のポイント，平成25年度東京都歯科医師会卒後研修会，日本歯科大学生命歯学部（東京），2013年7月18日．
- 4) 勝海一郎：歯内療法・最近の潮流，平成25年度富山県日本歯科大学校友会学術講演会，ホテルニューオータニ高岡（高岡），2013年7月21日．
- 5) 前田宗宏：根管治療の基本的な考え方，平成25年度東京都大田区蒲田歯科医師会学術講演会，蒲田歯科医師会館（東京），2013年11月27日．
- 6) 前田宗宏：効率的な根管治療の進め方，平成25年度東京都大田区蒲田歯科医師会学術講演会，蒲田歯科医師会館（東京），2014年2月5日．
- 7) Maruyama S, Maseki T, Nara Y : Difference in marginal sealing between flowable and universal resin composites applied to cervical restoration, 日本歯科大学歯学会 English 学内発表会，東京，2014年3月7日．

● 接着歯科学講座 Department of Adhesive Dentistry

1. 所属構成員等

教 授 奈良陽一郎
准 教 授 柵木 寿男
助 教 山田 正, 小川信太郎
非常勤講師 杉山 征三, 貴美島 哲, 吉村 英則, 久保田佐和子, 中村 昇司
長倉 弥生, 江黒 徹, 鈴木 貴規, 原 学
大 学 院 生 丸山沙絵子 (歯科保存学講座から出向), 前野 雅彦 (歯科保存学講座から出向)
河合 貴俊, 石井 詔子

2. 研究テーマ

- 1) 次世代低侵襲性接着修復法の確立に向けた基礎的臨床的評価検討 Basic and clinical examination for the establishment of next generation MI restoration.
- 2) 革新的デジタルレストレーションシステムの構築を見据えた総合的評価検討 Comprehensive investigation of the innovative digital restoration system.
- 3) 歯質との親和・一体化を図ったバイオアドヒージョンの創生 Revitalization of bio-adhesion for the affinity of tooth substance.
- 4) メタルフリー接着修復による高品位審美性の具現化 Realization of the high-definition aesthetic treatment with metal-free adhesive restoration.
- 5) 審美的修復材料の in vivo / in vitro 接着評価 In vivo / in vitro bonding examination of aesthetic restorative materials.
- 6) 口腔内環境想定複合ストレス条件下における接着挙動の究明 Investigation of bonding behaviors under combination stress simulating intra-oral environment.
- 7) 新規修復用器材の開発と評価検討 Development and investigation of new restorative materials.
- 8) 非破壊接着評価法の探究 Investigation of non-destructive evaluation.
- 9) 非回転切削法による新規修復法の考究 Development of new restorative technique without rotating preparation.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

- 1) 日本接着歯学会 平成25年度学術大会発表優秀賞 (ポスター発表部門) 第6位, 石井詔子: 平成25年11月30日, 歯頸部罹患象牙質に対する接着 ―最近のオールインワン接着システム初期引張接着強さに基づく評価―.

4. 学位取得者

- 1) 丸山沙絵子：「フロアブルレジンとユニバーサルレジンによる歯頸部修復の接着差違」，取得年月日：平成26年2月3日，日本歯科大学.
- 2) 前野雅彦：「CAD/CAM セラミックアンレーの接着 象牙質レジンコーティングとセメント接着時ボンディング材事前塗布の効果」，取得年月日：平成26年2月3日，日本歯科大学.

5. 主催学会等

- 1) 第24回日本歯科審美学会学術大会，日本歯科大学生命歯学部，平成25年7月20日・21日，接着歯科学講座.

6. 国際交流状況

- 1) 共同研究：奈良陽一郎，柵木寿男，山田 正，小川信太郎，前野雅彦，丸山沙絵子，河合貴俊，石井詔子とハーバード大学歯学部 I.L. Dogon 教授（アメリカ合衆国）との共同研究，「次世代修復に関する基礎的臨床的研究」，1985年より継続中.
- 2) Dental Consultant in Dental Education for Project HOPE 委任：奈良陽一郎，Dental Education for Project HOPE（アメリカ合衆国，米国保健政策機関 Project HOPE）としての委任，2000年より継続中.

7. 外部研究費

- 1) 日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金，基盤研究（C）（一般）（継続），平成23年度～平成25年度，メタルフリー接着修復の in vivo / in vitro 評価，奈良陽一郎（代表），柵木寿男（分担），山田 正（分担），小川信太郎（分担），山瀬 勝（分担），代田あづさ（分担），新田俊彦（分担），1,560,000円.
- 2) 企業委託研究費・クラレノリタケデンタル株式会社（新規），平成25年4月1日～平成26年3月31日，試作品の評価およびボンディング，CR，セメント分野における製品の評価，奈良陽一郎（代表），柵木寿男（分担），山田 正（分担），小川信太郎（分担），前野雅彦（分担），丸山沙絵子（分担），河合貴俊（分担），石井詔子（分担），山瀬 勝（分担），新田俊彦（分担），1,000,000円.
- 3) 企業委託研究費・スリーエムヘルスケア株式会社（新規），平成25年11月1日～平成26年10月31日，3M ESPE 新規ボンディング材の諸性質評価，奈良陽一郎（代表），柵木寿男（分担），山田 正（分担），小川信太郎（分担），前野雅彦（分担），丸山沙絵子（分担），河合貴俊（分担），石井詔子（分担），500,000円.
- 4) 企業委託研究費・スリーエムヘルスケア株式会社（新規），平成26年3月1日～平成26年12月31日，3M ESPE 新規研磨器材の諸性質評価，奈良陽一郎（代表），柵木寿男（分担），小川信太郎（分担），丸山沙絵子（分担），石井詔子（分担），500,000円.

8. 研究業績

A. 著書

記載事項なし

B. 原著

1. *小川信太郎, 柵木寿男, 奈良陽一郎: レジンコアシステム応用のコンポジットレジン直接修復における接着実態, ○接着歯学 2013; 31 (4): 175-190. (学位論文)
Ogawa S, Maseki T, Nara Y. Actual adhesion state of direct resin composite restoration applied with resin core system, Adhes Dent 2013; 31 (4): 175-190.
2. 山田 正, 柵木寿男, 奈良陽一郎: 動的荷重が MODB ハイブリッドセラミックアンレー修復の微少漏洩に及ぼす影響, ○日歯保存誌 2014; 57 (1): 83-90.
Yamada T, Maseki T, Nara Y. Effect of dynamic load on microleakage of MODB hybrid ceramic onlay restoration, Jpn J Conserv Dent, 2014; 57 (1): 83-90. doi: 10.11471/shikahozon.57.83.

C. 総説・解説

1. 桃井保子, 奈良陽一郎: ラバーダムで患者に安全・安心を, QE, 32 (7): 80-83, 2013.
2. 小川信太郎, 柵木寿男, 奈良陽一郎: 接着性に長けた根管治療後のレジンコア築盛, 歯学, 101秋季特集号: 49-53, 2013.

D. 報告 (臨床・症例・研究等)・紀要

1. 奈良陽一郎: 第24回日本歯科審美学会学術大会のご案内, 日本歯科審美学会ニュースレター, 27: 2-5, 2013.
2. 奈良陽一郎: 表彰委員会報告, 日本歯科審美学会ニュースレター, 27: 19-20, 2013.
3. 奈良陽一郎: 第24回日本歯科審美学会学術大会の開催報告, 日本歯科審美学会ニュースレター, 28: 4-5, 2013.
4. 奈良陽一郎: 表彰委員会報告, 日本歯科審美学会ニュースレター, 28: 17-18, 2013.
5. 奈良陽一郎: 今こそ接着修復を活かして!, 富士見, 167: 1, 2013.
6. 奈良陽一郎 (文責): 日本接着歯学会, 日本歯科医学会誌, 33: 128, 2014.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. Maruyama S, Maseki T, Nara Y. Retention of flowable and universal composites in cervical restorations, The 5th international congress on adhesive dentistry program, 26, 2013.
2. Yamada T, Maseki T, Nara Y. Effect of cyclic load on bonding-reliability of metal-free onlay resto-

rations, The 5th international congress on adhesive dentistry program, 40, 2013.

3. 前野雅彦, 山田 正, 中村昇司, 柵木寿男, 奈良陽一郎: レジンコーティングがCAD/CAM セラミックアンレー修復の窩洞適合性に及ぼす影響, 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第138回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 72, 2013.
4. 小川信太郎, 柵木寿男, 奈良陽一郎: 動的荷重ストレスがレジンコアシステム応用コンポジットレジン直接修復の辺縁封鎖性に及ぼす影響, 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第138回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 171, 2013.
5. 小川信太郎, 河合貴俊, 石井詔子, 柵木寿男, 奈良陽一郎: 研磨システムおよびコンポジットレジンの違いが研磨面の表面光沢度に及ぼす影響, 第24回日本歯科審美学会学術大会プログラム・抄録集, 94, 2013.
6. Maseki T, Ogawa S, Yamada T, Nara Y. Polymerization shrinkage of dual-cure core build-up resin composites, Dent Mater, 29 : Supple 1, e47-e48, 2013.
7. 丸山沙絵子, 河合貴俊, 原 学, 柵木寿男, 奈良陽一郎: 歯頸部修復に対するフロアブルレジンの有用性, 2013年度日本歯科保存学会秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 30, 2013.
8. 前野雅彦, 山田 正, 中村昇司, 柵木寿男, 奈良陽一郎: レジンコーティングと咀嚼環境想定 of 動的荷重がCAD/CAM セラミックアンレー修復の窩底部接着強さに及ぼす影響, 2013年度日本歯科保存学会秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 91, 2013.
9. 石井詔子, 河合貴俊, 小川信太郎, 長倉弥生, 久保田佐和子, 柵木寿男, 奈良陽一郎: 歯頸部罹患象牙質に対する接着 —最近のオールインワン接着システム初期引張接着強さに基づく評価—, 接着歯学, vol.31 : 116, 2013.
10. Nara Y, Ishii N, Kawai T, Ogawa S, Dogon I.L.. Bonding reliability of cervical decayed dentin pre-treated with recent all-in-one adhesive system, J Dent Res, 93 (SI-A) : 463, 2014.
11. Ogawa S, Maseki T, Nara Y. Effect of dynamic-load-stress on marginal-sealing of class-2-composite-restoration with resin-core reinforcement, J Dent Res, 93 (SI-A) : 846, 2014.
12. Kawai T, Ishii N, Ogawa S, Maseki T, Dogon I.L., Nara Y. Effect of polishing systems on surface gloss of resin-composite restoratives, J Dent Res, 93 (SI-A) : 889, 2014.
13. Maeno M, Yamada T, Maseki T, Nara Y. Effect of dynamic-load and immediate-dentin-sealing on adhesion of CAD/CAM restoration, J Dent Res, 93 (SI-A) : 1117, 2014.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. Nara Y. Bonding performance of recent all-in-one adhesive systems, The 5th International Congress on Adhesive Dentistry, Special Lecture, Philadelphia, Pennsylvania, U.S.A., 2013年 6 月15 日.

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 柵木寿男：気になる歯のウエストのお話，平成25年度 福島県日本歯科大学校友会総会・学術講演会，福島，2013年6月22日.
2. 奈良陽一郎：今こそ接着修復を活かして！—CR充填からセメント合着までを含めた納得の勘所—，日本歯科大学歯学会 東京都日本歯科大学校友会第1回学術講演会，東京，2013年7月25日.
3. 柵木寿男：コンポジットレジン修復における留意点について，和歌山県伊都歯科医師会 平成25年度 第1回学術講習会，和歌山，2013年8月1日.
4. 奈良陽一郎：今こそレジン接着修復を活かす！—最新器材と勘所—，日本歯科大学東京都校友会 世田谷支部学術講演会，東京，2013年11月22日.
5. 小川信太郎：レジンコアを用いたコンポジットレジン直接修復の接着性についての研究，日本歯科大学歯学会 研究推進フォーラム，東京，2013年12月12日.
6. Maruyama S, Maseki T, Nara Y : Difference in marginal sealing between flowable and universal resin composites applied to cervical restoration, 日本歯科大学歯学会 English 学内発表会，東京，2014年3月7日.

● 歯周病学講座 Department of Periodontology

1. 所属構成員等

教 授	沼部 幸博
准 教 授	伊藤 弘, 関野 愉
講 師	村楳 悦子
助 教	石黒 一美
臨床研究生	五十嵐寛子, 加藤 智崇 (～平成25年6月30日), 高橋 亮一 (平成25年4月1日～)
非常勤講師	五十嵐寛子 (平成25年4月1日～), 今井 奨, 大崎 忠夫, 加治 彰彦 加藤 智崇 (平成25年4月1日～), 清信 浩一, 佐藤 宏一 (平成25年4月1日～) 鈴木 設矢, 玉澤 修, 藤田 佑三 (平成25年4月1日～), 帆足 公人 吉永 英司, 若尾 徳男
大 学 院 生	大久保美佐, 倉治竜太郎 (平成25年4月10日～), 石井マイケル大宜 (平成25年4月10日～)
聴 講 生	加治 彰彦, 佐野 哲也, 鈴木香奈子, 高崎 俊輔, 横田 秀一, 吉橋 直弥 (～平成25年3月31日), 榎本 秀太, 大森 由佳, 笠井 雄太, 川村 弘 福田 晃士 (平成25年10月1日～), 矢吹 一峰 (平成25年10月1日～)
客 員 教 授	上田 実 (平成25年4月1日～平成26年3月31日) 花田 信弘 (平成25年4月1日～平成26年3月31日) 久世 香澄 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

2. 研究テーマ

- 1) 喫煙が歯周組織免疫応答に及ぼす影響 —特に好中球の機能に及ぼす影響について— Smoking effects on human PMN in periodontal tissue.
- 2) 歯肉溝滲出液 (GCF) における酵素活性について Investigation of periodontal status using gingival crevicular fluid (GCF).
- 3) 歯肉溝滲出液 (GCF) 成分解析を応用した新規歯周病診断キットの開発 Development of the new periodontal diagnostic kit by GCF contents analysis.
- 4) 禁煙が歯周組織へ及ぼす影響 Effect of smoking cessation on human periodontal tissue.
- 5) 歯周治療の長期予後に関する研究 Study on the long-term prognosis of periodontal therapy.
- 6) 要介護高齢者の歯周疾患の実態について Periodontal disease in elderly in need of care.
- 7) 要介護高齢者における口腔ケアの歯周炎に対する効果 Effect of oral care on periodontal disease in elderly in need of care.
- 8) 高萩市における歯周疾患の疫学調査 Epidemiology of periodontal disease in Takahagi City.
- 9) Nd : YAG レーザーを用いた細胞活性の検索 (HGF, PDL) activity using Nd : YAG Laser.

- 10) Nd : YAG レーザーがヒト歯肉線維芽細胞に与える影響について—照射出力および 照射距離に関する検討— The effect of Nd : YAG Laser irradiation on human gingival fibroblasts-A study of the irradiation output and distance-.
- 11) Er : YAG レーザー照射もしくは手用スケーラーを用いた処置後の歯周組織の治癒について Healing of periodontal tissue following non surgical treatment with an Er : YAG laser and or SRP.
- 12) LED を用いた新たな歯周病予防法と治療法の開発に向けた基礎的研究 Basic research for new prevention and treatment of periodontal disease by LED (light-emitting diode) irradiation.
- 13) 喫煙による歯肉の線維化について Effects of smoking to human gingival fibrosi.
- 14) ヒト歯根膜由来血管内皮細胞に対する結合組織増殖因子 (CCN2/CTGF) の血管形成に関する研究 The effect of CCN2/CTGF on human endothelial cells to tube formation.
- 15) 歯根膜細胞の骨分化及ぼす宿主因子 Host related factors of bone differentiation on periodontal cells.
- 16) LED 照射による *Porphyromonas gingivalis* に対する殺菌効果の研究 Study of bactericidal effect against *Porphyromonas gingivalis* by LED irradiation.
- 17) 歯周疾患と非アルコール性脂肪性肝炎との関係について Relationship between periodontal disease and Non-alcoholic steatohepatitis.
- 18) 歯周炎に対する抗炎症・抗酸化物質の効果 The effect of anti-inflammatory and anti-oxidant against periodontitis.
- 19) 歯肉マッサージが口腔環境に及ぼす影響 Effects of gingival massage on oral environment.
- 20) プロバイオティクス療法による歯周病予防—商品による比較検討— Prevention of periodontal disease by several products of probiotics.
- 21) 超音波スケーラーに関するアンケート調査 The questionnaire about several ultrasonic scalers.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

- 1) 以下の要領で特許出願を行い現在インターネット上で公開されている.

特許出願

特許出願人：わかもと製薬株式会社

発明者：沼部幸博, 伊藤 弘, 橋本修一

年月日：平成24年5月17日

出願番号：特願2012-113195

発明の名称：歯周病を検出する方法及び迅速診断キット

- 2) 2009年より当講座（疫学調査担当：関野 愉, 高橋亮一, 倉治竜太郎, 石井マイケル大宜, 沼部幸博）で行ってきたが, 2012年10月17日に茨城県高萩市と日本歯科大学生命歯学部との間で「歯と口腔の健康に関する連携協定」を締結.

(連携協力する事項)

- (1) 歯と口腔の健康づくりに関する情報の収集及び広報に関すること
 - (2) 歯周病の予防対策及び保健指導に関すること
 - (3) その他前条に規定する目的を達成するために必要な事項に関すること
- について、今後も両者で連携協力を行っていく予定。

- 3) 関野 愉：2012年度日本歯周病学会 教育賞受賞 平成25年6月1日、「歯学生のリサーチマインドを育成する「生命歯学探究」の実際」

受賞対象の発表

「歯学生のリサーチマインドを育成する「生命歯学探究」の実際」

関野 愉, 石黒一美, 中田智之, 沼部幸博, 日本歯周病学会会誌54巻 (春季特別号): 147, 2012

- 4) 加藤智崇：日本歯周病学会認定医取得 第391号 取得年月日：平成25年5月30日
- 5) 関野 愉：日本顎咬合学会 咬み合わせ指導医取得 第852号 取得年月日：平成25年10月20日
- 6) 五十嵐寛子：日本歯科保存学会専門医取得 第1175号 取得年月日：平成25年10月16日
- 7) 五十嵐寛子：平成21年より東京慈恵会医科大学解剖学講座に訪問研究員として研究出張
- 8) 平成25年度スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRIP)

日本代表選抜大会 (主催：日本歯科医師会 協賛：デンツプライ)

平成25年8月21日 (歯科医師会館, 東京) の大学代表の研究指導を行い, 以下の結果を得た。

臨床部門 第2位受賞

日本歯科大学生命歯学部代表：岡部佑妃子 (第5学年)

共同研究者：和田祐季 (第5学年)

ファカルティアドバイザー：石黒一美 (歯周病学講座), 沼部幸博 (歯周病学講座)

支援指導者：関野 愉 (歯周病学講座)

研究課題名：

「新たに考案した歯肉血流測定法と歯肉マッサージによる血流の変化：A New Method of Measurement of Blood Flow and Blood Flow Changes during Gingival Massage」

- 9) 沼部幸博：日本レーザー歯学会専門医取得 第180号 取得年月日：平成25年9月28日

4. 学位取得者

記載事項なし

5. 主催学会等

- 1) 平成25年度歯周病学講座大学院講義 (Research Methodology) 平成25年4月9日～平成25年5月14日期間の火曜日 (4回), 日本歯科大学生命歯学部。
- 2) 平成25年度歯周病学講座大学院講義 平成25年5月7日～平成26年3月11日期間の火曜日 (10

回), 日本歯科大学生命歯学部.

- 3) 平成25年度歯周病学講座大学院ゼミ (Journal Club) 平成25年 5 月28日～平成26年 2 月 4 日期間の火曜日 (6 回), 日本歯科大学生命歯学部.
- 4) 平成25年度歯周病学講抄読会 (Literature Review) 平成25年 6 月11日～平成26年 1 月21日期間の火曜日 (7 回), 日本歯科大学生命歯学部.
- 5) 平成25年度歯周病学講座症例検討会 平成25年 6 月 4 日～平成26年 3 月 4 日期間の火曜日 (5 回), 日本歯科大学生命歯学部.
- 6) 平成25年度歯周病学講座研究発表会 平成26年 2 月 5 日～平成25年 2 月26日期間の火曜日 (9 回), 日本歯科大学生命歯学部.
- 7) 平成25年度歯周病学講座 Jan Egelberg 勉強会 平成25年 7 月 4 日～平成26年 3 月20日期間の木曜日 (9 回), 日本歯科大学生命歯学部.
- 8) ブタ下顎骨を用いた歯周外科手術の実習 (大学院生実習) 平成25年 7 月23日, 日本歯科大学生命歯学部.
- 9) 口腔内写実実習 (大学院生実習) 平成25年 6 月25日, 日本歯科大学生命歯学部.
- 10) 第 1 回日本歯科大学歯科衛生士講習会「日本歯周病学会 認定歯科衛生士になるためには」平成26年 2 月27日, 日本歯科大学東京短期大学201講座
- 11) 平成25年度歯周病学講座講演会「ペリオそして口腔病巣疾患について」講演者 今井一彰 平成25年11月18日, 日本歯科大学附属病院 8 階牛込ホール

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

- 1) 科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2), 2011年 4 月 1 日～2014年 3 月31日, 禁煙前後の歯周組織変化の多角的解析 (3 年目), 研究者氏名: 沼部幸博 (代表者), 伊藤 弘, 石黒一美, 520万円.
- 2) 科学研究費補助金 基盤研究 (C)(2), 2013年 4 月 1 日～2014年 3 月31日, 喫煙は歯周治療の超過医療費因子となりうる一禁煙治療の歯科健康保険導入を目指して—(1 年目), 伊藤 弘 (代表者), 沼部幸博, 森田 学, 稲垣幸司, 埴岡 隆, 王 宝禮, 藤井健男, 山本龍生, 両角俊哉, 190万円.
- 3) 科学研究費補助金 若手研究 (B), 2012年 4 月 1 日～2015年 3 月31日, 多波長 LED 照射による歯周疾患予防効果の向上 (2 年目), 研究者氏名: 石黒一美 (代表者), 110万円.
- 4) 平成25年度日本歯科医学会プロジェクト研究, 2013年 4 月 1 日～2014年 3 月31日, 歯周組織再生治療の評価に向けた CBCT の活用, 広島大学大学院医歯薬総合研究科歯周病態学分野, 教授 栗原英見 (代表者), 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野, 教授 和泉雄一, 大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座, 歯周病分子病態学・歯周病診断制御学 教授 村上伸也, 日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座, 教授 沼部幸博, 岡山大学大学院医歯薬総合研究科

病態制御科学専攻，病態機構学講座，歯周病態学分野，教授 高柴正悟，40万円。

- 5) 平成25年度研究プロジェクト，2013年4月1日～2014年3月31日，研究組織：日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 教授 沼部幸博（代表者），日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 准教授 伊藤 弘，日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 准教授 関野 愉，日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 講師 村瀬悦子，日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 助教 石黒一美，日本歯科大学生命歯学部生化学講座 教授 今井一志，日本歯科大学附属病院総合診療科 准教授 小川智久，日本歯科大学附属病院総合診療科 講師 鈴木麻美，日本歯科大学附属病院総合診療科 講師 久野彰子，日本歯科大学生命歯学部，共同利用センター RI 施設 准教授 橋本修一，日本歯科大学生命歯学部，共同利用センター RI 施設 講師 戸円智幸，日本歯科大学生命歯学部，共同利用センター 准教授 那須優則，日本歯科大学生命歯学部，高齢者歯科学 教授 羽村 章，研究課題名：レーザー照射は歯周治療後の治癒促進に寄与するか？，一臨床的・生化学的見地から一，100万円。
- 6) 株式会社松風からの委託研究，2013年4月1日～2014年3月31日，研究組織：日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 教授 沼部幸博（代表者），日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 講師 村瀬悦子，日本歯科大学生命歯学部歯周病学講座 助教 石黒一美，研究課題名：超音波スクレーラーに関するアンケート調査（継続中），50万円。

8. 研究業績

A. 著書

1. 沼部幸博（分担執筆）：どうやって調べるの？治療方針を決める検査と診断，日本歯周病学会・日本臨床歯周病学会共同編集，週刊朝日 MOOK 長生きのカギは歯の健康 専門医が教える歯の守り方 歯周病の予防と再診治療，朝日新聞出版，東京，2013年，ISBN No. 60151-22.
2. 沼部幸博（監修）：歯と口の力 UP ナビ いつまでも自分の歯で食べるために，東京法規出版，東京，2013年，ISBN No. HE153350-O13.
3. 沼部幸博（監修）：高齢期の歯と口の健康づくり（リーフレット），東京法規出版，東京，2013年.
4. 沼部幸博：8020日歯 TV タバコは口の中にどう影響するの？，（収録時間5分02秒）企画・製作 日本歯科医師会，東京，<http://www.jda.or.jp/tv/63.html>，2013年9月.
5. 沼部幸博：8020日歯 TV タバコと歯周病，（収録時間5分23秒）企画・製作 日本歯科医師会，東京，<http://www.jda.or.jp/tv/64.html>，2013年9月.
6. 沼部幸博，野村正子：NHK 健康番組100選 きょうの健康 歯の病気 実はこわい歯周病徹底対策，NHK DVD（収録時間58分）企画・製作 NHK エデュケーショナル，発行・販売元 NHK エンタープライズ，東京，2014年2月.
7. 沼部幸博，山中美智子，坂井雅子：NHK 健康番組100選 ここが聞きたい名医に Q 要注意！女性の歯周病，NHK DVD（収録時間88分），企画・製作 NHK エデュケーショナル，発行・販売元 NHK エンタープライズ，東京，2014年2月.

8. 沼部幸博：歯周病（web上で歯周病についての解説），ドクターズガイド，トップページ：
<http://dr-guide.net/www/>，一覧ページ：<http://dr-guide.net/www/?p=2245>，記事ページ：
<http://dr-guide.net/www/?p=5945>，関連情報。
一覧ページ：<http://dr-guide.net/www/?p=5603>，すべての情報を探す歯周病 / 株式会社ソー
シャライズ ドクターズガイド編集部，東京，2014年。
9. 沼部幸博（分担執筆）：和泉雄一，沼部幸博，山本松男，木下淳博 編，第3章 検査，診断と治
療，2. 歯周病の検査，70-77，ザ・ペリオドントロジー 第2版，永末書店，東京，2014年，
ISBN：978-4-8160-1266-2。
10. 関野 愉（分担執筆）：和泉雄一，沼部幸博，山本松男，木下淳博 編，I. 歯周基本治療と再
評価，第4章 歯周炎および慢性歯周炎における治療法，10. 抜歯の判定基準，122-123，ザ・
ペリオドントロジー 第2版，永末書店，東京，2014年，ISBN：978-4-8160-1266-2。
11. 関野 愉（分担執筆）：和泉雄一，沼部幸博，山本松男，木下淳博 編，I. 歯周基本治療と再
評価，第4章 歯周炎および慢性歯周炎における治療法，12. 再評価，124-125，ザ・ペリオド
ントロジー 第2版，永末書店，東京，2014年，ISBN：978-4-8160-1266-2。
12. 沼部幸博（分担執筆）：和泉雄一，沼部幸博，山本松男，木下淳博 編，第5章 ライフステージ
を通じた歯周治療，3. 女性の歯周病，199，ザ・ペリオドントロジー 第2版，永末書店，東
京，2014年，ISBN：978-4-8160-1266-2。
13. 沼部幸博（分担執筆）：和泉雄一，沼部幸博，山本松男，木下淳博 編，第9章 ペリオドンタル
メディシン，1. ペリオドンタルメディシンの定義，244，ザ・ペリオドントロジー 第2版，
永末書店，東京，2014年，ISBN：978-4-8160-1266-2。
14. 米山武義，沼部幸博（分担執筆）：和泉雄一，沼部幸博，山本松男，木下淳博 編，第9章 ペリ
オドンタルメディシン，7. 歯周炎と誤嚥性肺炎，256，ザ・ペリオドントロジー 第2版，永
末書店，東京，2014年，ISBN：978-4-8160-1266-2。
15. 伊藤 弘（分担執筆）：和泉雄一，沼部幸博，山本松男，木下淳博 編，V. その他の治療，第
10章 歯周組織の突発病変への対応，7. ポケットの再発，270-271，ザ・ペリオドントロジー
第2版，永末書店，東京，2014年，ISBN：978-4-8160-1266-2。
16. 関野 愉（分担執筆）：N 歯・口腔疾患，579-580，クエスチョン・バンク 看護師国家試験問
題解説2014 第14版，MEDIC MEDIA，東京，2013年，ISBN：978-4896324709。
17. 関野 愉（分担執筆）：IV. 看護技術の基礎知識，219 口腔ケア，192，クエスチョン・バンク
Select 必修2014看護師国家試験問題集第9版，MEDIC MEDIA，東京，2013年，ISBN：978-
4896324723。
18. 関野 愉（分担執筆）：N 章 歯・口腔疾患，N1-N9看護師・看護学生のためのレビューブック
2015 第16版，MEDIC MEDIA，東京，2014年，ISBN：978-4896325188。
19. 加治初彦，加治彰彦（分担執筆）：矯正専門医とのインターディシプリナリーアプローチ 矯正
治療を併用した症例，180-186，インプラント治療の根拠とその実践，米国歯科大学院同窓会
編，クインテッセンス出版，東京，2014年。

20. 加治彰彦（分担執筆）：矯正装置 簡便な矯正装置で最大の治療効果を得るために，137，ザ・クインテッセンス，クインテッセンス出版，東京，2014年．

B. 原著

1. Ito H, Numabe Y, Sekino S, Murakashi E, Iguchi H, Hashimoto S, Sasaki D (18th) (18 authors). Evaluation of bleeding on probing and gingival crevicular fluid enzyme activity for detection of periodontally active sites during supportive periodontal therapy, *○ Odontology*, 2014 ; 102 : 50-56. DOI : 10.1007/s10266-012-0090-1.
2. Kaji A, Sekino S, Ito H, Numabe Y. Influence of mandibular fixed orthodontic retainer on periodontal health, *○ Aust Orthod J*, 2013 ; 29 (1) : 76-85.
3. 関野 愉, 石黒一美, 中田智之, 沼部幸博. 歯学生のリサーチマインドを育成する「生命歯学探究」の実際, *○日歯周誌*, 2013 ; 55 (4) : 366-370.
Sekino S, Ishiguro H, Nakada T, Numabe Y. Research for Life Dental Science Which Stimulates Dental Students' Research Minds *Nihon Shishubyo Gakkai Kaishi (Journal of the Japanese Society of Periodontology)*, *○ J Jpn Soc Periodontol*, 2013 ; 55 (4) : 366-370.
4. 大久保美佐, 石黒一美, 中田智之, 沼部幸博. 白色 LED 照射による *Porphyromonas gingivalis* の殺菌効果, *○日レーザー歯会誌*, 2013 ; 24 (2) : 68-71. DOI : 10.5984/jjpsoclaserdent.24.68.
Ohkubo M, Ishiguro H, Nakada T, Numabe Y. Bactericidal effect against *Porphyromonas gingivalis* by white LED irradiation, *○ J Jpn. Soc. Laser Dent*, 2013 ; 24 (2) : 68-71. DOI : <http://dx.doi.org/10.5984/jjpsoclaserdent.24.68>.
5. *吉橋直弥, 村樫悦子, 武内（五十嵐）寛子, 沼部幸博. Nd : YAG レーザーがヒト歯肉線維芽細胞に与える影響について —照射出力および照射距離に関する検討—, *○日本レーザー歯学会誌*, 2013 ; 24 (2) : 72-82, DOI : <http://dx.doi.org/10.5984/jjpsoclaserdent.24.72> (学位論文)
Yoshihashi N, Murakashi E, Igarashi T H, Numabe Y. The effect of Nd-YAG Laser irradiation on human gingival fibroblasts. -A study of the irradiation output and distance-, *○ J Jpn. Soc. Laser Dent*, 2013 ; 24 (2) : 72-82. DOI : <http://dx.doi.org/10.5984/jjpsoclaserdent.24.72>
6. 武内 - 五十嵐寛子, 村樫悦子, 沼部幸博. Nd : YAG レーザー照射がマウス頭蓋冠由来骨芽細胞様細胞 (MC3T3-E1) に与える影響について, *○日歯保存誌*, 2013 ; 56 (4) : 335-343.
Takeuchi I H, Murakashi E, Numabe Y. Effect of Nd : YAG Laser irradiation on MC3T3-E1, *○ Jpn J Conserv*, 2013 ; 56 (4) : 335-343.
7. 伊藤 弘, 小川智久, 沼部幸博. 短期間禁煙が GCF エラスターゼ活性と唾液成分に及ぼす影響, *○日歯ドック誌*, 2013 ; 8 (1) : 61-67.
Ito H, Ogawa T, Numabe Y. The Effects of Short Term Smoking Cessation on GCF Elastase Activity and Salivary Component, *○ Journal of the Japan Academy of Dental Human Dock*, 2013 ; 8 (1) : 61-67.

C. 総説・解説

1. 沼部幸博：しっかり予防，しっかり治療 歯周病（歯周炎），こまど，33，12-13
2. 沼部幸博：平成24年度 第3回学術講演会開催さる，「歯周病は治せないのか？」—罹率8割への挑戦—，富士見（東京都日本歯科大学校友会々誌），東京都日本歯科大学校友会，5月15日 第165号：2，2013.
3. 沼部幸博，伊藤 弘，渡辺 久，和泉雄一：歯肉溝滲出液迅速診断キットによる歯周組織のモニタリング，歯界展望，特別号（お口の健康 全身元気—各世代の最新歯科医療）：169，2013.
4. 沼部幸博：企画にあたって，イラストで見るペリオドンタルメディシン，—2013年の現在，どこまでわかっているのか—，ザ・クインテッセンス，32（6）：40-41，2013.
5. 沼部幸博：呼吸器疾患との関連，イラストで見るペリオドンタルメディシン，—2013年の現在，どこまでわかっているのか—，ザ・クインテッセンス，32（6）：42-43，2013.
6. 沼部幸博：おわりに，イラストで見るペリオドンタルメディシン，—2013年の現在，どこまでわかっているのか—，ザ・クインテッセンス，32（6）：52-53，2013.
7. 関野 愉：From International Journals LEDを用いた光線力学療法は歯周炎の治療にどの程度効果があるのか？，ザ・クインテッセンス，32（6）：212-213，2013.
8. 関野 愉：From International Journals 部分欠損と全顎欠損の場合でインプラント周囲組織に違いがあるのか？，ザ・クインテッセンス，32（8）：205-206，2013.
9. 関野 愉：From International Journals 抜歯後の軟組織の収縮は妨げるのか？，ザ・クインテッセンス，32（10）：202-203，2013.
10. 関野 愉：From International Journals 抜歯後の軟組織の収縮は妨げるのか？，ザ・クインテッセンス，33（1）：190-191，2014.
11. 沼部幸博：「ふらぬうる」のすすめ，ザ・クインテッセンス，33（2）：141，2014.
12. 関野 愉：Report 二大巨頭による特別講演「Prof. Jan Lindhe & Prof. Niklaus Lang」，ザ・クインテッセンス，33（3）：204-205，2014.
13. 沼部幸博：歯科と喫煙 その2，りぶるデンタルクリニック，りぶる，377（8）：64-65，2013.
14. 沼部幸博：歯科と喫煙 その1，りぶるデンタルクリニック，りぶる，376（7）：56-57，2013.
15. 沼部幸博，野村正子：実はこわい歯周病 徹底対策，NHK きょうの健康 一生いきいき！ 健康ダイアリー—2014年版，132，株式会社主婦と生活社，東京，2013.
16. 沼部幸博：本当に怖い歯周病のQ&A，だいちから，33，20-21，健康家族，鹿児島，2014.
17. 関野 愉：歯周治療のための最新のエビデンス 第2回 歯周基本治療について，月刊保団連，（4）：1120，48-52，2013.
18. 関野 愉：歯周治療のための最新のエビデンス 第3回 歯周外科手術とサポータティブペリオドンタルセラピー，月刊保団連，（4）：1124：53-59，2013.
19. 関野 愉：「実験的歯肉炎」を読み直す，日本顎咬合学会誌 咬み合わせの科学，33（1/2）：95-98，2013.
20. 関野 愉：Dr. セキノのペリオの“なぜ”に答えます!! 第4回 なぜ，歯周治療にブラッシン

- グが必要なのですか？, デンタルハイジーン, 33 (4) : 345-348, 2013.
21. 関野 愉 : Dr. セキノのペリオの“なぜ”に答えます!! 第5回 歯周治療をすると, なぜ歯周ポケットが浅くなるのですか? デンタルハイジーン, 33 (5) : 457-460, 2013.
22. 関野 愉 : Dr. セキノのペリオの“なぜ”に答えます!! 〈最終回〉第6回 なぜ, 根分岐部病変は治りにくいのですか?, デンタルハイジーン, 33 (6) : 609-612, 2013.
23. 関野 愉 : 年々増えつつある高齢者の歯周病 歯周基本治療実践のためにクリアすべきポイントは何?, 歯科衛生士, 38 (2) : 34-42, 2014.
24. 関野 愉 : 誰もが参加できる! グローバルスタンダードの DH 誌上大学院セミナー (第1回) 歯周病学編「歯周病の原因はプラーク」これはどのように証明されたのか?, 歯科衛生士, 38 (1) : 67-70, 2014.
25. 関野 愉 : 誰もが参加できる! グローバルスタンダードの DH 誌上大学院セミナー (第2回) 歯周病学編 なぜ BoP は歯周病の診査の指標といえるのか?, 歯科衛生士, 38 (2) : 59-62, 2014.
26. 関野 愉 : 誰もが参加できる! グローバルスタンダードの DH 誌上大学院セミナー (第3回) 歯周病学編 適切なプロービング圧とは何 N なのか?, 歯科衛生士, 38 (3) : 67-70, 2014.
27. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル インプラント周囲炎はどのくらい発症するのか?, DHstyle, 7 (4) : 64-65, 2013.
28. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル カンジダは歯周炎の進行にかかわっている?, DH-style, 7 (5) : 72-73, 2013.
29. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 歯周治療における咬合調整の位置づけは?, DHstyle, 7 (6) : 68-69, 2013.
30. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 続・インプラント周囲に角化粘膜は必要?, DHstyle, 7 (7) : 68-69, 2013.
31. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 歯ブラシの毛の硬さは歯肉の外傷にどれだけ影響するか?, DHstyle, 7 (8) : 68-69, 2013.
32. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 細菌検査に基づいた抗菌療法は有効?, DHstyle, 7 (9) : 82-83, 2013.
33. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 矯正治療装置が装着されている場合に有効な口腔衛生法のプロトコルとは?, DHstyle, 7 (10) : 64-65, 2013.
34. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 歯周病と早産・低体重時出産はあまり関係がない?, DHstyle, 7 (11) : 78-79, 2013.
35. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル プラークコントロールは殿くらいの間隔で行えばよい?, DHstyle, 7 (12) : 74-75, 2013.
36. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル プロバイオティクスは歯肉炎, プラーク形成にどう影響する?, DHstyle, 8 (1) : 70-71, 2014.
37. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 歯周炎の治療にプロバイオティクスは効果的?, DH-

style, 8 (2) : 80-81, 2014.

38. 関野 愉 : Let's study 海外ジャーナル 脳性麻痺患者の介護者によるブラッシングに適した歯ブラシは？, DHstyle, 8 (3) : 84-85, 2014.
39. 佐野哲也 : 特集 歯周基本治療でどこまで歯周病は治せるか？, 1 エビデンスに基づいた歯周治療における非外科・外科の境界線, DH Style, 7 (9) : 21-35, 2013.

D. 報告（臨床・症例・研究等）・紀要

1. 沼部幸博 : 皆さんの目標, 2013 MILCHZAHN, 日本歯科大学2013年度新入生歓迎会実行委員会, (株)福田印刷, 4, 4月, 2013.
2. 沼部幸博 : 富士見祭で「Link」する, 第58回 (2013年) 富士見祭パンフレット, 日本歯科大学生命歯学部学生会, (株)福田印刷, 3, 10月, 2013.
3. 石黒一美 : 平成25年度 SCRP 臨床部門第2位受賞と生命歯学探究実習, 日本歯科大学校友会・歯学会会報, 39 (2) : 61, 2013.

E. 翻訳

1. David L. Cochran (原本 DVD), The American Academy of Periodontology The 98th annual meeting-2012 : Growth Factor or Cells : Maximizing Regenerative Potential Part 1.
デビット L コックラン, 沼部幸博 (翻訳・監訳) : 第98回 アメリカ歯周病学会, 歯周組織再生の可能性を最大限に高めるのは成長因子か？それとも細胞か？, 第1巻 (38分), ジャパンライム オリジナル DVD シリーズ, ジャパンライム株式会社, 東京, 2013年.
2. Marc L. Nevins (原本 DVD), The American Academy of Periodontology The 98th annual meeting-2012 : Growth Factor or Cells : Maximizing Regenerative Potential Part 1.
マーク L ネビンス, 沼部幸博 (翻訳・監訳) : 第98回 アメリカ歯周病学会, 歯周組織再生の可能性を最大限に高めるのは成長因子か？それとも細胞か？, 第2巻 (39分), ジャパンライム オリジナル DVD シリーズ, ジャパンライム株式会社, 東京, 2013年.
3. Ole Fejerskov, Edwina Kidd (編集), Dental Caries ~ The Disease and its Clinical Management ~ 2nd edition. 佐野哲也 (分担翻訳) 高橋信博, 恵比須繁之 (監訳) : Part1 齲蝕とその診断, 第5章 齲蝕診断のための X 線写真 p.61-69, デンタルカリエス その病態と臨床マネジメント 原著第2版, 医歯薬出版, 2013年.

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. Igarashi H, Murakashi E, Numabe Y. The effect of smoking cessation on human periodontal tissue, 2nd Meeting of the International Association for Dental Research Asia Pacific Region Program and Abstract Book, 157, 2013.
2. Murakashi E, Takeuchi I H, Yoshihashi Y, Numabe Y. The effect of Nd : YAG laser irradiation on human gingival fibroblasts, 2nd Meeting of the International Association for Dental Research Asia

Pacific Region Program and Abstract Book, 160, 2013.

3. 関野 愉, 高橋亮一, 沼部幸博: 高萩市民における角化歯肉幅と歯周組織の健康状態との関連性について, 日歯周誌, 55 (春季特別号): 108, 2013.
4. 加藤智崇, 沼部幸博: ラット歯根膜・骨髄間葉系細胞の骨分化に高血糖状態が及ぼす影響, 日歯周誌, 55 (春季特別号): 109, 2013.
5. 倉治竜太郎, 伊藤 弘, 石井マイケル大宜, 橋本修一, 沼部幸博: 口腔清掃後歯肉溝滲出液 (GCF) に観察された出血反応 (Hemoglobin) の回復, 日歯周誌, 55 (秋季特別号): 37, 2013.
6. 沼部幸博, 伊藤 弘, 石井マイケル大宜, 倉治竜太郎, 橋本修一: 歯肉溝滲出液 (GCF) 中 Hemoglobin (Hb) 検出を応用した歯周病迅速診断キットの概要, 日歯周誌, 55 (秋季特別号): 37, 2013.
7. 伊藤 弘, 沼部幸博, 橋本修一, 森田 学, 稲垣幸司, 埴岡 隆, 王 宝禮, 藤井健男, 山本龍生, 両角俊哉: 喫煙は歯周治療における超過医療費因子となりうるか? —禁煙治療歯科保険導入を目指して—, 日歯周誌, 55 (秋季特別号): 38, 2013.
8. 関野 愉, 高橋亮一, 沼部幸博: 高萩市民における角化歯肉幅と歯周組織の健康状態との関連性について —2年間の縦断研究結果—, 日歯周誌, 55 (秋季特別号): 42, 2013.
9. 野村義明, 中川種昭, 両角俊哉, 菅谷 勉, 鈴木史彦, 阿部祐三, 大井麻子, 高野聡美, 中山洋平, 小林宏明, 菅野直之, 関野 愉, 深谷千絵, 吉成伸夫, 福田光男, 河野智生, 藤瀬修, 吉村篤利, 中村利明, 角田衣理加, 高柴正悟, 吉江弘正: 歯周ポケット内細菌検査および血漿抗体価検査による SPT 期進行の予知判定, 日歯周誌, 55 (秋季特別号): 40, 2013.
10. 五十嵐 (武内) 寛子, 沼部幸博: 突発性慢性歯肉増殖症を有する患者の一症例 CCN2/CTGF の発現の検討, 日歯保誌, 春季特別号: 156, 2013.
11. 伊藤 弘, 沼部幸博, 戸円智幸, 橋本修一, 八重柏隆, 小方頼昌, 和泉雄一, 永田俊彦: 歯肉溝滲出液 (GCF) における Hemoglobulin (Hb) 検査を用いた PPD・BOP 検査精度の検証, 日歯保誌, 春季特別号: 62, 2013.
12. 石井マイケル大宜, 伊藤 弘, 倉治竜太郎, 橋本修一, 沼部幸博: 歯肉溝滲出液 (GCF) における酵素活性と ALP 活性との関連について, 日歯保誌, 秋季特別号: 65, 2013.
13. 五十嵐 (武内) 寛子, 村樫悦子, 立花利公, 岡部正隆, 沼部幸博: ヒト歯根膜由来血管内皮細胞に対する CCN2/CTGF の血管形成に関する研究, 日歯保誌, 秋季特別号: 96, 2013.
14. 伊藤 弘, 関野 愉, 村樫悦子, 石黒一美, 沼部幸博, 戸円智幸, 橋本修一, 佐々木大輔, 八重柏隆, 國松和司, 高井英樹, 目澤 優, 小方頼昌, 渡邊 久, 萩原さつき, 和泉雄一, 廣島佑香, 木戸淳一, 永田俊彦: 歯肉溝滲出液 (GCF) の pH における一考察, 日歯保誌, 秋季特別号: 217, 2013.
15. 高橋亮一, 関野 愉, 伊藤 弘, 沼部幸博: 歯周疾患のスクリーニング検査としてアンケート調査および唾液検査の有用性, 日歯保誌, 秋季特別号: 230, 2013.
16. 五十嵐 (武内) 寛子, 久保田聡, 立花利公, 村樫悦子, 岡部正隆, 滝川正春, 沼部幸博: Nic-

otine 誘導性 CCN2/CTGF がヒト歯周組織由来培養細胞の線維化に与える影響, Journal of Oral Biosciences Supplement 2013, 154, 2013.

17. 関野 愉, 久野彰子, 菊谷 武, 田村 文, 沼部幸博: 介護老人福祉施設入居者における歯周炎の各種スクリーニング検査の有効性, 第25回老年歯科医学学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 198, 2013.
18. 村檜悦子, 沼部幸博: 広汎型慢性歯周炎患者の歯周治療に Er: YAG レーザーを応用した一症例 (臨床報告), 第24回日本レーザー歯学会総会・学術大会プログラム・講演抄録集, 62, 2013.
19. 村檜悦子: 広汎型慢性歯周炎患者の歯周治療に Er: YAG レーザーを応用した一症例—Er: YAG レーザーを歯周治療で使いこなすために—, 第3回日本歯周病学会関東9大学・日本臨床歯周病学会関東支部合同研修会・講演抄録集, 3, 2014.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 沼部幸博: 喫煙と歯科疾患, 第22回日本臨床環境医学会学術集会シンポジウム2, 北里大学白金キャンパス, 薬学部コンベンションホール, 東京, 2013年6月8日.
2. 沼部幸博: 白色 LED の歯周治療への応用—基礎研究と臨床応用への検討—, 第13回日本歯科用レーザー学会シンポジウム I, 東京, ベルサール新宿グラント, 2013年9月28日.

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 関野 愉: 科学的根拠に基づいた歯周治療, クラブ23, 八重洲倶楽部, 東京, 2013年4月7日.
2. 沼部幸博: 歯みがきはなぜ必要か —歯科医師になる君たちへ—, 袖ヶ浦セミナー, 日本歯科大学袖ヶ浦セミナーハウス, 千葉, 2013年4月15日.
3. 沼部幸博: 富士見浜浦フェスタ講演, 日本歯科大学に入学した理由, 圓山荘, 信州上山田温泉, 2013年4月20日.
4. 沼部幸博: 免疫応答と組織変化, 日本歯科大学新潟生命歯学部第3学年交換講義, 日本歯科大学新潟生命歯学部講堂, 新潟, 2013年5月14日.
5. 沼部幸博: 基調講演, 本年度の新入生の現状, 日本歯科大学第113回ワークショップ, 日本歯科大学生命歯学部第1会議室, 東京, 2013年5月21日.
6. 沼部幸博: 生命歯学部の入試, 日本歯科大学校友会・日本歯科大学合同入学試験説明会, 日本歯科大学生命歯学部九段ホール, 東京, 2013年6月23日.
7. 沼部幸博: 「あの」歯周治療をどう考えますか?—これは効く!という方法を検証する—, 愛媛県歯科衛生士会第2回第3次生涯研修会, 河原医療大学校, 愛媛, 2013年6月30日.
8. 沼部幸博: 教務部報告, 日本歯科大学生命歯学部保護者説明懇談会, 日本歯科大学生命歯学部富士見ホール, 東京, 2013年7月15日.

9. 沼部幸博：歯周病学大学院について，研修歯科医大学院説明会，日本歯科大学生命歯学部151講堂，東京，2013年7月17日．
10. 関野 愉：歯周基本治療を効率的に行うための戦略，岡山県校友会，岡山歯科医師会館，岡山，2013年7月21日．
11. 関野 愉：歯周治療を効果的に行うための戦略，浅草歯科医師会，浅草歯科医師会館，東京，2013年7月23日．
12. 沼部幸博：日本歯科大学生命歯学部的一般入試，日本歯科大学入学試験学内説明会，日本歯科大学生命歯学部九段ホール，東京，2013年7月24日．
13. 沼部幸博：臨床実地問題の解き方，第6学年臨床実施強化ゼミナール，日本歯科大学生命歯学部第1会議室，東京，2013年7月25日．
14. 沼部幸博：歯周病プロフェッショナルケアの最前線，ペリオドンタルメディシンと歯科衛生士，青森県歯科衛生士会講演会，アピオ青森，青森，2013年7月28日．
15. 沼部幸博：歯医者さんになろう！，2013年度日本歯科大学オープンキャンパス，日本歯科大学生命歯学部151講堂，東京，2013年8月24日．
16. 沼部幸博：「罹患率8割への挑戦」，歯周病は治らないのか？—歯科衛生士ができること—，CHP研究会，ガイアモレー株式会社飯田橋セミナールーム，東京，2013年8月25日．
17. 沼部幸博：歯科医師国家試験を見据えた診療参加型臨床実習，日本歯科大学生命歯学部第5学年ワークショップ，日本歯科大学富士見ホール，東京，2013年9月18日．
18. 五十嵐寛子：Harvard School of Dental Medicine My 4 month HSDM Life—歯周病専門医コースレジデントと生活を共にして—，留学基調講演，九段ホール，東京2013年10月3日．
19. 関野 愉：歯周治療を効果的に行うための戦略，愛媛県歯科医師会南予ブロック，ホテルクレメント宇和島，愛媛，2013年10月6日．
20. 沼部幸博：「罹患率8割への挑戦」，歯周病は治らないのか？—そして歯科衛生士の役割は？—，宮城県歯科衛生士会講演会，宮城県歯科医師会館，仙台，2013年10月27日．
21. 関野 愉：歯周病が治るとはどういうことか，ヘルスケア歯科学会，砂防会館，東京，2013年10月27日．
22. 関野 愉：“静かなる病気”歯周病を克服するには，米沢市歯科医師会 お口さわやか週間特別講演会，置賜総合文化センター，2013年11月9日．
23. 沼部幸博：歯周病予防で健康寿命アップ！，平成25年度都民向け講演会，日本歯科医師会館1階大会議室，東京，2013年11月10日．
24. 関野 愉：歯周病とインプラント治療，第13回 SIA インプラントコロキウム，ラフレさいたま，埼玉，2013年11月10日．
25. 加治彰彦：矯正治療の必要度について—特に小児期において—，EPSDC ペリオコース オープンセミナー，東京都港区ホテルフロラシオン青山，2013年11月17日．
26. 関野 愉：歯科衛生士が歯周治療にかかわるために2，茨城県歯科衛生士会，水戸歯科医師会館，茨城，2013年11月17日．

27. 関野 愉：歯と身体 の健康のための歯周病講座，高萩市生活習慣病予防講演会，高萩市総合福祉センター 1 階多目的ホール，茨城，2013 年 11 月 27 日．
28. 沼部幸博：糖尿病と歯周病との意外な関係，第 4 回横浜西部・中部地区 CDE フォーラム，ガーデンシティ横浜 ホール A，横浜，2013 年 11 月 30 日．
29. 関野 愉：抗菌療法の科学的根拠とは，CRC アカデミー，AFD 研修会室，東京，2013 年 12 月 1 日．
30. 沼部幸博：「罹患率 8 割への挑戦」，歯周病は治せないのか？，平成 25 年度京都府歯科医師会第 3 回学術講演会，京都府歯科医師会館，京都，2013 年 12 月 7 日．
31. 沼部幸博：歯周病と喫煙，歯科衛生士の役割，静岡県歯科衛生士会「ペリオ講演会」，静岡県立大学短期大学部講堂，静岡，2013 年 12 月 15 日．
32. 関野 愉：科学的根拠に基づいた歯周治療，中野予防歯科研修会，日本大学歯学部 4 号館 3 階講堂，東京，2013 年 12 月 15 日．
33. 関野 愉：歯周病は治せないのか？罹患率 8 割への挑戦，院内研修会，田中歯科医院，東京，2014 年 1 月 18 日．
34. 沼部幸博：「罹患率 8 割への挑戦」，一歯周病は治せないのか？そして歯科衛生士の役割は？一，神奈川県歯科衛生士会講演会，神奈川県歯科保険総合センター 501 研修室，横浜，2014 年 1 月 26 日．
35. 関野 愉：臨床のための歯周病学の知識のブラッシュアップ，ABC 研究会，市ヶ谷桜門会館，東京，2014 年 1 月 26 日．
36. 沼部幸博：罹患率 8 割に対する挑戦—歯周病は治せないのか？—，栃木県日本歯科大学校友会学術講演会，ホテルニューイタヤ，宇都宮，2014 年 2 月 9 日．
37. 関野 愉：歯科医師としての道のり，宮城県仙台第三高等学校社会人による出前講義，宮城県仙台第三高等学校，宮城，2014 年 2 月 14 日．
38. 関野 愉：ペリオの疑問を解決する時間，サンデンタル・アドバンス・セミナー，サンデンタル東京営業所研修室，東京，2014 年 2 月 16 日．
39. 関野 愉：歯周治療のドグマと真理について ～散乱する情報に惑わされないために～，葛飾区歯科医師会学術講演，葛飾歯科医師会館，東京，2014 年 2 月 19 日．
40. 関野 愉：エビデンスに基づいた歯周基本治療，いわき市歯科医師会学術講演，クレールコート，福島，2014 年 2 月 22 日．
41. 沼部幸博：罹患率 8 割に対する挑戦—歯周病は治せないのか？—，旭市歯科医師会学術講演会，ホテルサンモール，旭市，2014 年 2 月 23 日．
42. 沼部幸博：喫煙と歯周病，平成 25 年度臨床実習生オリエンテーション，牛込ホール，東京，2014 年 3 月 14 日．
43. 沼部幸博：歯周病予防で健康寿命アップ！，向島保健センター・本所保健センター歯科講演会，すみだりバーサイドホールイベントホール，東京，2014 年 3 月 19 日．
44. 沼部幸博，伊藤 弘，関野 愉，村慇悦子，石黒一美，今井一志，小川智久，鈴木麻美，久野

彰子，橋本修一，戸田智幸，那須優則，羽村 章：平成25年度研究プロジェクト研究報告会，
レーザー照射は歯周治療後の治癒促進に寄与するか？—臨床的・生化学的見地から—，日本
歯科大学生命歯学部 九段ホール，東京，2014年3月31日．

● 歯科補綴学第 1 講座

Department of Partial and Complete Denture

1. 所属構成員等

教 授	志賀 博
准 教 授	横山 正起
講 師	小池 麻里
助 教	渡邊 篤士
非常勤講師	渡邊 誠, 赤川 安正, 佐藤 泰彦, 田中 武, 沖 淳 中野 幸夫, 藤井 重壽, 菊地 康記, 難波 鍊久, 小松 義典 王 孝, 林 清平, 内藤 順, 稲富 健祐, 寺辺やよひ 武田 悦孝, 村上 義和, 石川 忠, 萩原 彰, 岩波 行紀 高草木 章, 石原 裕之, 仁村秀由喜, 芳賀 景嗣, 中島 邦久 田中 彰, 萩沢 宏美, 荒川 一郎, 松尾 卓, 千綿 一郎 田口 智久, 千切 一恵, 石川 礼乃, 橋本 真 大 学 院 生 田村 響子, 上杉 華子, 岡田 大和, 小見野真梨恵

2. 研究テーマ

- 1) ヒトの睡眠中の Bruxism に関する臨床的研究 Clinical study on bruxism in human during sleep.
- 2) 咀嚼運動の機能的分析 The analysis of masticatory movements.
- 3) 血糖測定機器による簡便な咀嚼能率の評価法 A simplified method of evaluation for masticatory efficiency by glucose meter.
- 4) 側頭下顎障害患者の精神内分泌反応 The psychoendocrine responses of the patients with temporomandibular disorders.
- 5) 人工歯咬合面形態と下顎運動機能 Occlusal morphology of artificial teeth and mandibular movement.
- 6) 顎関節音に関する臨床的研究 Clinical study on TMJ sound.
- 7) EMG パワースペクトルの分析による咀嚼筋機能の定量的評価 Quantitative evaluation of masticatory muscle function using EMG power spectral.
- 8) 近赤外分光装置による脳内血流の変化 Change in brain blood flow using near-infrared spectroscopy.
- 9) 咀嚼運動経路のパターンと側方咬合位の咬合接触状態との関係 Relationship between masticatory path patterns and occlusal contacts at lateral position.
- 10) 小型の下顎運動記録装置の開発 Developing a compact device for measuring mandibular movement.

- 11) 側頭下顎障害患者の咀嚼機能と咀嚼能力 Masticatory function and masticatory performance in TMD patients.
- 12) 味の違いが脳波に及ぼす影響 The effect of taste of food on brain wave.
- 13) 有床義歯装着者の咀嚼能力 Masticatory performance in removable denture wearers.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

特許出願

- 1) 志賀 博, 中原 泉, 山村晴雄, 東 輝明, 福岡 伸: 歯科用咬合力測定装置 国際特許分類 A61B 5/11, 出願番号2014-65781号, 2014年3月27日.
- 2) 志賀 博, 中原 泉, 山村晴雄, 吉田一郎: 顎運動測定装置 国際特許分類 A61C 19/045, 出願番号2014-65787号, 2014年3月27日.

4. 学位取得者

記載事項なし

5. 主催学会等

- 1) 平成25年度第1回日本歯科大学歯科補綴学第1講座大学院研修, 東京都千代田区・日本歯科大学生命歯学部第4会議室, 2013年7月18日.
- 2) 平成25年度第2回日本歯科大学歯科補綴学第1講座大学院研修, 東京都千代田区・日本歯科大学生命歯学部第4会議室, 2013年12月12日.
- 3) 平成25年度日本歯科大学学内校友会主催教育シンポジウム, 東京都千代田区・日本歯科大学九段ホール, 2014年3月11日.
- 4) 平成25年度第3回日本歯科大学歯科補綴学第1講座大学院研修, 東京都千代田区・日本歯科大学九段ホール, 2014年3月23日.

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

- 1) 日本学術振興会平成24年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) (継続), 課題番号24592937, 平成24～26年度, 志賀 博, 渡邊篤士, 診療室で簡便に使用できる小型・軽量かつ高精度な下顎運動記録装置の開発, 5,330,000円.
- 2) 日本学術振興会平成25年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) (新規), 課題番号25463032, 平成25～27年度, 横山正起, 志賀 博, 渡邊篤士, 小型軽量の無線 LAN 応用装置による夜間睡眠中の生体現象分析システムの開発, 4,810,000円.
- 3) 日本学術振興会平成25年度科学研究費補助金, 基盤研究 (C) (新規), 課題番号25463034, 平成

25～27年度，小池麻里，志賀 博，歯科用金属アレルギー患者の口腔内金属修復物の簡易かつ確実な成分分析方法の開発，4,420,000円。

8. 研究業績

A. 著書

1. 志賀 博（分担執筆）：第5章口腔疾患各論 全部床義歯による歯科欠損治療（1）診察・検査・診断・治療計画の立案，戸塚靖則，高戸 毅（監修），口腔科学，488-491，朝倉書店，東京，2013.
2. 志賀 博（分担執筆）：第5章口腔疾患各論 全部床義歯による歯科欠損治療（2）設計の考え方（治療方針と前処置），口腔科学，戸塚靖則，高戸 毅（監修），491-493，朝倉書店，東京，2013.

B. 原著

1. 志賀 博，石川礼乃，荒川一郎，中島邦久，横山正起，石川 忠：近赤外分光装置による咀嚼運動時と指の運動時の脳血流の変化，○日本全身咬合学会雑誌，19：54-58，2014.

C. 総説・解説

1. 志賀 博：かむ力 グミで測定，入れ歯検査，先進医療に，デーリー東北，2013年6月24日号：7面，2013.
2. 志賀 博：入れ歯着用時のかむ力，グミ用い簡易に測定，志賀教授（日本歯科大）ら手法開発，東奥日報，2013年6月24日号，4面，2013.
3. 志賀 博：グミでかむ力測定，入れ歯検査，先進医療に，福島民報，2013年6月24日号，8面，2013.
4. 志賀 博：入れ歯検査に新手法，かむ力 グミで測定，新潟日報，2013年6月27日号，23面，2013.
5. 志賀 博：かむ力 グミゼリーで簡単検査，入れ歯向けの新手法，先進医療認定，北海道新聞，2013年6月27日号，19面，2013.
6. 志賀 博：グミでかむ力測定，入れ歯検査，先進医療に，埼玉新聞，2013年6月29日号，17面，2013.
7. 志賀 博：かむ力 グミで簡単測定，入れ歯検査，先進医療に，下野新聞，2013年7月1日号，15面，2013.
8. 志賀 博：グミで簡単 かむ力測定，日本歯科大，入れ歯検査開発，宮崎日日新聞，2013年7月2日号，14面，2013.
9. 志賀 博：最新入れ歯検査，グミでかむ力を測定，琉球新報，2013年7月2日号，18面，2013.
10. 志賀 博：入れ歯検査 先進医療に，グミでかむ力簡単測定，日本歯科大教授ら開発，河北新

報, 2013年7月3日号, 19面, 2013.

11. 志賀 博: 入れ歯検査, グミゼリー使い保険も適用, かむ力測定に新手法, 日本歯科大教授ら開発, 茨城新聞, 2013年7月4日号, 13面, 2013.
12. 志賀 博: かむ力 グミで簡単測定, 入れ歯着用時, 日本歯科大教授ら開発, 四國新聞, 2013年7月5日号, 18面, 2013.
13. 志賀 博, 中島邦久, 田中 彰, 石川礼乃, 渡邊篤士, 小林義典: グミゼリー咀嚼時のグルコースの溶出量の測定による簡便かつ客観的な咀嚼能力検査法, 歯学, 100: 172-176, 2013.
14. 笛木賢治, 大久保力廣, 谷田部優, 荒川一郎, 有田正博, 井野智, 金森敏和, 河相安彦, 川良美佐雄, 小見山道, 鈴木哲也, 永田和裕, 細木真紀, 鱒見進一, 山内六男, 會田英紀, 小野高裕, 近藤尚知, 玉置勝司, 松香芳三, 塚崎弘明, 藤澤政紀, 馬場一美, 古谷野潔: 熱可塑性樹脂を用いた部分床義歯(ノンメタルクラスプデンチャー)の臨床応用, 日本補綴歯科学会誌, 5: 387-408, 2013.
15. Kenji Fueki, Chikahiro Ohkubo, Masaru Yatabe, Ichiro Arakawa, Masahiro Arita, Satoshi Ino, Toshikazu Kanamori, Yasuhiko Kawai, Misao Kawara, Osamu Komiyama, Tetsuya Suzuki, Kazuhiro Nagata, Maki Hosoki, Shin-ichi Masumi, Hideki Aita, Takahiro Ono, Hisatomo Kondo, Katsushi Tamaki, Yoshizo Matsuka, Hiroaki Tsukasaki, Masanori Fujisawa, Kazuyoshi Baba, Kiyoshi Koyano, Hirofumi Yatani: Clinical application of removable partial dentures using thermoplastic resin, Part I: Definition and indication of non-metal clasp dentures, Journal of Prosthodontic Research, 58: 3-10, 2014.
16. Mari Koike, Richard Mitchell, Toru Okabe. Metallurgical characterization of high- copper amalgams, a brief history. Journal of Japanese Society for Dental Materials and Devices, 33: 33-36, 2014.

D. 報告(臨床・症例・研究等)・紀要

記載事項なし

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 渡邊篤士, 志賀 博, 高草木章, 小池拓郎, 松山喜昭, 山岸春海, 藤田まどか, 宮本敦子, 会沢咲子: 一般高齢者におけるグミゼリー咀嚼時のグルコースの溶出量の測定による咀嚼能力, 日本老年歯科医学会第24回学術大会プログラム・抄録集, 118, 2013.
2. 高草木章, 会沢咲子, 藤田まどか, 平野浩彦, 渡邊篤士, 志賀 博: 相馬市応急仮設住宅入居被災者に対する「口腔機能向上プログラム」の効果, 日本老年歯科医学会第24回学術大会プログラム・抄録集, 121, 2013.

3. 志賀 博, 中島邦久, 荒川一郎, 横山正起, 渡邊篤士: 小型・軽量な下顎運動記録装置の開発, 日本顎関節学会雑誌, 25・第26回大会特別号: 106, 2013.
4. 平賀 泰, 志賀 博, 高森 等, 横山正起, 小倉 晋: インプラント応用患者における咀嚼能力と口腔関連 QOL との関係, 日本口腔インプラント学会誌, 26・特別号: 212, 2013.
5. 田村響子, 志賀 博, 中島邦久, 横山正起, 渡邊篤士: 咀嚼運動リズムにおける性差, 日本咀嚼学会第24回学術大会プログラム・抄録集, 44, 2013.
6. 田村響子, 志賀 博, 中島邦久, 横山正起, 渡邊篤士: 咀嚼運動経路における性差, 平成25年度(公社)日本補綴歯科学会東京支部総会・第17回学術大会プログラム・抄録集, 23, 2013.
7. 小池麻里, 志賀 博, 三橋扶佐子: 異なる採取方法が金属成分分析に与える影響, 平成25年度(公社)日本補綴歯科学会東京支部総会・第17回学術大会プログラム・抄録集, 27, 2013.
8. 小池麻里, 志賀 博: 全身症状を伴った金属アレルギー患者における口腔内修復金属同定法の検討, 第23回日本全身咬合学会学術大会プログラム・抄録集, 23, 2013.
9. 平賀 泰, 志賀 博, 小倉 晋, 佐藤奈保子, 高森 等: インプラント治療患者における口腔関連 QOL と咀嚼能力との関係, 機能の制限, 痛み, 心理的不快感について, 第17回(公社)日本顎顔面インプラント学会学術大会プログラム・抄録集, 201, 2013.
10. 平賀 泰, 志賀 博, 小倉 晋, 石井通勇, 高森 等: インプラント治療患者における口腔関連 QOL と咀嚼能力との関係, 身体的障害, 心理的障害, 社会的障害, ハンディキャップについて, 第17回(公社)日本顎顔面インプラント学会学術大会プログラム・抄録集, 202, 2013.
11. Mari Koike, Susan K. Hummel, Hiroshi Shiga: Detecting Alloy Constitution from Adhered Metal on Abrasive Points, 43rd Annual Meeting & Exhibition of the American Association for Dental Research, Journal of Dental Research, 93 (Special Issue A): 802, 2014.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 志賀 博: 科学的検証から分かる身体に良い咀嚼パターンと咀嚼能力, 生涯の健康を見据えた歯科補綴学, NPO 法人恒志会主催第6回創健フォーラム「健康長寿の秘訣 食生活と健全な口腔機能」, 科学的根拠からの検証, シンポジウム, 東京都千代田区・日本歯科大学九段ホール, 2013年9月23日.
2. 志賀 博: 噛む効用を考える, 食・育・医の立場から, 咀嚼の機能の向上による健康長寿, 特定非営利活動法人日本咀嚼学会主催第19回咀嚼と健康ファミリーフォーラム, シンポジウム, 東京都千代田区・有楽町朝日ホール, 2013年11月12日.
3. 志賀 博: インプラント応用患者の咀嚼機能, 第17回(公社)日本顎顔面インプラント学会学術大会シンポジウム3「補綴処置を考える」, シンポジウム, 東京都千代田区・日本歯科大学富士見ホール, 2013年12月1日.

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 志賀 博：新しい医療技術 ―保険収載を目指して―，平成25年度大阪歯科大学研修セミナー，大阪府中央区・大阪歯科大学天満橋附属病院7階共用会議室，2013年4月5日。
2. 志賀 博：生命維持に関わるお口の機能，特に咀嚼機能，平成25年度品川区シルバー大学いきいきコース，東京都品川区・こみゅにていぷらざ八潮，2013年7月1日，8日。
3. 村上義和：総義歯補綴における13年間の経過観察，平成25年度第1回日本歯科大学歯科補綴学第1講座大学院研修，東京都千代田区・日本歯科大学生命歯学部第4会議室，2013年7月18日。
4. 志賀 博：咀嚼の評価，検査法と評価法，日本咀嚼学会第14回健康咀嚼指導士認定教育研修講演，東京都文京区・東京医科歯科大学歯学部歯科棟南特別講堂，2013年8月25日。
5. 志賀 博：有床義歯補綴治療における機能検査，平成25年度奥羽大学歯学部研修セミナー，福島県郡山市・奥羽大学歯学部，2013年8月26日。
6. 志賀 博，加藤 均，服部佳功：咬合力，咀嚼能力，咀嚼運動の相互連関について，日本顎口腔機能学会第8回顎口腔機能セミナー，北海道札幌市・北広島クラッセホテルクラッセホール，2013年9月7日。
7. 志賀 博：医学統計の基礎知識，日本顎口腔機能学会第8回顎口腔機能セミナー，北海道札幌市・北広島クラッセホテルクラッセホール，2013年9月8日。
8. 志賀 博：健康維持の秘訣はおいしく食べられる口，新宿区保健事業お口の健康講座「上手な咀嚼は健康長寿」，東京都新宿区・牛込保健センター，2013年10月29日。
9. 志賀 博：難症例に対応する総義歯の咬合について，東京都大田区大森歯科医師会学術講演会，東京都大田区・大森歯科医師会館，2013年10月30日。
10. 赤川安正：インプラント研究と臨床の Integrity，平成25年度日本歯科大学第3回大学院セミナー，東京都千代田区・日本歯科大学九段ホール，2013年11月21日。
11. 志賀 博：総義歯と咬合，噛める義歯のための咬合の与え方，東京都北区北歯科医師会学術講演会，東京都北区・北歯科医師会館，2013年11月26日。
12. 芳賀景嗣：下顎総義歯製作の1症例，平成25年度第2回日本歯科大学歯科補綴学第1講座大学院研修，東京都千代田区・日本歯科大学生命歯学部第4会議室，2013年12月12日。
13. 志賀 博：デジタル機能検査を用いた有床義歯補綴臨床，群馬県日本歯科大学校友会学術講演会，群馬県前橋市・アニバーサリーコートラシーネ，2014年1月26日。
14. 志賀 博：新医療技術，下顎運動・咀嚼能力検査法，北海道大学大学院セミナー，北海道札幌市・北海道大学医歯学総合研究棟，2014年2月19日。
15. 田中 彰：総義歯補綴 ―下顎位を考える―，平成25年度第3回日本歯科大学歯科補綴学第1講座大学院研修，東京都千代田区・日本歯科大学九段ホール，2014年3月23日。

● 歯科補綴学第2講座 Department of Crown and Bridge

1. 所属構成員等

教 授	新谷 明喜
准 教 授	波多野泰夫, 五味 治徳
講 師	新谷 明一
助 教	黒田 聡一
非常勤講師	鈴木 康仁, 大滝 正行, 会田 喜久, 千葉 栄一, 橋口 英作 松田 哲治, 山本 尚靖, 片桐 慎吾, 米澤 弥生, 近藤 隆一 用丸 英則, 浜松 毅昌, 横山 大一郎, 奥 京子
大 学 院 生	新谷 明宏, 原田 光佑, 清水沙久良, 長谷 英明 (福岡歯科大学)
客 員 教 授	中林 宣男, James E. Parker
外国人留学生	Valentin Vervack (ヴァレンティン・フェルバック, ゲント大学)

2. 研究テーマ

- 1) ISO における CAD/CAM の国際規格 ISO Dental CAD/CAM.
- 2) CT 画像からの3D FEM モデル製作システムの構築と標準化 FEM Model Construct from CT.
- 3) CAD/CAM による 歯科診療の高品質化 Quality Control of Dental Treatment with CAD/CAM.
- 4) アルミナ・ジルコニアセラミックスの生体材料における臨床評価 Clinical Evaluation of Fine Ceramics as Biomaterial.
- 5) ジルコニアオールセラミックスブリッジの構造解析 Structural Analysis of Ceramic Bridge.
- 6) ファイバー補強レジン補綴装置の設計と臨床応用 Design of Fiber Reinforced Hybrid Composite for Prosthesis.
- 7) ファイバーポスト併用レジン支台築造のガイドラインの確立とそれらに付随する基礎的研究 Development of Clinical Guideline for FRC Post and Core and Basic Research of Post and Core Materials.
- 8) ナノフィラーハイブリッドレジンの開発と臨床応用に関する研究 Development of Nano-Hybrid Composite Materials.
- 9) 歯科用レーザーを利用した直接セラミックス修復に関する研究 Direct Restoration of Ceramics using Dental Laser
- 10) オッセオインプラントの上部構造に応用する生体材料開発 Development of Biomaterial for Implant Upper Structures.
- 11) CT 画像, 三次元座標測定から構築した非破壊試験による適合精度の評価 Machining Accuracy of 3D-CT, 3D-Coordinate Measuring Machine.
- 12) 歯科補綴実習の到達目標に関する研究 Achievement Assessment of Prosthodontic Basic Clinical

Training.

- 13) 金属代替材料による治療技術の開発 Development of the New Treatment Technique which Alternative Materials for Metals.
- 14) インプラント治療ナビゲーションシステムの開発 Virtual Implant treatment Constructed by the use of CT Image Processed with 3D CAD/CAM.
- 15) レーザー照射 Co-Cr-Mo 粉末積層造形クラウンの開発 Evaluation of Additive Manufacturing Co-Cr-Mo Alloys Crown and CAD/CAM Zirconia crowns by 3 Shape.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

- 1) 新谷明喜：パナソニック電工とナノジルコニアの基礎研究を共同で開始した。
- 2) 新谷明喜：TC106に係わる国際規格回答原案作成調査（経済産業省）および分科会委員を委嘱した。
- 3) 新谷明喜，五味治徳：厚生労働省に金属代替材料としてのグラスファイバー補強高強度コンボジットレジンブリッジの治療技術で新規技術届出書を提出した。
- 4) 2nd Trilateral Zirconia & Titanium Today Dental Materials science symposium 2013を香港大学，昭和大学，日本歯科大学のシンポジウムを日本歯科大学で開催した。
- 5) 新谷明喜：ISO/TC 106 SC9に CAD/CAM を小倉教授と共に新規提案し，採択された。
- 6) 新谷明喜：新素材開発ワーキンググループ委員に就任し，ファイバー補強レジンブリッジの臨床技法の開発を GC と開始した。
- 7) 新谷明喜：日本歯科医師会のスチューデントクリニシャンリサーチプログラム委員になり，SCRIP の発表会で審査し，臨床部門で日本歯科大学が準優勝した。
- 8) The 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry 開催における企画，学会誌製作，香港大学での学会開催を行った。
- 9) 新谷明一：臨床修練指導歯科医の資格を所得し，ベルギー・ゲント大学からの短期留学生，Valentin Vervack（ヴァレンティン・フェルバック）の指導を行った。

4. 学位取得者

- 1) 原田光佑：「アルミナとジルコニア系セラミックスの破壊靱性値と SEM による破面解析」，2013. 1. 30，日本歯科大学。
- 2) 新谷明宏：「炭酸ガスレーザーを応用した歯質上の試作生体ガラス膜の創製」，2013. 1. 30，日本歯科大学。

5. 主催学会等

- 1) “2nd Trilateral Zirconia & Titanium Today” Dental Materials science symposium, 日本歯科大学，2013. 11. 14，香港大学，昭和大学，日本歯科大学（合同）。
- 2) The 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, 香港大学，2013.

11. 18-19, 香港大学, 昭和大学, 日本歯科大学 (合同).

6. 国際交流状況

- 1) 香港大学 Prof. Jukka Pekka Matinlinna と横山 捷はジルコニアの材料開発と臨床応用で共同研究を開始した. Odontology に掲載.
- 2) トゥルク大学医学部, トゥルク大学歯学部, タンペレ大学工学部の3校共同研究プロジェクト“ミカマプロジェクト”のトゥルク大学歯学部の主任研究員として新谷明一が共同研究を行っている.
- 3) オランダ・アムステルダム・ACTA (Academisch Centrum Tandheelkunde Amsterdam) にて共同研究者 Filip Keulemans の学位審査にあたり, 共同研究指導者として本審査に参加した. また, 指導教授である Prof. Albert J Feilzer 学長と会議を行い, 既存の研究の継続と新たなテーマについて協議した. 同時期に ACTA 新校舎の見学と学内講演を行った.
- 4) 北京大学 Prof. Zheng Gang (Dental Materials Laboratory school of Stomatology PEKING UNIVERSITY) と CAD/CAM のデジタイジング ISO 規格と接着材についての共同研究を林 捷が提案し, 開始した. 北京大学口腔医学院で先進歯科医療の講演をした. DMJ での論文掲載をした.
- 5) 福建医科大学附属口腔医院 Prof. Fuhua Yan, Prof. Yin Xiao (Queensland Univ. of Tech.) と生体材料の基礎研究と臨床応用で共同研究を行うことになった. 福建医科大学附属口腔医院で大学院生と教員に先進歯科医療の講演した. フィンランド・Turku 大学との共同研究を継続し, 国際標準の研究環境を継続した. DMJ の論文掲載をした.
- 6) スイス・ベルン大学, IIZUKA 教授, フィンランド・Turku 大学, Pekka K. Vallittu 教授, 日本・東京理科大学, 中曽根教授と日本歯科大学, 熊澤教授らによる CT 画像から直接 FEM モデル製作システムの構築と標準化で研究提携し, 学会発表を行った.
- 7) 福岡歯科大学と日本歯科大学補綴第2講座の研究協定により, FEM の研究により大学院生の学位取得された.

7. 外部研究費

- 1) 日本学術振興会科学研究費, 基礎研究 (C) (新規), 平成25年~27年, グラスファイバーで補強した臼歯レジンプリッジの最適設計, 五味治徳 (代表), 新谷明一 (分担), 黒田聡一 (分担), 286万円.
- 2) ジーシー株式会社委託研究 (継続), 平成25~27年, ナノコンポジットレジンの材料開発と臨床評価, 五味治徳, 新谷明一, 横山 捷, 90万円.
- 3) ジーシー株式会社委託研究 (継続), 平成25~26年, グラスファイバー補強ナノハイブリッドレジンプリッジの材料開発と臨床評価, 新谷明一, 横山 捷, 五味治徳, 90万円.
- 4) ジーシー株式会社委託研究 (継続), 平成25~28年, ファイバー補強ハイブリッド型レジンプリッジの長期臨床評価, 新谷明一, 90万円.
- 5) イボクラバデント委託研究, 各種歯冠用レジンの色調・艶の変化, 新谷明一, 横山 捷.

- 6) テクニカルセンター株式会社委託研究（新規），平成26～27年，ワックスミリングテクニックとワックスデンチャーのダブルスキャンテクニックに関する共同研究，新谷明喜，新谷明一。
- 7) 三和デンタル株式会社委託研究（新規），平成26～27年，ノンメタルクラスプデンチャーの臨床評価，新谷明喜，黒田聡一。
- 8) A S O インターナショナル委託研究（新規），平成26～27年，口腔内スキャナーの3D プリンターによる歯列模型の寸法精度，新谷明喜，清水沙久良。
- 9) クラレノリタケデンタル委託研究（新規），平成26～27年，ジルコニアの水熱処理による低温劣化，新谷明喜，原田光佑。
- 10) 松風株式会社委託研究（新規），平成26～27年，レーザー照射 Co-Cr 合金の焼付け強さ，新谷明喜，新谷明宏。
- 11) デジタルプロセス株式会社委託研究（新規），平成26～27年，CAD/CAM コンポジットレジンクラウンの臨床評価，新谷明喜，新谷明一，清水沙久良。

8. 研究業績

A. 著書

1. 新谷明喜：歯科技工士育成の現状と課題，日本歯科医師会雑誌，2013；66：103-118。
2. 新谷明一：金属代替材料としてのグラスファイバー補強高強度コンポジットレジンブリッジの治療技術，日本歯科医師会雑誌，2013；70。
3. Akikazu Shinya：The 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, The University of Hong Kong, Hong Kong university, 2013；11：18-19。
4. Akikazu Shinya：The 2th Trilateral Dental Symposium, Nippon Dental University, 2013.11.14。
5. 新谷明喜：第49回 ISO/TC 106 Incheon, Korea, 2013, 日本歯科材料器械研究協議会。
6. 新谷明喜他：材料科学，日本歯科大学，2013。
7. 新谷明喜他：歯冠補綴学－臨床を担う基礎研究，日本歯科大学，2013。
8. 新谷明喜他：歯冠補綴学－臨床術式，製作技法と補綴専門用語，日本歯科大学，2013。
9. 新谷明喜他：クラウン・ブリッジ補綴学－臨床・基礎と国家試験問題集（103. 104. 105. 106 回），日本歯科大学，2013。
10. 新谷明喜，志賀 博，荒川一郎，小泉順一，市川 基：顎口腔機能学，新歯科技工士教本，医歯薬出版，2013。
11. Akikazu Shinya：Chapter 4 Biomechanics in Dentistry, Handbook of Oral Biomaterials 1st ed, 155-172, Pan Stanford Publishing, Temasek Boulevard, 2014。
12. Akikazu Shinya：More gloss and natural esthetics A case study and evaluation of lab composites, SR Nexco style book, 10-17, ivoclarvivadent, Schaan, 2013。
13. 新谷明一：（第2章）メタルフリー修復・補綴の最前線ブリッジ ハイブリッド系コンポジットレジン，ここまで進化したメタルフリー修復 & 補綴臨床，120-125，デンタルダイヤモンド，東京，2013。

14. 新谷明喜他：第49回 ISO/TC106会議報告（韓国・仁川），2013. 9. 29-10. 5，日本歯科医師会.
15. 新谷明喜，宮崎 隆，新谷明一他：日本 CAD/CAM 学会誌，3：1，2013.

B. 原著

1. ○* Kosuke Harada, Akikazu Shinya, Daiichiro Yokoyama, Akiyoshi Shinya : Effect of loading condition on the fracture toughness of zirconia, J Prosthodont Res, 2013 ; 57 : 82-87. (学位論文)
2. Jie Lin, Mingle Sun, Zhiqiang Zheng, Akikazu Shinya, Jianmin Han, Hong Lin, Gang Zheng, Akiyoshi Shinya : Effects of rotating fatigue on the mechanical properties of microhybrid and nano-filler-containing composites, Dent Mater J, 2013 ; 32 : 476-483.
3. Jie L, Shinya A, Lassila LV, Vallittu PK : Composite resin reinforced with pre-tensioned fibers : a three-dimensional finite element study on stress distribution, Odontology, 2013 ; 101 : 29-33.
4. ○* Soichi Kuroda, Akikazu Shinya, Pekka k. Vallittu, Yuji Nakasone, Akiyoshi Shinya : Effect of water temperature on cyclic fatigue properties of glass-fiber-reinforced hybrid composite resin and its fracture pattern after flexural testing, J Adhesive Dentistry, 2013 ; 15 : 19-26. (学位論文)
5. ○* Aki Hasegawa, Akikazu Shinya, Lippo V.J Lassila, Daiichiro Yokoyama, Yuji Nakasone, Pekka K. Vallittu, Akiyoshi Shinya : Accuracy of three-dimensional finite element modeling using two different dental cone beam computed tomography systems, Odontology, 2013 ; 101 : 210-215. (学位論文)
6. ○* Soichi Kuroda, Akikazu Shinya, Daiichiro Yokoyama, Harunori Gomi, Akiyoshi Shinya : Effects of coloring agents applied during sintering on bending strength and hardness of zirconia ceramics, Dent Mater J, 2013 ; 32 : 793-800. (学位論文)
7. ○* 原田光佑，新谷明喜：SEVNB 法と IF 法によるジルコニア（T-TZP）の破壊靱性評価，日補綴会誌，2013；5：165-173. (学位論文)
Fracture toughness value and SEM observation of cracks in alumina and zirconium oxide ceramics, J J Dent Mater, 2013 ; 31 : 321-331.
8. ○* 岸田幸恵，新谷明一，横山大一郎，バレットペッカ：CAD/CAM によるジルコニアフレームの適合精度に及ぼす収縮補正值と焼成温度による影響，日歯理工誌，2013；32：203-212. (学位論文)
Influence of shrinkage value and firing temperature on machining accuracy of CAD/CAM zirconia ceramic frame. J J Dent Mater, 2013 ; 32 : 203-212.
9. 波多野泰夫，五味治徳，新谷明一，横山大一郎，八田みのり，久野彰子，新谷明喜：コンピュータ・パントグラフ Kavo digma2 のヘッドフレーム位置が咬合器の調節精度に及ぼす影響，歯産学誌，2013；27：15-21.
Influence of positioning of the head frame in the use of the Kavo digma2 computerized pantograph system. J J Dent Products, 2013 ; 27 : 15-21.
10. 新谷明喜，新 充弘，森麻智子，黒田聡一，新谷明宏，原田光佑，林 捷，八田みのり，山口

佳男, 牛 東平, 鄭 剛, 菅沼桂一郎: レーザー照射 Co-Cr 粉末積層造形による審美補綴治療, 歯産学誌, 2013 ; 27 : 38-45.

Esthetic prosthodontics treatment using Co-Cr alloys formed by laser-sintering system, J J Dent Products, 2013 ; 27 : 38-45.

11. ○*新谷明宏, 小幡亜希子, 春日敏弘, 新谷明喜: 炭酸ガスレーザーで熔融したリン酸塩ガラスとエナメル質の界面観察, 日歯理工誌, 2013 ; 32 : 479-487. (学位論文)

Interfacial observation of phosphate glass and enamel irradiated with carbon dioxide laser, J J Dent Mater, 2013 ; 32 : 479-487.

12. 新谷明一: 臼歯部グラスファイバーブリッジの最適設計, 日歯理工誌, 2013 ; 32 : 438-440.

Optimu design of fiber-reinforced hybrid composite fixed partial dentures for posterior, J J Dent Mater, 2013 ; 32 : 437-440.

13. 横山大一郎: グラスファイバーブリッジの臨床, 日歯理工誌, 2013 ; 32 : 441-444.

The clinical report of glass fiber-reinforced fixed partial denture-Missing of mandibular second premolar, J J Dent Mater, 2013 ; 32 : 441-444.

14. 新谷明一, 新 充弘, 森麻智子, 黒田聡一, 新谷明宏, 清水沙久良: レーザー照射による Co-Cr 粉末積層造形合金に対するポーセレン用オパーク材のせん断焼き付け強さ, 日本歯科理工学会, 2014 ; 33 : 49-58.

Porcelain shear bond strength of opaque materials to Co-Cr alloys using laser-sintering method, J J Dent Mater, 2014 ; 33 : 49-58.

15. Hase Hideaki, Shinya Akikazu, Yokoyama Daiichiro, Shinya Akiyoshi, Takahashi Yutaka : Three-dimensional finite element analysis of aramany class IV obturator prosthesis with different clasp designs, Dent Mater J : 2014-015.R1

16. Jie Lin, Akikazu Shinya, LippoV.J.Lassila, Pekka K.vallittu : Composite resin reinforced with pre-tensioned fiber : a three-dimensional finite element study on stress distribution, Odontology, 2013 ; 101 : 29-33.

17. Akikazu Shinya : Mehr Glanz und Naturlichkeit, das dental labor, 2013 ; 61 : 28-35.

その他

1. 新谷明一: 金属代替材料としてグラスファイバーで補強された高強度コンポジットレジンを用いた3ユニットブリッジの治療技術, 日本歯科医師会雑誌, 2013 ; 66 : 487-496.
2. 佐藤文裕, 新谷明一: 臼歯部FRCブリッジの技工術式—アディショナルファイバーフレームを付与した製作方法—, 日本歯科大学東京短期大学雑誌, 2013 ; 3 : 122-131.
3. 林 捷, 新谷明一: プリテンションを加えたファイバー補強コンポジットレジンの応力分布: 三次元有限要素法による検討, 歯学, 2013 ; 101 : 74.
4. 新谷明一: 先進医療として承認された研究成果—ファイバー補強高強度硬質レジンブリッジ—, 日本歯科大学校友会・歯学会会報, 2014 ; 39 (3) : 49.

その他論文

商業誌・その他

1. 宮崎 隆, 新谷明一, 馬場一美: CAD/CAM・オールセラミックス時代だから知りたい 歯科理工学 (第1回) セラミックスは金属と本質的に異なる材料であることを理解しよう, Quintessence of Dental Technology, 2013; 38: 0230-0236.
2. 宮崎 隆, 新谷明一, 馬場一美: CAD/CAM・オールセラミックス時代だから知りたい 歯科理工学 (第2回) セラミックスの力学的特性評価法を理解しよう, Quintessence of Dental Technology, 2013; 38: 0544-0552.
3. 宮崎 隆, 新谷明一, 馬場一美: CAD/CAM・オールセラミックス時代だから知りたい 歯科理工学 (第3回) CAD/CAM オールセラミックスに利用される各種セラミックスの構造を理解しよう, Quintessence of Dental Technology, 2013; 38: 0866-0879.
4. 宮崎 隆, 新谷明一, 馬場一美: CAD/CAM・オールセラミックス時代だから知りたい 歯科理工学 (第4回) CAD/CAM によるオールセラミック修復装置の適合性, Quintessence of Dental Technology, 2013; 38: 1208-1222.
5. 宮崎 隆, 新谷明一, 馬場一美: CAD/CAM・オールセラミックス時代だから知りたい 歯科理工学 (第5回) (最終回) 審美修復に利用される CAD/CAM 用材料の将来を展望する, Quintessence of Dental Technology, 2013; 38: 1854-1872.
6. 新谷明一, 黒田聡一, 新谷明宏: レーザー焼結型 CAD/CAM によるコバルトクロム合金フレームを用いた審美補綴 (Part II) 臨床編 審美補綴術式の実際, 補綴臨床, 2014; 47: 57-69.

C. 総説・解説

記載事項なし

D. 報告 (臨床・症例・研究等)・紀要

記載事項なし

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 新谷明宏, 新谷明喜, 小林茂之, 宮崎洋二, 牛 東平, 鄭 剛: 3Shape により製作した Co-Cr 粉末積層造形とジルコニア CAD/CAM クラウンの臨床評価, 日本歯科理工学会, 32: 118, 2013.
2. 黒田聡一, 横山大一郎, 新谷明一, 五味治徳, 新谷明喜: セルフアドヒーズセメンのナノジルコニア (Ce-TZP/Al₂O₃) に対する接着強さに及ぼす浸漬環境の影響, 日本歯科理工学会,

- 31 : 153, 2013.
3. 新谷明喜, 新谷明宏, 宮崎洋二, 牛 東平, 鄭 剛, 三吉 愛: レーザー照射 Co-Cr 粉末積層造形とジルコニア CAD/CAM クラウンの適合評価, 日本歯科 CAD/CAM 学会誌, 3 : 85, 2013.
 4. 五味治徳, 新谷明一, 横山大一郎, 黒田聡一, 新谷明宏, 波多野泰夫, 新谷明喜: 金属代替材料としてのグラスファイバー補強コンポジットレジンブリッジ治療の臨床調査, 日補綴会誌, 122 (5) : 160, 2013.
 5. 新谷明一, 横山大一郎, Fillip Keulemans, Lippo V.J. Lassila, Pekka K. Vallittu : 接着システムの違いがショートファイバー補強コンポジットレジンの接着強さに及ぼす影響, 日補綴会誌, 122 (5) : 283, 2013.
 6. 長谷英明, 新谷明一, 吉田兼義, 津江文武, 稲生理久, 新谷明喜, 高橋 裕: 顎欠損の有無が支持歯槽骨と義歯の挙動に及ぼす影響—三次元有限要素法による検討—日本顎顔面補綴学会, 30 : 57, 2013.
 7. 新谷明喜: 金銀パラジウム合金の代替材料を探る, 高強度ハイブリッド型コンポジットレジンを用いた固定性審美修復, 日補綴会誌, 122 (5) : 95, 2013.
 8. 新谷明宏, 新 充宏, 森麻智子, 新谷明一, 八田みのり, 黒田聡一, 原田光佑, 青木晴美, 菅沼佳一郎, 宮坂 平, 新谷明喜: レーザー照射 Co-Cr 粉末積層造形フレームに対するポーセレン用オベーク材の接着強さ, 日本歯科理工学会, 32 : 358, 2013.
 9. 新谷まきは, 新谷明一: ネット状グラスファイバーが歯科矯正用接着材の接着強さに及ぼす影響, 日本歯科理工学会, 32 : 370, 2013.
 10. 清水沙久良, 新谷明一, 黒田聡一, 新谷明宏, 原田光佑, 山口佳男, 川上 徹, 阿曾正敏, 石田洋己, 宮坂 平, 新谷明喜: 3Shape と3D-Printer による歯列模型の再現性評価, 日本歯科理工学会, 32 : 370, 2013.
 11. 青木晴美, 宮坂 平, 石田洋己, 青柳有祐, 三浦大輔, 新谷明喜: レーザー積層造形法により作製したコバルトクロム合金の表面性状と接着性, 日本歯科理工学会, 32 : 404, 2013.
 12. 五味治徳, 宮下 渉, 宗村 治: 歯学部2年生に対するスポーツ歯学教育前後のアンケート調査—マウスガードについての意識調査—, 日本スポーツ歯科医学会 第24回学術大会プログラム・抄録集, 99, 2013.
 13. 五味治徳, 波多野泰夫, 新谷明喜, 新井一仁, 織田聡一郎, 横山正起, 志賀 博: 学生相互実習後のアンケート調査結果について—概形印象採得について過去4年間の調査結果—, 日本歯科医学教育学会 第32回学術大会プログラム・抄録集, 156, 2013.
 14. Akikazu Shinya : The effect of shellac contained denture cleaner for denture base resin after tooth brush abrasion—surface roughness and SEM observation, 2nd Trilateral Dental Symposium, 2 : 13, 2013.
 15. Soichi Kuroda, Akikazu Shinya, Daiichiro Yokoyama, LVJ. Lassila, Akihiro Shinya, PK Vallittu : 2nd Trilateral Dental Symposium, 2 : 15, 2013.

16. Sakura Shimizu, Akikazu Shinya, Soichi Kuroda, Akihiro Shinya, Harunori Gomi, Yasuo Yamaguchi, Y Ishida, Taira Miyasaka, Akiyoshi Shinya : Accuracy of master model reproduction by laboratory scanner and 3D-Printer, 2nd Trilateral Dental Symposium, 2 : 19, 2013.
17. Akihiro Shinya, Harunori Gomi, Soichi Kuroda, Akiyoshi Shinya : Optimum design of glass fiber reinforced resin bridge : Part 1 Effect of glass fiber reinforce for flexural strength, 2nd Trilateral Dental Symposium, 2 : 25, 2013.
18. Yoshiki Ishida, Taira Miyasaka, Harumi Aoki, Y Aoyagi, D Miura, Akiyoshi Shinya, Sakura Shimizu : 2nd Trilateral Dental Symposium, 2 : 29, 2013.
19. Akikazu Shinya : FRC-Bridge Design based on FEM analysis, 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, 1 : 2, 2013.
20. Daiichiro Yokoyama : Anterior fixed partial denture, 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, 1 : 8, 2013.
21. Jei Lin, Z Zheng, A Shinya, A Shinya : Effect of rotating fatigue testing on the mechanical properties of microhybrid and nanofiller containing composites, 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, 1 : 22, 2013.
22. Akiyoshi Shinya, Akikazu Shinya, Daiichiro Yokoyama, Harunori Gomi : Optimum design of glass fiber reinforced resin bridge-Effect of glass fiber reinforce for flexural strength, 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, 1 : 24, 2013.
23. Minori Hatta, Akikazu Shinya, P.K Vallittu, Daiichiro Yokoyama, Akihiro Shinya, L.Vj.Lassila : The Fracture strength of different designs for FRC post-core system, 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, 1 : 27, 2013.
24. Jie Lin, Zhiqiang Zheng, Akikazu Shinya, Akiyoshi Shinya : Bonding of self-adhesive resin cements to enamel using different surface treatment : Bond strength and interface etching pattern evaluations, I R Biosis-Abiosis I I S, 5 : 77, 2014.
25. Hideaki Hase, Akikazu Shinya, Akiyoshi Shinya, Yutaka Takahashi : The influence of alveolar bone size on maxillary partial denture : Full arch bone support vs Aramany class4 defect, 15th biennial meeting of the international college of prosthodontists, conference program, 182, 2013.
26. Soichi Kuroda, Daiichiro Yokoyama, Akikazu Shinya, Hideaki Hase, K Shimizu, Akiyoshi Shinya : Influence of zirconia frame design in fracture pattern of porcelain, 2nd Meeting of the international association for dental research asia pacific region, program and abstract book, 121 : 38, 2013.
27. Akikazu Shinya, Soichi Kuroda, Hiroki Hase, K Shimizu, D Yokoyama, L Lassila, A Shinya, P Vallittu : Stress distribution of bone around FRC implant vs titanium implant, 2nd Meeting of the international association for dental research asia pacific region, program and abstract book, 158 : 48, 2013.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 新谷明一：接着を活かす歯冠修復メタルフリー補綴装置接着の留意点，平成25年度第32回日本接着歯学会学術大会，平成25年12月1日。
2. 新谷明喜：金銀パラジウム合金の代替材料を探る，高強度ハイブリッド型コンポジットレジンを用いた固定性審美修復，日本歯科補綴学会。
3. 新谷明喜：最先端のCAD/CAM システム，金属光造形複合加工医療機器フォーラム，松浦機械製作所，2013.06.22.
4. 五味治徳：専門医になるためには，臨床研修医講習会，日本歯科大学附属病院牛込ホール，東京，2013.7.2.
5. Harunori Gomi：Clinical application of fiber reinforced hybrid composite bridge for posterior, 2th Trilateral Dental Symposium, Nippon Dental Univ, KudanHoll, 2013.11.14
6. Akikazu Shinya：FRC-Bridge Design based on FEM analysis, 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, Hong Kong Univ, 2013. 11. 18-19.
7. Daiichiro Yokoyama：Anterior fixed partial denture, 1st Asian Symposium on Fiber Reinforced Composite Materials in Dentistry, Hong Kong Univ, 2013. 11. 18-19.
8. 黒田聡一，新谷明喜：ジルコニアクラウンのフレーム形態—静的荷重による分析—日本歯科大学歯学会研究推進フォーラム，九段ホール，2013.12.12.

(2) 講演会・研究会・研修会等での等での講演

記載事項なし

● 口腔外科学講座

Department of Oral and Maxillofacial Surgery

1. 所属構成員等

教 授	佐藤田鶴子（4月～7月）、又賀 泉（12月～3月）
准 教 授	松野 智宣、宮坂 孝弘
講 師	北原 和樹
助 教	浅野 一成、宮澤 敦子
客員教授	伊藤 敦夫、大野 忠夫、田畑 泰彦
客員准教授	井出 勝久
非常勤講師	秋山 眞一、井川 淳一、五十嵐史征、井出 公一、伊藤 真 大村 真基、小俣 和彦、貴美島 香、齊藤 俊夫、早乙女雅彦 高松 和広、玉澤 学、谷内 俊一、富田 滋、藤原 博 日比野好行、宮井 崇宏、山内 由隆、山口 昌彦、山田 隆久 湯沢 伸好
大 学 院 生	駒津 萌乃、齊藤 沙耶、槇石 潤、中村 浩樹、宮地 正城 矢島麻衣子、富永 和樹、横田 憲昌

2. 研究テーマ

- 1) 慢性顎骨骨髓炎治療のための DDS を応用した新素材の開発研究 Development research of the new regenerative medical materials applied DDS to the chronic osteomyelitis in the jaw.
- 2) 複合骨再生材料を用いた歯槽骨再生の臨床研究 Clinical research on alveolar bone regeneration using composite bone biomaterials.
- 3) 骨・歯周組織・唾液腺のための再生医工学 The regenerative medical engineering for bone, periodontal tissue and salivary gland.
- 4) 口腔疾患に対する抗酸化療法 Antioxidative therapy for oral diseases.
- 5) 口腔カンジダ症の分子生物学的病態解析 Molecular biological analysis on oral candidiasis.
- 6) チタンの表面改質が骨生体活性に及ぼす影響 Effects of bone bioactivity by surface modification.
- 7) 唾液腺の加齢性組織変化と遺伝子発現変化に関する研究 Study on age-related histological changes of salivary gland with gene expression changes.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

- 1) 第33回日本歯科薬物療法学会学会賞、宮澤敦子、平成25年6月16日、ゼラチンハイドロゲルからのシンバスタチン徐放による修復象牙質の評価。
- 2) 第33回日本歯科薬物療法学会学会賞、宮地正城、平成25年6月16日、ヒト歯肉ケラチノサイト

対するアスタキサンチンの抗炎症作用の検討.

- 3) 第4回 National CAMLOG CONGRESS 2013優秀ポスター賞, 浅野一成, 平成25年7月15日, 骨再生能を有する各種骨補填材の材料学的比較検討.
- 4) 第17回日本顎顔面インプラント学会大会長賞, 宮澤敦子, 平成25年12月1日, BRONJを予防するための骨補填材の開発.
- 5) The 12th US-Japan symposium on Drug Delivery System ポスター賞, 宮澤敦子, 平成25年12月20日, Controlled release of simvastatin from biodegradable hydrogels promotes odontoblastic differentiation.

4. 学位取得者

- 1) 駒津萌乃:「ヒト唾液より検出された *Candida albicans* および *Candida glabrata* と歯肉由来上皮細胞共培養時における bovine lactoferrin の効果」, 2013年9月9日, 日本歯科大学.
- 2) 槇石 潤:「Gatifloxacin 含有 poly lactic acid-co-glycolic acid/hydroxyapatite 顆粒複合体の顎骨骨髓炎の炎症と骨再生に対する効果」, 2014年3月7日, 日本歯科大学.

5. 主催学会等

- 1) 平成25年度東京都歯科医師会卒後研修会, 東京都, 2013年6月27日, 佐藤田鶴子.
- 2) 日本形成外科学会関東支部第93回新潟地方会, 日本歯科大学新潟生命歯学部アイヴィホール, 2014年2月7日, 又賀 泉共催.
- 3) 第5回第新潟ドライマウス学術講演会, 新潟ユニゾンプラザ, 2014年2月21日, 又賀 泉主催.

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

(1) 文部科学省科学研究費補助金

1. 文部科学省科学研究費補助金, 若手研究B(新規), 2013~2014年, bFGF徐放化HA/ゼラチン複合体と熱可塑性メンブレンとの新規骨誘導再生法, 浅野一成(代表), 3,900,000円.
2. 文部科学省科学研究費補助金, 研究活動スタート支援(新規), 2013~2014年, シンバスタチン徐放による直接覆髄モデルラットの修復象牙質促進効果評価, 宮澤敦子(代表), 2,240,000円.

8. 研究業績

A. 著書

1. 松野智宣:分担執筆, 第7章 もっと先へ. 医療がローズに, 恋をする, 山下文江, 106-112, 命をつぐむバラ, ハースト婦人画報社, 東京, 2013.

B. 原著

1. * Asano K, Matsuno T, Tabata Y, Satoh T. Preparation of thermoplastic poly (l-lactic Acid) membranes for guided bone regeneration, ☆ Int J Oral Maxillofac Implants, 2013 ; 28 : 973-981. (学位論文)
2. * Komatsu A, Satoh T, Wakabayashi H, Ikeda F. Effects of bovine lactoferrin to oral *Candida albicans* and *Candida glabrata* isolates recovered from the saliva in elderly people, ☆ Odontology, 2013 ; doi : 10.1007/s10266-013-0135-0. (学位論文)

C. 総説・解説

1. 松野智宣, 浅野一成: 骨補填材料の比較および臨床エビデンスの検証, Quintessence DENTAL Implantology, 20 (3) : 14-17, 2013.
2. 松野智宣: 骨補填材料のエンドポイント, Quintessence DENTAL Implantology, 20 (3) : 42-43, 2013.
3. 松野智宣: 歯科医のための歯科医による内科学 第5回『脳卒中にならないために』～血管老化の原因 動脈硬化と脂質異常症の関係～, 日本歯科大学校友会・歯学会会報, 39 (1) : 8-12, 2013.
4. 松野智宣: 骨補填材の up-to-date —バイオインテグレーションする骨補填材のすすめ—, バイオインテグレーション学会誌, 3 : 25-29, 2013.
5. 小林 馨, 梅原一浩, 馬場一美, 末瀬一彦, 大久保力廣, 松野智宣: 近未来の歯科医療を語る—デジタルデンティストリー時代に向けて, 日歯医学会誌, 33 : 5-37, 2014.

D. 報告(臨床・症例・研究等)・紀要

1. 浅野一成, 松野智宣: 骨補填材「アパセラム -AX」および「オステオグラフト S-D」の特徴と臨床における使い分け, KIT news, 35 : 1-4, 2013.
2. 北原和樹: ご当地グルメ自慢 神奈川県・湯河原町 口福になれる宿「瑞月」, 日本歯科大学校友会・歯学会会報, 39 (1) : 36, 2013.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 浅野一成, 松野智宣, 宮地正城, 佐藤田鶴子: HA 顆粒性状の違いによる bFGF 徐放化 HA/ゼラチン複合体の骨誘導再生能の変化, 歯薬療法, 32 : 92, 2013.
2. 宮澤敦子, 浅野一成, 松野智宣, 佐藤田鶴子: ゼラチンハイドロゲルからのシンバスタチン徐放による修復象牙質の評価, 歯薬療法, 32 : 93, 2013.
3. 槇石 潤, 伊藤敦夫, 貴美島香, 宮地正城, 矢島麻衣子, 松野智宣, 佐藤田鶴子:

- Gatifloxacin 含有 poly lactic acid glycolic acid/hydroxyapatite 顆粒複合体による顎骨骨髓炎治療, 歯薬療法, 32 : 96, 2013.
4. 宮地正城, 松野智宣, 倉治真夏, 駒津萌乃, 矢島麻衣子, 浅野一成, 佐藤田鶴子: ヒト歯肉ケラチノサイトに対するアスタキサンチンの抗炎症作用の検討, 歯薬療法, 32 : 97, 2013.
 5. 駒津萌乃, 貴美島香, 松野智宣, 砂田勝久, 佐藤 勉, 佐藤田鶴子: 高齢者唾液から分離した口腔カンジダにおけるサイトカイン産生能の検討, 歯薬療法, 32 : 105, 2013.
 6. 斉藤沙耶, 松野智宣, 浅野一成, 佐藤田鶴子: Gatifloxacin 含有 poly lactic acid glycolic acid/hydroxyapatite 顆粒複合体による顎骨骨髓炎治療, 歯薬療法, 32 : 106, 2013.
 7. 内川喜盛, 北原和樹, 大澤銀子, 岡田智雄, 仲谷 寛, 横澤 茂, 北村和夫, 大津光寛, 小川智久, 菊池憲一郎, 鈴木淳子, 岩田 洋, 小倉陽子, 安田麻子, 石川結子: 医療コミュニケーション実習に対する学生の意識について, 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 99, 2013.
 8. 横澤 茂, 内川喜盛, 大澤銀子, 北原和樹, 池田利恵, 石川結子, 井出吉昭, 岩田 洋, 大津光寛, 岡田智雄, 岡田智雄, 小川智久, 小倉陽子, 織田聡一郎, 菊池憲一郎, 北村和夫, 鈴木淳子, 仲谷 寛, 安田麻子: 日本歯科大学附属病院における歯科医療コミュニケーションセミナーの概要, 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 100, 2013.
 9. 鈴木 恵, 茂原宏美, 小倉千幸, 池田亜紀子, 須田真理, 関口洋子, 市川順子, 野村正子, 合場千佳子, 池田利恵, 内川喜盛, 岡田智雄, 大津光寛, 大澤銀子, 北原和樹, 佐藤 勉, 小口春久: 本学1年生に実施した「コミュニケーション概論」について 第3報 2年間の実施状況と評価, 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 101, 2013.
 10. 田中とも子, 青木春美, 沼部幸博, 松野智宣, 千葉忠成, 富永徳子, 柴田千晶, 横澤 茂, 大津光寛, 仲谷 寛, 石田鉄光, 滑川初枝, 鈴木敦子, 住友雅人, 中原 泉: PBL テュートリアル学習システムを応用した歯学部第1学年に対する禁煙指導活動の効果, 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集, 113, 2013.
 11. 槇石 潤, 伊藤敦夫, 貴美島香, 松野智宣, 佐藤田鶴子: 骨再生を誘導する抗菌薬徐放複合体による顎骨骨髓炎治療, 再生歯誌, 11 : 49, 2013.
 12. 宮澤敦子, 浅野一成, 斎藤沙耶, 槇石 潤, 松野智宣: BRONJ を予防するための骨補填材の開発, 顎顔面インプラント誌, 12 : 122, 2013.
 13. 浅野一成, 松野智宣: インプラント治療に用いる各種骨補填材の材料学的評価～ in vitro と in vivo での評価～, 顎顔面インプラント誌, 12 : 125, 2013.
 14. 小林英三郎, 廣安一彦, 渡邊文彦, 又賀 泉: β -TCP を用いて上顎洞底挙上術を施行した症例の臨床的検討, 顎顔面インプラント誌, 12 : 137, 2013.
 15. 松野智宣, 浅野一成, 石本光則, 津山泰彦, 寶田 博: 上顎洞粘膜穿孔はインプラントの Survival rate に影響するかを文献的に考察する, 顎顔面インプラント誌, 12 : 139, 2013.
 16. 倉治真夏, 松野智宣, 宮澤敦子, 浅野一成, 小倉 晋, 高森 等: 硬・軟組織のためのマルチレイヤーシートの開発, 顎顔面インプラント誌, 12 : 144, 2013.

17. 齊藤沙耶, 松野智宣, 浅野一成, 宮澤敦子, 槇石潤: 骨再生を促進する FGF-2徐放化ミニインプラントの開発とその評価, 顎顔面インプラント誌, 12: 196, 2013.
18. 北原和樹, 松野智宣, 中川洋一, 山口 晃, 戸谷収二, 佐藤 勉, 江里口彰, 金子明寛, 佐藤田鶴子: 一般開業歯科医院における口腔乾燥への対応 ―全国139施設のアンケート調査結果―, 歯界展望, 特別号: 238, 2013.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

記載事項なし

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 松野智宣: 生活習慣病に伴う高齢者の歯科治療, 平成25年東京都日本歯科大学校友会北多摩支部学術講演会, 東京都, 2013年4月20日.
2. 松野智宣: スマートエイジングのために知っておくこと, ADC 学術講演会, 東京都, 2013年5月19日.
3. 宮坂孝弘: 口腔外科小手術においてトラブルを回避するには, 青森県日本歯科大学校友会学術講演会, 青森市, 2013年6月15日.
4. 松野智宣: Sinus Augmentation の合併症～病因と治療法を文献的に考察する～, 第4回口腔再建インプラント研究会, 東京都, 2013年6月16日.
5. 松野智宣: 骨補填材の材料学的比較検討, 京都大学再生医科学研究所セミナー, 京都市, 2013年6月20日.
6. 北原和樹: 基礎疾患を有する高齢患者が歯科医院を訪れたら, 東京都日本歯科大学校友会京橋支部平成25年度第1回学術講演会, 東京都, 2013年6月21日.
7. 松野智宣: 骨補填材の up-to-date ―バイオインテグレーションする骨補填材のすすめ―, 第3回バイオインテグレーション学会, 札幌市, 2013年6月23日.
8. 浅野一成, 松野智宣: バイオインテグレーションを高める bFGF 徐放化 HA/ゼラチン複合骨補填材の開発, 第3回バイオインテグレーション学会, 札幌市, 2013年6月23日.
9. 北原和樹: 日常の歯科臨床に活かすドライマウスの ABC 1. ドライマウスの現状を把握する, 東京都歯科医師会平成25年度卒後研修会, 東京都, 2013年6月27日.
10. 松野智宣: 日常の歯科臨床に活かすドライマウスの ABC 3. 高齢者の唾液分泌低下を考える, 東京都歯科医師会平成25年度卒後研修会, 東京都, 2013年6月27日.
11. 宮坂孝弘: 日常の歯科臨床に活かすドライマウスの ABC 4. ドライマウスを診断する, 東京都歯科医師会平成25年度卒後研修会, 東京都, 2013年6月27日.
12. 浅野一成: 日常の歯科臨床に活かすドライマウスの ABC 5. チェアーサイドでできるドライマウスの検査, 東京都歯科医師会平成25年度卒後研修会, 東京都, 2013年6月27日.
13. 松野智宣: 日常の歯科臨床に活かすドライマウスの ABC 6. ドライマウスへの新たな取り組み

- み，東京都歯科医師会平成25年度卒後研修会，東京都，2013年6月27日。
14. 宮地正城，松野智宣，倉治真夏，駒津萌乃，槇石 潤，矢島麻衣子，浅野一成，佐藤田鶴子：口腔扁平苔癬の炎症改善を目的とした *in vitro* におけるアスタキサンチンの抗炎症効果の検討，第13回日本抗加齢医学会，横浜市，2013年6月29日。
 15. 倉治真夏，松野智宣，貴美島香，宮澤敦子，佐藤田鶴子：アスタキサンチンの抗酸化作用が加齢に伴う唾液分泌低下に及ぼす影響，第13回日本抗加齢医学会，横浜市，2013年6月29日。
 16. 松野智宣：スマートにエイジングするための ABC，東京都国保連合会学術講演会，東京都，2013年7月4日。
 17. 松野智宣：骨補填材の up to date ～注目の第二世代 HA～，COLLOQUIUM IN 2013特別講演，神戸市，2013年7月7日。
 18. 浅野一成，松野智宣，佐藤田鶴子：骨再生能を有する各種骨補填材の材料学的比較検討，第4回 National CAMLOG Congress 2013，東京都，2013年7月14・15日。
 19. 松野智宣：超高齢社会への口腔機能管理への新たな考え方～口福は健康長寿をもたらす～，第17回日本看護管理学会学術集会共催セミナー，東京都，2013年8月25日。
 20. 松野智宣：骨補填材料を Bone Biology から評価する，第43回日本口腔インプラント学会ランチョンセミナー，福岡市，2013年9月15日。
 21. 松野智宣：QOM（Quality of Mouth）からはじまる QOL ～歯科からの新たな提案～，日本歯科衛生士学会第8回学術大会ランチョンセミナー，神戸市，2013年9月16日。
 22. 松野智宣：スマートエイジングはお口から～口福な Happy Life を過ごすために～，第1回日本サプリメント学会スポンサードセミナー，東京都，2013年10月27日。
 23. 松野智宣：致死的な口底部出血を文献的に考察する，第5回口腔再建インプラント研究会，東京都，2013年11月1日。
 24. 松野智宣：骨補填材を再考する～リモデリングする HA と成長因子の応用～，京都インプラント研究会第93回例会特別講演，京都市，2013年11月10日。
 25. 松野智宣：骨補填材を比較する～第2世代の HA とは～，第31回日本歯科東洋医学会学術大会ランチョンセミナー，大阪市，2013年11月16日。
 26. 宮澤敦子，松野智宣，浅野一成，田畑泰彦，佐藤田鶴子：ゼラチンハイドロゲルからのシンバスタチン徐放による修復象牙質形成能の評価，第3回 DDS 徐放化再生医療研究会，東京都，2013年11月23日。
 27. 松野智宣：骨補填材のゴールドスタンダード～基礎研究から第2世代 HA の有用生を見直す～，第17回顎顔面インプラント学会，東京都，2013年12月1日。
 28. 松野智宣：超高齢者の先制的口腔ケア～いつまでも口福であるためにやってくこと～，第33回日本看護科学学会学術集会，大阪市，2013年12月6日。
 29. Mataga I. Functional reconstruction of maxilla-mandible by revascularized fibula and endosseous implants ; Report of longer than fourteen years experiences, 12th Annual meeting of Pan-pacific Implant Society, Tianjin, People Republic of China, Dec. 7, 2013.

30. 松野智宣：スマートにエイジングするための秘訣～抗老化サプリメントの魅力～，メディアライフケアセミナー in 青森，八戸市，2013年12月8日。
31. 川上未有希，鈴木見奈子，田中 彰，又賀 泉：生体材料のみ用いた唾液腺細胞への分化誘導法の検討，第372回日本皮膚科学会新潟地方会，新潟市，2013年12月14日。
32. Kuraji M, Mastuno T, Miyazawa A, Asano K, Ogura S, Takamori H. Development of the multiple-layer DDS sheet for hard and soft tissue augmentation, 12th US-Japan Symposium on Drug Delivery Systems, Maui, Hawaii, USA, Dec. 17, 2013.
33. Makiishi J, Ito A, Manatsu K, Miyazawa A, Matsuno T, Asano K, Satoh T. Local antibiotic delivery bone substitute for bone regeneration following osteomyelitis treatment, 12th US-Japan Symposium on Drug Delivery Systems, Maui, Hawaii, USA, Dec. 17, 2013.
34. Matsuno T, Kimishima K, Ito A, Sogo Y, Makiishi J, Tamazawa G, Satoh T. In vitro evaluation of the efficacy of control-released antibiotic bone substitute for treating osteomyelitis, 12th US-Japan Symposium on Drug Delivery Systems, Maui, Hawaii, USA, Dec. 17, 2013.
35. Miyazawa A, Asano K, Matsuno T, Tabata Y, Satoh T. Controlled release of simvastatin from biodegradable hydrogels promotes odontoblastic differentiation, 12th US-Japan Symposium on Drug Delivery Systems, Maui, Hawaii, USA, Dec. 17, 2013.
36. 松野智宣：チタン表面への生体活性修飾，京都大学再生医科学研究所セミナー，京都市，2014年1月16日。
37. 高橋 悠，石川 博，田中 彰，又賀 泉：舌扁平上皮癌頸部リンパ節転移巣由来のヒト舌癌細胞株ならびに Xenograft 細胞株の樹立とその特徴，第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会，札幌市，2014年1月23日。
38. 小根山隆浩，中川 綾，高田正典，田中 彰，山口 晃，又賀 泉，不破信和：認知症合併口腔扁平上皮癌患者に対するリザーバー併用逆行性動注化学療法の臨床的検討，第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会，札幌市，2014年1月23日。
39. 佐久間要，田中 彰，鈴木見奈子，田村隆希，山口 晃，又賀 泉：口腔扁平上皮癌に対する抗癌剤感受性試験 CD-DST 法を用いたセツキシマブの抗腫瘍効果予測の検討，第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会，札幌市，2014年1月23日。
40. 川上未有希，田中 彰，鈴木見奈子，高橋 悠，又賀 泉：リンパ球が産生する癌細胞増殖抑制作用を有する液性因子についての検討，第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会，札幌市，2014年1月23日。
41. 武田幸彦，岡本祐一，依田英俊，佐藤英明，二宮一智，天内孝昌，藤内 祝，又賀 泉：当科における進行上顎歯肉癌に対する超選択的動注化学放射線療法の治療経験，第32回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会，札幌市，2014年1月23日。
42. 松野智宣：歯科からのスマートエイジング～口福な Happy Life を続けるために～，千葉県日本歯科大学校友会新年会学術講演会，千葉市，2014年1月26日。
43. 松野智宣：リモデリングから骨補填材を考える，京セラ新春特別講演会，名古屋市，2014年2

月11日.

44. 松野智宣：健康はお口から～口福な Happy Life を過ごすために～，アスタリールフォーラム 2014，東京都，2014年2月22日.
45. 松野智宣：骨補填材のリモデリング～基礎と臨床～，北海道医療大学クラウンブリッジインプラント補綴学講座「凌雲碩学の会」学術講演会，札幌市，2014年3月1日.
46. 浅野一成，宮澤敦子，田畑泰彦，松野智宣：HA 顆粒性状の変化による bFGF 徐放化 HA/ゼラチン複合体の骨誘導再生能への影響，第13回日本再生医療学会総会・学術大会，京都市，2014年3月4・5日.
47. 高橋 悠，大山晃弘，豊村順子，川上未有希，石川 博，田中 彰，又賀 泉：歯の再生におけるマラッセ上皮残遺細胞の有用性，第13回日本再生医療学会総会・学術大会，京都市，2014年3月4・5日.
48. 宮澤敦子，松野智宣，浅野一成，又賀 泉：BRONJ 予防のためのシンバスタチン含有 b-FGF + HA/GH 複合体の開発，第13回日本再生医療学会総会・学術大会，京都市，2014年3月4・5日.
49. 高橋正志，森 和久，又賀 泉：エナメル突起とエナメル滴の出現頻度について，第40回歯科衛生研究会，新潟市，2014年3月5日.
50. Miyachi M, Matsuno T, Miyazawa A, Asano K, Mataga I. In vitro anti-inflammatory effects of astaxanthin for human gingival keratinocyte, 2014 Annual Congress of ROC Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Taiwan, Mar. 8, 2014.
51. Miyazawa A, Tabata Y, Asano K, Matsuno T, Satoh T. Development of the grafting materials for the prevention of BRONJ, 2014 Annual Congress of ROC Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Taiwan, Mar. 8, 2014.
52. Tezuka R, Tanaka A, Suzuki M, Toya S, Kobayashi E, Oneyama T, Ikarashi R, Katsuta H, Mataga I. Treatment on bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw in cancer patients. 2014 Annual Congress of ROC Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Taiwan, Mar. 8, 2014.
53. Tamura R, Oneyama T, Suzuki M, Tanaka A, Mataga I. Lymphangiomaarised submandibular area : Report of an adult case, 2014 Annual Congress of ROC Association of Oral and Maxillofacial Surgeons, Taiwan, Mar. 8, 2014.

● 歯科麻酔学講座 Department of Dental Anesthesiology

1. 所属構成員等

教 授	砂田 勝久
准 教 授	山城三喜子
講 師	筒井友花子
助 教	安田 麻子 田中 秀明
客 員 教 授	中村 達雄, 勝山 直彦
非常勤講師	新崎 裕一, 天野 高志, 三浦 誠, 重枝 昭広, 西澤 克哉 吉江 誠, 花俣 直利, 高木 元英, 山下 香絵, 吉野 秋男 三浦 明子, 工藤 勝
大 学 院 生	山口さやか (～9月まで), 秋本 琢磨, 渥美 元成, 笹内 杏子, 井出 正俊 森本 恵子, 町田 詩織, 新崎 巴月, 酒井 有沙, 辻本源一郎 大藤 理恵, 佐藤 奈々
臨床研究生	藤田 恭平, 星合 啓子, 藤田 恭平, 久保田直利, 佐々木瑠依 殿岡 蓉子, 杉本 直哉

2. 研究テーマ

- 1) 塩酸デクスメデトミジンが局所麻酔薬の効果に及ぼす影響 Study of Dexmedetomidine for effect of local anesthesia.
- 2) 局所麻酔薬の組織浸透性に関する研究 Study of tissue permeability of local anesthetics.
- 3) 局所麻酔薬に添加された血管収縮薬が SHR の循環動態に与える影響について The effect of vasoconstrictors added in local anesthetics on hemodynamic responses of SHR.
- 5) 交感神経ブロックが末梢神経再生に与える影響について Effect of sympathetic block for peripheral nerve regeneration.
- 6) 静脈内鎮静法の安全性向上に関する研究 Study of safety measures for intravenous sedation.
- 7) 歯科医学教育 Dental education method.
- 8) 局所麻酔薬の局所および全身動態 Pharmacokinetics of local anesthetics.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

記載事項なし

4. 学位取得者

- 1) 笹内杏子:「長期硬膜外ブロックイヌにおける麻酔効果の変化その機序について」, 平成26年3月8日, 日本歯科大学.

- 2) 渥美元成：「末梢性顔面神経麻痺ラットに対する上顎神経節切除の効果」，平成26年3月8日，日本歯科大学.
- 3) 秋本琢磨：「デクスメデトミジン加里ドカインの組織内分布と麻酔作用および循環動態に及ぼす影響」，平成26年3月8日，日本歯科大学.
- 4) 山口さやか：「障害者の日帰り全身麻酔に対する AOP と TIVA の有用性の比較」，平成25年9月9日，日本歯科大学.

5. 主催学会等

記載事項なし

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

- 1) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金），基盤 C（新規），平成25年度～27年度，DEX が抗精神病薬ラットの循環動態に与える影響，砂田勝久，筒井友花子，4,680,000円.
- 2) 日本学術振興会 学術研究助成基金・若手研究（B），（継続），3年間，新しい局所麻酔薬の開発—塩酸デクスメデトミジン添加塩酸リドカインの鎮痛効果—，筒井友花子，4,450,000円（課題番号：23792389）.

8. 研究業績

A. 著書

記載事項なし

B. 原著

記載事項なし

C. 総説・解説

記載事項なし

D. 報告（臨床・症例・研究等）・紀要

1. 渥美元成，筒井友花子，砂田勝久，下町香苗，宮下直也：レミフェンタニルで管理した WPW 症候群患者の悪日帰り麻酔経験，臨床麻酔，37（10）：1513-1514，2013.
2. 森本恵子，砂田勝久，小倉 晋，篠原健一郎：RRa（Acoustic Respiration Rate）モニターは静脈内鎮静法下歯科治療時の呼吸数測定に有用である，日歯麻誌，42（1）：8-11，2013.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 筒井友花子, 砂田勝久: Dexmedetomidine は循環動態に影響を与えることなくリドカインの局所麻酔作用持続時間を延長させる, 41 (4): 476, 2013.
2. 秋本琢磨, 安田麻子, 山城 三, 喜子橋本修一, 砂田勝久: デクスメデトミジン添加塩酸塩添加リドカインをラット口腔内に投与した場合のリドカインの分布及び体性感覚誘発電位に与える影響について: 日歯麻誌, 41 (4): 478, 2013.
3. 新崎巴月, 平島潤子, 砂田勝久, 山城三喜子: 血友病 A を合併する患者の全身麻酔経験, 日歯麻誌, 41 (4): 487, 2013.
4. 田中秀明, 砂田勝久: 頸椎カラー装着患者に対する全身麻酔経験, 日歯麻誌, 41 (4): 495, 2013.
5. 井出正俊, 勝山直彦, 砂田勝久: プロポフォール, レミフェンタニル麻酔における筋弛緩薬の必要性に関する研究, 日歯麻誌, 41 (4): 498, 2013.
6. 森本恵子, 大藤理恵, 田中秀明, 砂田勝久: フェリプレシン添加プロピトカインが高血圧自然発症ラットの循環動態に与える影響, 日歯麻誌, 41 (4): 522, 2013.
7. 酒井有沙, 辻本源一郎, 山口さやか, 砂田勝久: アドレナリンがクロロプロマジン投与ラットの循環動態および心機能に与える影響について: 日歯麻誌, 41 (4): 523, 2013.
8. 町田詩織, 佐藤奈々, 筒井友花子, 橋本修一, 砂田勝久: 塩酸デクスメデトミジンがリドカインの坐骨神経複合活動電位および神経内滞留時間に及ぼす影響, 日歯麻誌, 40 (4): 528, 2013.
9. 岡本 豊, 添田和真, 山城三喜子, 砂田勝久: Bluetooth を用いたワイヤレス聴診器の開発第2報: 呼吸数, 装着感, 音響特性の検討, 日歯麻誌, 41 (4): 544, 2013.
10. 渥美元成, 砂田勝久, 高田清美: 顔面神経麻痺ラットに対する星状神経節ブロックの効果の検討, 日歯麻誌, 41 (4): 550, 2013.
11. 笹内杏子, 砂田勝久, 中村達雄: イヌ長期硬膜外ブロックモデルにおける硬膜外組織と麻酔効果の変化, 日歯麻誌, 41 (4): 551, 2013.
12. 宮下直也, 砂田勝久, 下町香苗, 山城三喜子, 伊藤みゆき, 大島あゆみ, 栗林由美子, 望月扶美: 全身麻酔下歯科治療が誘因となって重積発作を起こしたてんかん患者の1例, 障害者歯科, 34 (3): 210, 2013.
13. 三浦 誠, 石川博之, 濱 陽子, 西村三美, 砂田勝久, 山城三喜子, 関田俊介, 粕谷 寛, 吉田直人, 富房 満, 藤井達士: 咬合崩壊した精神遅滞患者に HIP-Plane を応用し咬合再構成を行った2例, 障害者歯科, 34 (3): 224, 2013.
14. 筒井友花子, 佐々木隆子, 高野宏二, 砂田勝久: 高度肥満により血圧測定用マンシェット使用困難症例に対する日帰り全身麻酔下歯科治療経験, 障害者歯科, 34 (3): 514, 2013.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 砂田勝久：こんな患者さんが来院したら…，第43回日本口腔インプラント学会，専門医教育講座，福岡，2013年9月13日．

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 筒井友花子：歯科麻酔のこれから 第30回関東臨床懇話会記念ワークショップ，第30回関東臨床歯科麻酔懇話会，昭和大学歯学部全身管理歯科学講座，2012年6月8日．
2. 渥美元成，筒井友花子，砂田勝久，下町香苗，宮下直也：WPW 症候群を有する患者の外来全身麻酔経験，第30回関東臨床歯科麻酔懇話会，昭和大学歯学部全身管理歯科学講座，2012年6月8日．
3. 田中秀明，砂田勝久，デクスメデトミジン添加2%リドカインの口腔内投与がラット循環動態に与える影響，日本歯科大学歯学会研究推進フォーラム，東京，12月12日．
4. 渥美元成，筒井友花子，砂田勝久，宮下直也，下町香苗：WPW 症候群を有する患者の外来全身麻酔経験，第30回関東臨床歯科麻酔懇話会，昭和大学歯学部，6月8日．
5. 砂田勝久：ここまでわかる健康調査票の見方・伝え方，東京，12月15日．
6. 砂田勝久：聞くとよく効く麻酔の話，滝野川歯科医師会，東京，3月15日．
7. 砂田勝久：緊急時の対応，愛知県校友会，名古屋市（11月30日），相馬歯科医師会，相馬市（12月7日），比企郡歯科医師会，比企郡（9月1日）．
8. 砂田勝久：こんな患者が来院したら，日立市歯科医師会，日立市（7月6日），コサカ学術研修会，東京（9月19日）．
9. 砂田勝久：心肺蘇生法 ガイドライン2010を知ろう！，東京都歯科衛生士会ベーシックセミナー，東京，4月28日．
10. 砂田勝久：有病者の歯科診療で押さえておきたいポイントについて，東京都心身障害者口腔保健センター歯科衛生士集団研修，東京，1月19日．

● 歯科矯正学講座 Department of Orthodontics

1. 所属構成員等

教 授	新井 一仁
講 師	織田聰一郎
助 教	呉 健一, 織田 (比佐) 育世, 鈴木 章弘
客員教授	青葉 恒夫, 大野 肅英, 近藤 悦子
客員准教授	中村 俊弘
客員講師	白賀のり子
非常勤講師	隅田 能英, 堂 信夫, 菊池 薫, 藤城 康二, 上保 基 大坪 邦彦, 稲井真紀子, 新谷まきは, 大野由希肅, 白須賀直樹 渡辺 和也, 星野 亨
臨床研究生	秦 響子, 木本 晶子
大学院生	太田 (杉山) 佳菜子, 栃木 啓佑, 秋山宗太郎, 佐是奈織美 塩谷 翔太, 生駒 美沙

2. 研究テーマ

- 1) 歯列弓形態の三次元的分析 Three-dimensional morphometric analysis of dental arch form.
- 2) プリアジャステッド・アプライアンスのメカニクスに関する臨床的研究 Clinical study in treatment mechanics of preadjusted appliances.
- 3) 不正咬合の人類学的研究 Anthropological study of malocclusion.
- 4) 歯の異常の遺伝的背景 Genetic origin of dental anomalies.
- 5) 矯正力の三次元バイオメカニクス Three-dimensional biomechanics of orthodontic force.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

- 1) 大坪邦彦, 藤田浩嗣, 丸川恵理子, 伊藤努, 今井なほこ, 海老原康宏, 小笠原法子, 櫻井誠人 : 第72回 日本矯正歯科学会大会 学術大会優秀発表賞受賞, 2013年10月9日「下顎第二および第三大臼歯の重積状水平埋伏の2症例」.

4. 学位取得者

- 1) 杉山佳菜子 : 「日本人 Angle II 級 2 類不正咬合と永久歯先天性欠如との関連性」, 平成26年3月7日, 日本歯科大学.

5. 主催学会等

- 1) Prof. Doron Harai (Professor, University of Hebrew) 講演会, 「Dental Anomaly Pattern」日本歯

科大学生命歯学部歯科矯正学講座，2013年4月10日，歯科矯正学講座（新井一仁）。

2) 東京都歯科医師会卒後研修会，「混合歯列期における反対咬合の治療—新世代の矯正歯科材料，その基礎と臨床—」日本歯科大学，2013年9月5日，歯科矯正学講座（新井一仁）。

3) Dr. Sean EV Chung, HBSc, MSc, DMD, MSc (Ortho), FRCD (C), Orthodontist and Undergraduate Orthodontics Instructor, Orthodontic approaches at The University of Toronto, 生命歯学部歯科矯正学講座，2014年2月14日，歯科矯正学講座（新井一仁）。

6. 国際交流状況

1) 新井一仁：Prof. Leslie A. Will and Dr. Matt R. Miner（米国，Department of Orthodontics, Boston University）との共同研究，「歯列弓・歯槽基底弓形態の三次元的分析」，2001年～継続中。

2) 新井一仁：Prof. Sheldon Peck（米国，University of North Carolina）との共同研究，「Japanese Angle Students from 1907 to 1926」，「Ethnic difference in orthodontics」，2006年～継続中。

3) 新井一仁：Dr. Pornrachanee Sawaengkit（タイの Mahidol University, School of Dentistry, Department of Orthodontics）との共同研究，「日本人とタイ人の歯科矯正学における形態計測学的研究」，2010年～継続中。

4) 新井一仁，織田聰一郎：Special Residency in Orthodontics, Boston University Henry M. Goldman School of Dental Medicine, Division of Continuing Education の開催協力，米国ボストン市，2013年9月20日～24日。

7. 外部研究費

1) 東京都歯科医師会，委託研究費（新規），平成25年9月5日実施，「混合歯列期における反対咬合の治療—新世代の矯正歯科材料，その基礎と臨床—」，新井一仁，890,468円。

8. 研究業績

A. 著書

1. 渡辺和也（分担執筆）：日本成人矯正歯科学会編，「成人矯正歯科治療」，可撤式矯正装置による成人治療例，p.156-160，東京，クインテッセンス出版株式会社，2014年。

B. 原著

1. Toshihide Ohno, Yuji Hasaka. The dawn of modern dentistry in Japan : The transfer of knowledge and skills from foreign dentists to Japanese counterparts in the Yokohama Foreign Settlement. Japanese Dental Science Review, 2013 ; 49 : 5-13.

2. Hasegawa Y, Amarsaikhan B, Chinvipas N. Tsukada SI, Terada K, Uzuka S, Miyashita W, Iguchi S, Arai K, Kageyama I, Nakahara S, Comparison of mesiodistal tooth crown diameters and arch dimensions between modern Mongolians and Japanese, ©Odontology, 2013. DOI 10. 1007/s10266-013-0130-5.

3. Kazuo Shimazaki, Kunihiro Otsubo, Ikuo Yonemitsu, Sachiko Kimizuka, Susumu Omura, and Takashi Ono. Severe unilateral scissor bite and bimaxillary protrusion treated by horseshoe Le Fort I osteotomy combined with mid-alveolar osteotomy, Angle Orthodontists, 2014 ; 84 (2) : 374-379.

C. 総説・解説

1. 新井一仁：矯正歯科における抜歯頻度の意義，日本臨床矯正歯科医会雑誌，25（1）：3-8，2013.
2. 新井一仁：行雲流水「アングルの生い立ち—牧場のハート—」，東京都歯科医師会雑誌，62（1）：52，2013.
3. 新井一仁：Conress and Semior 第40回記念日本矯正歯科医会東京大会レポート「矯正歯科医会 この10年とこれから」臨床セミナー・矯正歯科治療における抜歯頻度の意義，矯正臨床ジャーナル Journal of Orthodontic Practice, 29（4）：105，2013.
4. 新井一仁：委員会だより，卒後教育研修委員会・研修機関検討委員会，JOS Information Letter, 2013-No.1：14，2013.
5. 新井一仁：編集委員会から一新企画：英文雑誌に掲載された論文の紹介—，東京矯正歯科学会雑誌，2013-No.2：95，2013.
6. 新井一仁：委員会だより，卒後教育研修委員会・研修機関検討委員会，JOS Information Letter, 2014-No.1：10，2014.
7. 宮澤 健，新井一仁：指導者講習会「基本・臨床研修施設の新規申請と実態報告，および実地調査について」，第72回日本矯正歯科学会大会，プログラム・抄録集，129，2013.
8. 織田聡一郎：混合歯列期における歯列弓周長の維持に関連した下顎第二大臼歯萌出障害，東京矯正歯科学会雑誌，23：152，2013.
9. 大野肅英，大野由希肅：形態から機能へのパラダイムシフト，日本歯科評論，9月号，No. 851，Vol.73（9）：33-40，2013.

D. 報告（臨床・症例・研究等）・紀要

1. 平林あすか，藤城康二：上顎両側犬歯の低位唇側転位を伴う Angle I 級叢生症例．東京矯正歯科学会雑誌，23（2）：112-116，2013.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 大野肅英，羽坂勇司，齊藤眞且，高橋滋樹，安藤嘉明：乃木将軍の義歯と上顎模型，第41回日本歯科医史学会総会・学術大会，日本歯科大学生命歯学部，東京，日本歯科医史学会会誌，30

- (2) : 113-114, 一般口演 7, 2013年 5 月.
2. 鈴木章弘, 新井一仁, 比佐育世, 秋山宗太郎, 佐是奈織美: 骨格性下顎前突症の下顎における歯列弓と歯槽基底弓の形態学的分析, 第23回日本顎変形症学会総会・学術大会, 大阪府, 大阪市, 日本顎変形症学会雑誌, 23 (2) : 149, 2013年 5 月.
 3. 土持 宇, 片岡彩乃, 小林さくら子, 小森 成, 柳下秀郎, 藤城建樹, 莊司洋文, 新井一仁: 日本歯科大学附属病院における過去11年間の顎変形症治療の臨床統計的検討, 第23回日本顎変形症学会総会・学術大会, 大阪府, 大阪市, 日本顎変形症学会雑誌, 23 (2) : 157, 2013年 5 月.
 4. 呉 健一, 新井一仁, 織田聰一郎, 鈴木章弘, 秦 響子, 木本晶子, 太田佳菜子, 栃木啓佑, 秋山宗太郎, 佐是奈織美, 佐野奈都貴, 寺田員人: 歯科関連教育機関の学生に対する矯正歯科治療における抜歯頻度のアンケート調査, 第72回東京矯正歯科学会大会, 東京, 第72回東京矯正歯科学会大会 抄録集, 26頁 (演題 3 - 5), 東京矯正歯科学会雑誌, 23 (2) : 124, 2013年 7 月.
 5. 太田佳菜子, 新井一仁, 織田聰一郎, 呉 健一: 日本人女性 Angle II 級 2 類不正咬合における歯冠近遠心幅径および歯の異常の発現頻度, 第72回東京矯正歯科学会大会, 東京, 第72回東京矯正歯科学会大会 抄録集, 26頁 (演題 2 - 6), 東京矯正歯科学会雑誌, 23 (2) : 124, 2013年 7 月.
 6. 内田裕子, 岩崎由香利, 宮下 渉, 小林さくら子, 宇塚 聡, 安藤文人, 鹿野千賀, 土持航, 片岡彩乃, 鈴木章弘, 小森 成, 新井一仁: 日本歯科大学附属病院卒後研修プログラムにおけるブラケットポジショニング実習の終了検定の評価について, 第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, 北海道, 札幌, 第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 167頁, P2-66, 2013年 7 月.
 7. 比佐育世, 織田聰一郎, 鈴木章弘, 木本晶子, 新井一仁: 叢生を伴う Angle I 級不正咬合の下顎前歯部における歯列弓・歯槽基底弓形態と歯冠近遠心幅径の特徴, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 139頁, 学展 -008, 2013年10月.
 8. 織田聰一郎, 新井一仁, Leslie A, Will, R, Matthew Miner, 比佐育世, 木本晶子: ボストン大学において非抜歯で治療した Angle I 級症例の歯列弓と歯槽基底弓形態の関係, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 140頁, 学展 -010, 2013年10月.
 9. 太田佳菜子, 新井一仁, 織田聰一郎, 呉 健一, 鈴木章弘, 栃木啓佑, 佐是奈織美: 過蓋咬合を伴う日本人女性 Angle II 級 2 類不正咬合の形態的特徴, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 149頁, 学展 -028, 2013年10月.
 10. 太田佳菜子, 新井一仁, 織田聰一郎, 呉 健一, 比佐育世, 鈴木章弘, 栃木啓佑, 秋山宗太郎: 日本人女性 Angle II 級 2 類不正咬合の歯冠近遠心幅径と歯列弓幅径, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 150頁, 学展 -

029, 2013年10月.

11. 栃木啓佑, 新井一仁, 大坪邦彦, 宮坂 平, 織田聰一郎, 呉 健一, 鈴木章弘, 太田佳菜子, 佐是奈織美: 下顎側切歯舌側転位における2種類の結紮方法間でみた矯正力分布の比較, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 176頁, 学展 -081, 2013年10月.
12. 川邊紀章, 古森紘基, 片岡伴記, 白賀のり子, 大野 彩, 窪木拓男, 山城 隆: 矯正歯科治療終了時の口腔関連 Quality of Life の評価, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 223頁, 学展 -175, 2013年10月.
13. 今井なほこ, 大坪邦彦, 藤田浩嗣, 海老原康宏, 小笠原法子, 櫻井誠人, 高梨桂子: 片側性缺状咬合の治療に適用した, ニッケルチタン合金線を組み込んだ機能的矯正装置の考案, 第72回日本矯正歯科学会大会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 246頁, 学展 -221, 2013年10月.
14. 小林さくら子, 土持 宇, 鈴木章弘, 片岡彩乃, 植木健次郎, 吉屋慶章, 岩崎由香利, 安藤文人, 栗原綾子, 後藤尚昭, 宮下 渉, 宇塚 聡, 小森 成, 藤城建樹, 新井一仁, 日本歯科大学附属病院における顎変形症治療の術前術後矯正治療期間, 第72回日本矯正歯科学会大会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 259頁, 学展 -247, 2013年10月.
15. 大野由希爾, 山口史絵, 大野肅英: 当院における成人開咬症例に対する MFT 指導, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 281頁, 学展 -291, 2013年10月.
16. 芳賀秀郷, 山口徹太郎, 中畑博史, 佐本 博, 大野肅英, 井上逸朗, 榎宏太郎: ゲノムワイド関連解析から固定される第三大臼歯欠如をもたらし遺伝要因の探索, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 286頁, 学展 -302, 2013年10月.
17. 木本晶子, 新井一仁, 織田聰一郎, 比佐育世, 鈴木章弘, 栃木啓佑: 臨床歯冠長の10% FA point から垂直的に変位した計測点における唇頬舌的位置, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 288頁, 学展 -305, 2013年10月.
18. 渡木澄子, 和田昌久, 田中千元, 中村桂子, 菅沼與明, 林 宏己, 渡辺和也, 二宮 隆, 古賀正忠: McLaughlin システムを用いた過蓋咬合症例, 第72回日本矯正歯科学会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 309頁, 症展 -038, 2013年10月.
19. 大坪邦彦, 藤田浩嗣, 丸川恵理子, 伊藤努, 今井なほこ, 海老原康宏, 小笠原法子, 櫻井誠人: 下顎第二および第三大臼歯の重積状水平埋伏の2症例, 第72回日本矯正歯科学会大会, 長野県, 松本市, 第72回日本矯正歯科学会大会プログラム・抄録集, 312頁, 症展 -044, 2013年10月.
20. 新谷まきは, 新谷明一: ネット状グラスファイバーが歯科矯正用接着材の接着強さに及ぼす影

響，第60回日本歯科理工学会学術講演会，新潟県，新潟市，日本歯科理工学会誌，32（5）：371，2013年10月．

21. 土屋さやか，大野由希肅，橋本律子，花田三典，山口史絵，大野肅英：骨格性下顎前突患者の外科的矯正治療へのMFTの取り入れ方，第1回日本口腔筋機能療学会学術大会，東京都，渋谷区，第1回日本口腔筋機能療学会学術大会プログラム・抄録集，22頁，2013年11月．
22. 大野肅英，齊藤眞且，羽坂勇司，守屋義雄，鈴木彰，佐久間啓文：乃木希典將軍の総義歯と上顎石膏模型，第12回神奈川県歯科医師会学術大会，神奈川県，横浜市，神奈川県歯科医師会第12回学術大会・抄録集，16頁，A-5，2014年1月．
23. 齊藤眞且，大野肅英，羽坂勇司，守屋義雄，鈴木彰，佐久間啓文：歯科軍医（歯科医将校制度）誕生の道のり，第12回神奈川県歯科医師会学術大会，神奈川県，横浜市，神奈川県歯科医師会第12回学術大会・抄録集，17頁，A-6，2014年1月．
24. 大坪邦彦：矯正用NiTi合金線の口腔内における本当の矯正力は？，第41回日本臨床矯正歯科医会大会，宮城県，仙台市，第41回日本臨床矯正歯科医会大会抄録集，35頁，2014年2月．

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 大野肅英：教育講演，MFTで口腔機能改善—小児，歯周，補綴に広がる活用—，第12回神奈川県歯科医師会学術大会，パシフィコ横浜，横浜市，2013年1月12日．
- 2) 大野肅英：特別講演，江戸時代の歯科事情，第29回東北矯正歯科学会大会，青森県，弘前市，2013年5月26日．
- 3) 大野肅英：基調講演，MFTの日本への導入から今後の展開，第31回日本小児歯科学会九州大会および総会，シンポジウム「実践！筋機能療法」，福岡県歯科医師会館，福岡市，2013年10月20日．
- 4) 大野肅英：教育講演，日本へのMFT導入から今後のMFTの活用について，第12回日本口腔筋機能学会，研修会，津田ホール，東京，2013年11月14日．

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. Kunihiro Otsubo：What is the true orthodontic force of NiTi wires in the oral environment?, The Angle Society (Angle East), New Paltz, New York, 2013年4月11日～14日．
2. 渡辺和也：ストレートワイヤーエッジワイズシステムの臨床，松風矯正セミナー，松風東京支社B1ホール，東京，2013年10月31日．
3. 新井一仁：混合歯列期に見られる歯の異常パターン，鹿児島大学同窓会，鹿児島大学歯学部，鹿児島，2013年5月19日．
4. 新井一仁：アングルからのメッセージ，鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科矯正学専攻，鹿児島大学歯学部，鹿児島，2013年5月19日．

5. 新井一仁：矯正治療の開始時期，鹿児島大学歯学部第4学年特別講義，鹿児島大学歯学部，鹿児島，2013年5月20日.
6. 新井一仁：基本・臨床研修機関の新規申請と実態報告，および実地調査について，第72回日本矯正歯科学会大会・指導者講習会，キッセイ文化ホール，長野，2013年10月7日.
7. 渡辺和也：システムイズドオールソドンティックメカニクスとストレートワイヤーエッジワイズシステムの臨床，東京歯科大学矯正学講座研修課程講義，千葉，2013年11月7日.
8. 新井一仁：Edward H. Angle の生い立ち，福岡歯科大学口腔歯学部歯科矯正学講座講演会，福岡歯科大学口腔歯学部歯科矯正学講座，福岡，2013年11月12日.
9. 大野肅英：教育講演，日本への MFT 導入から今後の MFT の活用について，第12回日本口腔筋機能学会，研修会，津田ホール，東京，2013年11月14日.
10. 古賀正忠，渡辺和也：ストレートワイヤーエッジワイズのためのインダイレクトボンディング，松風東京支社 B1ホール，東京，2014年1月21日.
11. 渡辺和也：矯正治療の考え方〜クリアアライナー成功のためのヒント，和田精密2014年社内研修会，明治安田生命十三ビル9階，大阪，2014年1月26日.
12. 渡辺和也：ストレートワイヤーエッジワイズシステムの臨床，慶應義塾大学医学部歯科口腔外科学講座セミナー，東京，2014年2月10日.
13. 新井一仁：永久歯先天性欠如の不思議，第41回日本臨床矯正歯科医会記念大会，仙台国際センター，宮城，2014年2月13日.
14. 織田聡一郎：撮ってその場ですぐ見せられる確実な口腔内写真とその応用，日本歯科大学校友会学術フォーラム2014，日本歯科大学生命歯学部，東京，平成26年2月16日.

● 小児歯科学講座 Department of Pediatric Dentistry

1. 所属構成員等

教 授	荻部 洋行
講 師	河上 智美, 名生 幸恵, 島津 貴咲
助 教	加藤 雄一
臨床研究生	中村 侑子
客 員 教 授	小口 春久
非常勤講師	坂井 正彦, 萩原 洋子, 石井 伸明, 米山 博己, 宮島 圭介 小方 清和, 酒寄 浩章, 岡本亜祐子, 萩原 栄和, 中 暁子
大 学 院 生	小口 莉代
聴 講 生	望月 真衣 (4月～9月)

2. 研究テーマ

- 1) 若年期のTMDに関する研究 Temporomandibular disorders in children and adolescents.
- 2) 小児の歯科治療における情動変化に関する研究 Mechanism of emotional change in children during dental treatment.
- 3) 全身疾患を有する小児の歯・顎顔面頭蓋の成長に関する研究 Dent-maxillo-craniofacial growth in children with systematic disease.
- 4) 小児期における口腔疾患の発症機序の解明とその予防に関する研究 Prevention of dental disease for children.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

- 1) 日本歯科大学歯学会学術奨励賞, 島津貴咲, 2013年6月8日, Contribution of phosphogluco-
cosamine mutase to determination of bacterial cell morphology in *Streptococcus gordonii*.
- 2) 第51回日本小児歯科学会大会 大会優秀発表賞, 中村侑子, 2013年5月24日, シクロホスファミ
ドによるマウス歯根形成抑制の3次元再構築.

4. 学位取得者

記載事項なし

5. 主催学会等

- 1) 平成25年度日本歯科大学校友会女性の会スタディーコース, 東京・日本歯科大学生命歯学部,
2013年9月29日, 荻部洋行.

6. 国際交流状況

- 1) 共同研究：荻部洋行, Dr. Greg Goddard, Prof. Charles McNeill (アメリカ, カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部) との共同研究, 「若年期 TMD 患者の治療効果に関する研究」(継続中).

7. 外部研究費

- 1) 日本学術振興会研究費, 基盤研究 (C) 一般 (新規), 平成25～28年度, 荻部洋行 (代表), 非侵襲的脳機能画像法を用いた歯科恐怖症に対する効果的な認知行動技法の定量的評価, 5,070,000円.
- 2) 日本学術振興会研究費, 基盤研究 (C) 一般 (継続), 平成23～25年度, 河上智美 (代表), 荻部洋行 (分担), 抗腫瘍薬による歯周組織障害の組織学的考察および効果的なう蝕予防法の検討, 5,200,000円.
- 3) 文部科学省科学研究費, 若手研究 (B) 一般 (継続), 平成24～25年度, 島津貴咲 (代表), 新規シーラント材による初期齲蝕の再石灰化療法と持続的な齲蝕予防プロトコルの確立, 3,900,000円.
- 4) 文部科学省科学研究費, 若手研究 (B) 一般 (継続), 平成24～26年度, 割田幸恵 (代表), 健全エナメル質フッ素化度測定による新たなカリエスリスク判定基準の開発, 4,420,000円.
- 5) 日本学術振興会研究費, 基礎研究 (B) 一般 (継続), 平成24～27年度, 藤原卓 (代表), 荻部洋行 (分担), 子どもの心と身体を見守り支援する大規模データ収集とリスク予測モデル構築, 16,900,000円.
- 6) 株式会社 松風 奨学寄附金, 荻部洋行, S-PRG フィラー含有シーラントの齲蝕予防効果の検討, 300,000円.

8. 研究業績

A. 著書

1. 河上智美 (分担執筆): Ⅲ臓器別・症状別フォローアップガイドライン⑤口腔組織・歯牙, p.255-256, 小児がん治療後の長期フォローアップガイドライン, 前田美穂編, 医薬ジャーナル, 東京, 2013.

B. 原著

1. Shimazu K, Ogata K, Karibe H. Evaluation of the caries-preventive effect of three orthodontic band cements in terms of fluoride release, retentiveness, and microleakage, ☆Dent Mater J. 2013 ; 32 (3) : 376-380. doi : 10.4012/dmj. 2012-283.
2. Karibe H, Goddard G, Okubo M. Comparison of masticatory muscle myofascial pain in patients with and without a chief complaint of headache, ☆Cranio, 2014, 32 (1), 57-62. doi : 10.1179/0886963413Z.0000000006.
3. Aoyagi-Naka K, Koda A, Kawakami T, Karibe H. Factors affecting psychological stress in children who cooperate with dental treatment : a pilot study, ☆Eur J Paediatr Dent. 2013 ; 14 (4) : 263-

4. *Koda A, Karibe H. Subjective ratings and autonomic responses to dental video stimulation in children and their mothers, ○ Ped Dent J, 2013, 23 (2), 79-85. doi : 10.1016/j.pdj.2013.04.002. (学位論文)
5. *中村侑子, 河上智美, 荻部洋行: シクロホスファミドによるマウス臼歯の歯根形成抑制と歯の萌出遅延, ○小児歯誌, 2013 : 51 (3) : 360-371. (学位論文)
Nakamura Y, Kawakami T, Karibe H. Inhibition of molar eruption and root elongation by cyclophosphamide in young mice, ○ Jpn. J. Ped. Dent, 2013 : 51 (3) : 360-371.
6. 富田 淳, 雲野泰史, 近藤建示, 小口春久: CAD/CAM で作製したレジンパターンの寸法精度に関する研究—サポートワックス除去前の寸法精度—, ○日歯大東短誌, 2013 ; 3 (1) : 70-76.
Tomita A, Kumono Y, Kondo K, Oguchi H. Research on the accuracy of dimensions of resin patterns manufactured by CAD/CAM—Accuracy of dimensions before support wax removal—, ○ J of Nippon Dental University College at Tokyo, 2013 ; 3 (1) : 70-76.
7. 雲野泰史, 富田 淳, 竹井利香, 佐藤 勉, 小口春久: 本短期大学専攻科における専門性の高い歯科技工士教育のあり方に関する研究—第1報 認定専攻科設立間近5年間の教育の検証—, ○日歯医療管理誌, 2013 : 483 (3) : 217-228.
Kumono Y, Tomita A, Takei R, Sato T, Oguchi H. Study of the highly specialized dental technician education in the advanced course at the Nippon Dental University College at Tokyo —First report : Evaluation of education in five years immediately before establishment of the certified advanced course—, ○Jpn J. Dent. Prac. Admin, 2013 : 48 (3) : 217-228.
8. 尾崎順男, 須田真理, 小泉順一, 佐藤 勉, 池田理恵, 小口春久: 歯科技工学科学生と歯科衛生学科学生に対する相互の職種についての認知度と今後の教育の検討, ○日歯医療管理誌, 2014 ; 48 (4) : 283-289.
Ozaki Y, Suda M, Koizumi J, Sato T, Ikeda R and Oguchi H : Evaluation of interprofessional perception and future education of students of the department of dental technology and the department of dental hygiene, ○Jpn J. Dent. Prac. Admin, 2014 : 48 (4) : 284-289.

C. 総説・解説

1. 河上智美: 歯科における小児がん治療後の留意点とフォローアップ, 日本小児血液・がん学会雑誌, 50 (3) : 378-382, 2013.
2. 島津貴咲: S-PRG フィラー含有シーラントの齲蝕予防効果の検討, 小児歯誌, 51 (3) : 347-352, 2013.
3. 島津貴咲: *Streptococcus gordonii* の Phosphoglucosamine Mutase は細菌形態形成に寄与する, 歯学, 101 (秋季特集号) : 83-84, 2013.
4. 島津貴咲, 荻部洋行: 歯科金属アレルギーと小児歯科治療の留意点, 小児科, 54 (6) : 923-

929, 2013.

5. 島津貴咲, 荻部洋行: 乳歯が生えてきた! ばっちりわかる ここからのケア&指導 知っておきたい! この時期の口腔粘膜疾患, 歯科衛生士, Vol.37 April: 59, 2013.

D. 報告 (臨床・症例・研究等)・紀要

1. 河上智美: 日常臨床における小児歯科のワンポイントレッスン, 茨城県歯科医学会誌, 21: 97, 2013.
2. 河上智美: 体のしくみシリーズ② 食物を噛み砕き細かくする歯, 中学保健ニュース, 10月18日号 (No.1573): 2013.
3. 関口洋子, 合場千佳子, 野村正子, 市川順子, 須田真理, 鈴木 恵, 池田亜紀子, 小倉千幸, 浦野揺子, 池田利恵, 小口春久. 車椅子体験実習の教育効果に関する検討—プレテスト・ポストテストによる実習評価を用いて—一日歯大東短誌, 3 (1): 143-147, 2013.
4. 雲野泰史, 近藤健示, 小口春久. 大学評価・学位授与機構における「学士 (口腔保健学) (専攻区分: 口腔保健技工学)」の新設について—歯科技工学専攻科生と総合技工学専攻科生の比較を交えて—一日歯教誌, 29 (1): 39-48, 2013.
5. 小口春久: 矯正歯科治療における口腔衛生管理の重要性—歯科衛生士の役割と社会の目—, 日成人矯歯誌, 20 (1): 198-207, 2013.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. Karibe H, Shimazu K, Kato Y, Warita-Naoi S, Kawakami T. Factors affecting symptoms of temporomandibular disorders in adolescents, Int J Paediatr Dent, 23 (Suppl. 1): 158, 2013.
2. Kawakami T, Nakamura Y, Karibe H. Inhibition of the molar root formation by cyclophosphamide in young mice, Int J Paediatr Dent, 23 (Suppl. 1): 198, 2013.
3. Nakamura Y, Kawakami T, Karibe H. Cyclophosphamide on dental developmental defects in growing mice, Int J Paediatr Dent, 23 (Suppl. 1): 190, 2013.
4. Kato Y, Shimazu K, Karibe H. Relationship between belief in dentists and anxiousness in adolescents. Int J Paediatr Dent, 23 (Suppl. 1): 99, 2013.
5. Shimada M, Warita-Naoi S, Shimomura-Kuroki J, Inoue M, Asada Y, Takano H. A research on lifestyles of female dentists in Japanese society of pediatric dentistry –part 1. The present situation of Japanese female pediatric dentists, Int J Paediatr Dent, 23 (Suppl. 1): 170, 2013.
6. Sato A, Warita-Naoi S, Ogawa Y, Enomoto M, Sakuma A, Aso Y. Caries management of under 3-year-old Japanese children using their and their mother's Cariogram data, Int J Paediatr Dent, 23 (Suppl. 1): 231, 2013.

7. Warita-Naoi S, Karibe H, Kawakami T, Suzuki A, Umezu Y, Uchikawa Y. Dental students' perception of pre-clinical practice in pediatric dentistry, Int Dent J, 63 (Suppl. 1) : 152, 2013.
8. Sato A, Warita S, Ogawa Y, Kimura M, Enomoto M, Sakuma A, Aso Y. Caries management of young children using their mother's Cariogram data, Int Dent J, 63 (Suppl.1) : 152, 2013.
9. Yoh H, Uchikawa Y, Akiyama H, Muramatsu K, Matsuzaki Y, Sekimoto T, Karibe H. Perception of Dental Traumas by Dental Practitioners. 2nd Meeting of the International Association for Dental Research Asia Pacific Region Program and Abstract Book, 45, 2013.
10. Karibe H, Koeda M, Tateno A, Suzuki H, Okubo Y. Brain activity during the presentation of dental treatment sounds : an fMRI study. 43rd Society for Neuroscience, San Diego, <http://www.abstractsonline.com/Plan/ViewAbstract.aspx?sKey=7f933141-7bb9-4b47-a49a-4287713a2d5c&cKey=b4f76eb1-6f78-4e94-b6f8-6549451f06a5&mKey=%7b8D2A5BEC-4825-4CD6-9439-B42BB151D1CF%7d>
11. 島津貴咲, 小方清和, 荻部洋行: サーマルサイクル負荷による各種バンド用セメントの微小漏洩の評価, 小児歯誌, 51 (2) : 291, 2013.
12. 島津貴咲, 小方清和, 荻部洋行: 充填材料の接着における唾液混入の影響, 2013年度日本歯科保存学会春季学術大会 (第138回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版) : 95, 2013.
13. 加藤雄一, 石井隆資, 岡田智雄, 荻部洋行: フルボキサミンとミルナシプランの併用によって奏功した舌痛症と口臭恐怖症の1例, 日歯心身, 28 (1-2) : 52, 2013.
14. 中村侑子, 河上智美, 荻部洋行: シクロホスファミドによるマウス歯根形成抑制の3次元再構築, 小児歯誌, 51 (2) : 275, 2013.
15. 白瀬敏臣, 河上智美, 中村侑子, 内川喜盛: 外傷による小児の歯根破折歯に外科的挺出を応用した2例, 小児歯誌, 51 (2) : 214, 2013.
16. 永島未来, 大津光寛, 平林幹貴, 羽村 章, 荻部洋行, 岡田智雄, 石井隆資, 石川結子: 当センターにおける歯科治療恐怖症例, 1年経過後の傾向, 障歯誌, 34 (3) : 247, 2013.
17. 横山美世子, 朝倉美希, 大野 智, 角掛 愛, 中村元一, 巻 祐太, 水沼詩葉, 加藤雄一, 島津貴咲: 歯磨きによる唾液酸緩衝能の変化, 第28回日本小児科学会関東地方大会・総会抄録集, 47, 2013.
18. 鈴木 恵, 茂原宏美, 小倉千幸, 池田亜紀子, 須田真理, 関口洋子, 市川順子, 野村正子, 合場千佳子, 池田利恵, 内川善盛, 岡田智雄, 大津光寛, 大澤銀子, 北原和樹, 佐藤 勉, 小口春久: 本学1年生に実施した「コミュニケーション概論」について第3報2年間の実施状況と評価, 第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 101, 2013.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 島津貴咲: Contribution of phosphoglucosamine mutase to determination of bacterial cell morphology in *Streptococcus gordonii*, 平成25年度日本歯科大学歯学会大会・総会, 学術奨励賞受賞

賞講演，新潟，2013年6月8日．

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 名生幸恵：CAMBRA ってなんでしょう？ ―リスク評価に基づく齲蝕管理のススメー，平成25年度日本歯科大学校友会女性の会スタディーコース，東京，2013年9月29日．
2. 島津貴咲：S-PRG ってなんでしょう？ ―進化した予防歯科材料―，平成25年度日本歯科大学校友会女性の会スタディーコース，東京，2013年9月29日．
3. 荻部洋行：若年期の顎関節症への対応，平成25年度日本歯科大学校友会女性の会スタディーコース，東京，2013年9月29日．
4. 荻部洋行：歯科恐怖における脳神経メカニズム～脳機能画像からみた歯科恐怖～，第20回心療歯科診療センターイブニングセミナー，東京，2014年1月30日．
5. Kawakami T：Cyclophosphamide Inhibits Molar Root Formation in Growing Mice, 日本歯科大学歯学会 English 学内発表会，東京，2014年3月7日．

● 歯科放射線学講座

Department of Oral and Maxillofacial Radiology

1. 所属構成員等

教 授 代居 敬
准 教 授 佐藤 健児, 河合 泰輔
講 師 浅海利恵子
助 教 モミン・アブドゥル・モハマド
非常勤講師 橋本 光二, 有地 淑子, 飯久保正弘, 香川 豊宏, 生駒 文俊
山形 勇夫, 前野 雅一, 近藤 亘由, 玉澤 賢, 五十嵐祐二
大 学 院 生 神垣友希乃

2. 研究テーマ

- 1) 画像診断学 image diagnosis.
- 2) 放射線防護 radiation protection.
- 3) 骨 (含インプラント) bone (including implantology).
- 4) 放射線計測 radiation dosimetry.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

記載事項なし

4. 学位取得者

記載事項なし

5. 主催学会等

- 1) NPO 法人日本歯科放射線学会 第19回コンピュータ応用・画像情報研究会, 福岡県立ももち文化センター (福岡), 2013年5月31日, 佐藤健児.
- 2) 平成25年度日本歯科大学校友会ポストグラデュエートコース「安全・安心にインプラントを行うための基礎知識—解剖・放射線・口腔外科の観点から—」, 日本歯科大学生命歯学部, 平成25年7月27日・28日, 解剖学第1講座・歯科放射線学講座・附属病院インプラントセンター (共催), 主催者: 高森 等教授 (附属病院インプラントセンター), 佐藤 巖 (解剖学第一講座), 代居 敬 (歯科放射線学講座).
- 3) 全国公私立歯科大学 (歯学部) 歯科放射線担当者研修会, 穂高ビューホテル (長野県), 平成25年8月24日・25日, 代居 敬, 金田 隆.

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

- 1) 25年度学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），継続，3年，歯科用コーンビームCTの診断参考レベルの構築，佐藤健児，533万円。
- 2) 25年度学術研究助成基金助成金（基盤研究（C）），新規，3年，上顎結節部へのインプラント治療は本当に安全か？—解剖学的・バイオメカニクスの検討，代居 敬，河合泰輔，浅海利恵子，494万円。
- 3) 平成25年度学術研究助成基金助成金（若手研究（B）），継続，2年，下顎前歯インプラント治療時の偶発症防止への指針作成～切歯枝は本当に無視できるか？～，河合泰輔，377万円。

8. 研究業績

A. 著書

1. 佐藤健児（共著）：放射線被曝と防護，1. 放射線防護とは，升谷滋行，橋本光二，飯野文彦編，歯科医療ナビゲーション，p.23-26，口腔保健協会，東京，2013年。
2. 浅海利恵子，河合泰輔（共著）：デジタルエックス線撮影法，2. 歯科におけるデジタル撮影，升谷滋行，橋本光二，飯野文彦編，歯科医療ナビゲーション，p.4-7，口腔保健協会，東京，2013年。
3. 佐藤健児（共著）：放射線の物理（p.13-20），放射線の量・単位とその測定（p.21-26），岡野友宏，小林 馨，有地榮一郎編，第5版 歯科放射線学，医歯薬出版，東京，2013年。
4. 代居 敬（共著）：顎骨に影響する全身疾患，歯科インプラントの検査，岡野友宏，小林 馨，有地榮一郎編，第5版 歯科放射線学，p.328-338，387-394，医歯薬出版，東京，2013年。
5. 河合泰輔（共著）：（Part 03）歯科用CTを活用する，8 根分岐部病変，佐野 司，倉林 亨編，補綴臨床別冊 基本臨床画像診断 読影の基本を知り各種疾患をよむ，p.93-96，医歯薬出版，東京，2013年。

B. 原著

1. Kawai T, Asaumi R, Kumazawa Y, Sato I, Yosue T. Observation of the temporal crest canal in the mandibular ramus by cone beam computed tomography and macroscopic study, ©☆ Int J Comput Assist Radiol Surg, 2014 ; 9 (2) : 295-299. doi : 10.1007/s11548-013-0931-6.
2. Momin MA, Kurabayashi T, Yosue T. Quantitative and Morphological Evaluation of Cancellous and Cortical Bone of the Mandible by CT. OMICS J Radiology, 2013 ; 3 : 1-5. doi : 10.4172/2167-7964.1000155.
3. Momin MA, Hashimoto K, Honda K, Yosue T. Validity of Computed Tomography (CT) for the Assessment of Mandibular Bone Invasion by Squamous Cell Carcinoma in the Oral Cavity, JSM

Dent, 2013 ; 2 (1) : 1021, 1-6.

4. 佐藤 巖, 浅海利恵子, 河合泰輔, 三輪容子, 代居 敬, 春原正隆: 骨造成術に必要な郊外に分布する血管と神経の肉眼解剖解析, 臨床解剖研究会記録, 2013 ; 14 : 12-13.

Sato I, Asaumi R, Kawai T, Miwa Y, Yosue T, Sunohara M. Macroscopic and CBCT analysis of vessels and nerves distributed in the palate for bone reclamation for dental implants, Japanese Research Society of Clinical Anatomy, 2013 ; 14 : 12-13.

5. 三輪容子, 春原正隆, 佐藤 巖, 代居 敬: 口底部に存在する血管分布の評価法についての検討. 臨床解剖研究会記録, 2013 ; 14 : 21-22.

Miwa Y, Sunohara M, Sato I, Yosue T. Anatomical assessment of the distributed area of arterial blood vessels along the mandibular floor, Japanese Research Society of Clinical Anatomy, 2013 ; 14 : 21-22.

C. 総説・解説

1. 佐藤健児: 平成24年度日歯生涯研修ライブラリー (シリーズ1021-1208), 日本歯科医師会, 2013年4月.
2. 佐藤健児. 歯科医療でのX線撮影における被曝を考える, 日本歯科医師会雑誌, 4号付録: No.1203, 10-13, 2013年.
3. 佐藤 巖, 代居 敬, 高森 等: 今知っておきたいインプラント手術に必要な基礎知識, 日本歯科大学校友会・歯学会会報, 39 (2) : 34-41, 2013年11月.

D. 報告 (臨床・症例・研究等)・紀要

記載事項なし

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 浅海利恵子, 熊澤康雄, 水谷太尊, 河合泰輔, 伊藤秀俊, 佐々木善彦, 山口 晃: 下顎骨オトガイ部のCT画像による形態観察: 日本口腔外科学会学術雑誌, Vol. 59 Supplement : p.267, 2013.
2. 浅海利恵子, 河合泰輔, 佐藤 巖, 代居 敬: 歯科用コーンビームCTによる下顎切歯枝の観察: 日本口腔インプラント学会誌, 第26巻特別号: p.339, 2013.
3. モミンモハマド, 浅海利恵子, 河合泰輔, 代居 敬: Cone Beam CT artifact induced by Titanium Cylinder, NPO 法人日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会プログラム・抄録集, p.42, 2013.
4. 境野利江, 西川慶一, 佐藤健児, 代居 敬, 佐野 司: パノラマX線撮影 / 歯科用コーン

- ビーム CT 複合機 Trophypan PRO のコンソール上に表示される面積線量計の正確さ, NPO 法人日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会プログラム・抄録集, p.48, 2013.
5. 浅海利恵子, 河合泰輔, 佐藤 巖, 熊澤康雄, 代居 敬. 上顎骨犬歯窩周囲の骨形態と神経・脈管の観察～Le Fort I 骨切り術の術前診断のために～, NPO 法人日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会プログラム・抄録集, p.90, 2013.
 6. 西川慶一, モミンモハマド, 佐藤健児, 代居 敬, 佐野 司: 参照体による歯科用コーンビーム CT のボクセル値の定量化で考慮すべき原理的な問題点, NPO 法人日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会プログラム・抄録集, p.94, 2013.
 7. 佐藤健児, 原田康雄, 西川慶一, 境野利江, 代居 敬, 奥村泰彦, 佐野 司: 歯科用コーンビーム CT の線量データベース, NPO 法人日本歯科放射線学会第54回総会・学術大会プログラム・抄録集, p.109, 2013.
 8. Yosue T, Iwata H, Yanai C, Takamori H, Ogura S. Pre-operative Implant Diagnosis of the Patient with Congenitally Missing of Permanent Premolar, The 19th International Congress of Dento-Maxillo-Facial Radiology, Bergen, Norway, Program, p.31, 2013.
 9. Momin MA, Asaumi R, Kawai T, Youse T. Cone Beam CT artifact induced by Titanium Cylinder, The 19th International Congress of Dento-Maxillo-Facial Radiology, Bergen, Norway, Program, p.21, 2013.
 10. Kumazawa Y, Kawai T, Asaumi R, Mizutani M, Yamaguchi A, Sato I, Yosue T. Morphological Characteristics Of Anterior Loop Of Angle Class III Patients –Clinical And Cadaveric Study, The 19th International Congress of Dento-Maxillo-Facial Radiology, Bergen, Norway, Program, p.45, 2013.
 11. Asaumi R, Sato I, Kawai T, Kumazawa Y, Yosue T. Observation of greater and lesser palatine canals using CBCT images and microscope ～ Japanese dry skulls and cadavers ～, The 19th International Congress of Dento-Maxillo-Facial Radiology, Bergen, Norway, p.45, 2013.
 12. Kawai T, Asaumi R, Sato I, Kumazawa Y, Yosue T. Evaluation of the course of the Incisive branch of mandibular canal using CBCT, The 19th International Congress of Dento-Maxillo-Facial Radiology, Bergen, Norway, p.45, 2013.
 13. 池田(出田)亜紀子, 浅海利恵子, 河合泰輔, 鈴木 恵, 須田真理, 市川順子, 野村正子, 池田利恵, 佐藤 勉, 代居 敬: 歯科衛生学科における歯科放射線学教育 第1報: 三年間のフィルムマウント試験と記述式試験との関連性, 第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, プログラム・抄録集, p.168, 2013.
 14. 浅海利恵子, 河合 泰輔, 池田(出田)亜紀子, 鈴木 恵, 須田 真理, 市川 順子, 野村正子, 池田 利恵, 佐藤 勉, 代居 敬: 歯科衛生学科における歯科放射線学教育 第2報: 異なるフィルムマウント試験間の結果と傾向, 第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会, プログラム・抄録集, p.169, 2013.
 15. Kawai T, Asaumi R, Sato I, Yosue T. Three-dimensional observation of the incisive blanch of Man-

dibular canal, The 2nd Meeting of the International Association of Dental Research-Asia Pacific Region (IADR-APR), Bangkok, Thailand, PROGRAM and ABSTRACT BOOK, p.149, 2013..

16. Asaumi R, Kawai T, Kumazawa Y, Sato I, Mizutani M, Ito H, Sasaki Y, Yamaguchi A, and Yosue T. Analysis of the Pterygomaxillary Suture and Surrounding Structures Using CT, The 2nd Meeting of the International Association of Dental Research-Asia Pacific Region (IADR-APR) , Bangkok, Thailand, PROGRAM and ABSTRACT BOOK, p.149-150, 2013.
17. Kawai T, Asaumi R, Kagawa T, Yuasa K, Yosue T. CBCT and macroscopic observation of the incisive branch of mandibular canal, Abstract book of 64th annual session of the AAOMR, LA, USA, p.94, 2013.
18. 岩田 洋, 柴田聡彦, 林 宗廣, 浅井桜子, 柳下秀郎, 吉田和正, 莊司洋文, 代居 敬, 柳下寿郎: 診断に苦慮した下顎エナメル上皮腫の2例, NPO 法人日本歯科放射線学会第18回臨床画像大会および教育研修会, プログラム・抄録集, p.9, 2013.
19. 浅海利恵子, 河合 泰輔, 佐藤 巖, 代居 敬: CBCT 画像による下顎骨オトガイ孔周囲の皮質骨の観察, 日本顎顔面インプラント学会雑誌, Vol. 12 (3): p.209, 2013.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 河合泰輔: CT を用いたより適切で確実なインプラント治療, CT 画像解剖と難易度別治療の実際 より適切で確実なインプラント治療, 「CT 画像解剖」, 第43回公益社団法人 日本口腔インプラント学会学術大会 歯科放射線学会共催シンポジウム, 福岡国際会議場 (福岡), 2013 年 9 月 15 日.
2. Momin MA. Advance Study on Radiology in Dentistry in Bangladesh Organized by Dhaka University Radiology Forum, Annual Education 2014, Dhaka, Dhaka University Seminar Hall, Dhaka. Bangladesh, Feb 24, 2014.
3. Momin MA. Practical Training : Terms of X-ray Film reading and Procedure of Diagnosis Organized by Dhaka University Radiology Forum, Annual Education 2014, Dhaka, Dhaka University Seminar Hall, Dhaka, Bangladesh, Feb 26-27, 2014.
4. Momin MA. Importance of CBCT in Dentistry in Bangladesh, The 2nd International Seminar on Prosthetic and Radiology in Dentistry-2014 Organized by Bangladesh Dental Club and Prosanti Nikentan, Bangladesh Local Government Bhaban, Dhaka, Bangladesh, Feb 28, 2014.
5. Sato K : Patient dose level of cone beam CT examinations in dentistry, 2nd International Seminar on Prosthetic and Radiology in Dentistry-2014 Organized by Bangladesh Dental Club and Prosanti Nikentan, Bangladesh Local Government Bhaban, Dhaka, Feb 28, 2014.
6. Yosue T : Radiographic Diagnosis for Implant Treatment, 2nd International Seminar on Prosthetic and Radiology in Dentistry-2014 Organized by Bangladesh Dental Club and Prosanti Nikentan, Bangladesh Local Government Bhaban, Dhaka, Feb 28, 2014.

7. 佐藤健児：歯科医学会プロジェクト研究「CBCT評価の標準化項目の検討」—大学歯学部および歯科大学附属病院における歯科用コーンビーム CTによる患者線量—, NPO 法人 日本歯科放射線学会, ニューオータニイン東京 (東京), 2014年 3月15日.
8. 代居 敬：「Advance 歯科放射線」—エックス線画像の形成・画像処理・パノラマ撮影—, NPO 法人日本歯科放射線学会, 日本大学 (東京), 2014年 3月21日.
9. 河合泰輔：「口腔顎顔面領域の教育における放射線学・解剖学の連携」. 第119回日本解剖学会総会・全国学術大会 シンポジウム 8 顎口腔顔面領域の肉眼解剖学—臨床応用と将来展望—, 自治医科大学 (栃木), 2014年 3月28日.

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 代居 敬：インプラントの画像診断, 日本歯科先端技術研究所115単位研修コース, 日本歯科先端技術研究所 (東京), 2013年 4月14日.
2. 代居 敬：インプラントの画像診断, 北日本インプラント研究会平成23年度認定研修会, 北海道歯科医師会館 (札幌), 2013年 4月21日.
3. 代居 敬：画像診断, 新潟再生歯学研究会臨床家のためのインプラントセミナー, 日本歯科大学新潟生命歯学部 (新潟), 2013年 5月11日.
4. 代居 敬：インプラントの画像診断, 日本歯科大学校友会ポストグラデュエートコース, 日本歯科大学生命歯学部 (東京), 2013年 7月27日.
5. 佐藤健児：歯科放射線における診断参考レベル, NPO 法人 日本歯科放射線学会, 第1回「顎口腔領域エックス線検査に対する被曝線量測定研修会」, 坂戸グランドホテル WIN (埼玉), 2014年 1月12日.
6. 佐藤健児：CTとCBCTに用いられる測定線量, NPO 法人 日本歯科放射線学会, 第1回「顎口腔領域エックス線検査に対する被曝線量測定研修会」, 坂戸グランドホテル WIN (埼玉), 2014年 1月12日.
7. 佐藤健児：アルミニウム減弱曲線, NPO 法人 日本歯科放射線学会, 第1回「顎口腔領域エックス線検査に対する被曝線量測定研修会」, 明海大学 (埼玉), 2014年 1月13日.
8. 佐藤健児：異なるスリット形状を有するパノラマ X 線装置の線量幅積と面積線量, 日本歯科放射線学会第218回関東地方会, 東京医科歯科大学 (東京), 2014年 1月25日.
9. 代居 敬：エックス線診断, 第29回オッセオインテグレートドインプラント総合トレーニングコース, 日本歯科大学附属病院 (東京), 2014年 3月 8日.

● 高齢者歯科学講座

Department of Geriatric Dentistry

1. 所属構成員等

教 授 羽村 章

2. 研究テーマ

- 1) 高齢者の歯科治療 Study of Clinical Gerodontology.
- 2) 歯科教育システムの開発 Development of Dental Education System.
- 3) 心療歯科患者の臨床統計 Statistics in Psychosomatic dentistry.
- 4) 病院機能研究 Study of Quality Health Care.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

記載事項なし

4. 学位取得者

記載事項なし

5. 主催学会等

- 1) “2nd Trilateral Zirconia & Titanium Today” Dental Materials science symposium (香港大学, 昭和大学, 日本歯科大学, 三校合同シンポジウム), 開催地: 東京 (日本歯科大学生命歯学部), 開催年月日: 平成25年10月17日, 主催者: 羽村 章.
- 2) 日本老年歯科医学会 平成25年度ワークショップ, 開催地: 東京 (東京セミナー学院), 開催年月日: 平成25年10月26・27日 (土・日), 主催者: 森戸光彦 山根源之 櫻井 薫 羽村 章 下山和彦.

6. 国際交流状況

- 1) 米国の歯科臨床教育事情の調査のために, 米国財団法人野口医学研究所 (Noguchi Medical Research Institute) を通じて, New York に在る St.Luke's-Roosevelt Hospital Center Division of Oral and Maxillofacial Surgery の歯科医師 (顎顔面外科専門医) との交流を行っている.

7. 外部研究費

- 1) 委託研究: (株)モリタ製作所, 新規, 平成25年度, 歯科臨床教育用シミュレーションシステムの開発, 羽村 章 (代表), 900,000円.
- 2) 奨学寄付: 常用歯科辞典編集委員会, 新規, 平成25年度, 辞書編纂, 羽村 章 (代表), 500,000

円.

- 3) 科学研究費助成事業, 0023659991挑戦的萌芽研究継続(平成23~25年度): 認知症における摂食障害発生機序の革新的研究: 原始反射と脳機能の解明と治療法開発, 羽村 章(代表), 4,160,000円.
- 4) 長寿医療研究開発費事業継続(平成24・25年度): 生活自立を指標とした, 生活習慣病の検査値の基準値設定に関する研究, 大内尉義(代表)羽村 章(分担) 2,000,000円.

8. 研究業績

A. 著書

1. 羽村 章:(共著)口腔ケア, p.180-183, 老年医学系統講義テキスト, 編集 日本老年医学会, 西村書店, 東京, 2013年4月24日.
2. 羽村 章:(共著)在宅での口腔ケア, p.1422-1423, 今日の治療指針, 監修 山口 徹 北原光男, 医学書院, 東京, 2014年1月1日.
3. 羽村 章:(共著)第1章 高齢者をとりまく社会 2. 社会保障, p.12-24, 歯科衛生士講座 高齢者歯科学, 編集 森戸光彦, 永末書店, 京都, 2014年2月28日(第2版).

B. 原著

1. 秋山仁志, 宇塚 聡, 宮下 渉, 原 節宏, 羽村 章. ヒト型患者シミュレーションシステム(SIMROID[®])を用いた補綴歯科研修, ○日本歯科医学教育学会雑誌, 2013; 29(1): 11-20.
Akiyama H, Uzuka S, Miyasita W, Hara S, Hamura A. Development of New Patient Simulation System (SIMROID[®]) for Prosthodontic Clinical Training, ○The Journal of Japanese Dental Education Association, 2013; 29(1): 11-20.
2. 安藤文人, 小川智久, 横澤 茂, 岩田 洋, 岩崎由香利, 内田裕子, 三代冬彦, 羽村 章: 日本歯科大学附属病院の職員採用試験における受験前の研修形態の影響と試験項目の有用性. ○日本歯科医療管理学会雑誌, 2014; 48(4): 268-276.
Ando F, Ogawa T, Yokozawa S, Iwata H, Iwasaki Y, Uchida Y, Hamura A (8th) (8 authors). Difference among Examinee Groups and Effectiveness of Tests in Employment Examination in Nippon Dental University Hospital, ○Japanese Journal of Dental Practice Administration, 2013; 48(4): 268-276.
3. 秋山仁志, 坂元麻衣子, 清水滋子, 阿部英二, 石田鉄光, 三代冬彦, 平賀 泰, 羽村 章: 部分床義歯補綴実習における実習指導と実習評価に関する新たな方法の取り組み. ○日本歯科医学教育学会雑誌, 2013; 29(3): 224-230.
Akiyama H, Sakamoto M, Shimizu Y, Abe E, Ishida T, Mishihiro F, Hamura A (8th) (8 authors). A New Method for Training and Evaluation for Removable Partial Dentures in Prosthodontics Clinical practice. ○The Journal of Japanese Dental Education Association, 2013; 29(3): 224-230.

C. 総説・解説

1. 北沢正和, 高橋善幸, 羽村 章, 中原悦夫: 産地に近づくことで, 本当に大事なものが見えてくる. 日本アンチエイジング歯科学会誌, 2013; 6: 37-43.

D. 報告 (臨床・症例・研究等)・紀要

1. 安藤文人, 岩崎由香利, 内田裕子, 小林さくら子, 林 宗廣, 三代冬彦, 羽村 章: 歯科病院における時代に即した院内通信手段. 日本歯科医療管理学会誌 2013; 48 (2): 180-184.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 秋山仁志, 宇塚 聡, 宮下 渉, 原 節宏, 羽村 章: ヒト型患者シミュレーションシステム (SIMROID) を用いた補綴歯科研修 (第6報), 日本歯科補綴学会誌; 5 (3): 174, 2013.
2. 安藤文人, 小川智久, 横澤 茂, 阿部恵一, 岩田 洋, 長谷川充, 三代冬彦, 羽村 章: 教員採用試験における受験者グループ間での差と試験の効果についての統計学的検討, 第32回日本歯科医学教育学会総会および学術大会プログラム・抄録集, 131, 2013.
3. 秋山仁志, 三代冬彦, 岡田智雄, 横澤 茂, 北村和夫, 小川智久, 中原由絵, 宇塚 聡, 鈴木 淳子, 町田麗子, 山下憲昭, 羽村 章: 日本歯科大学附属病院協力型臨床研修施設における研修歯科医の診療実績に関する調査, 第32回日本歯科医学教育学会大会 (北海道) プログラム・抄録集, 150, 2013.
4. 坂元麻衣子, 秋山仁志, 石田鉄光, 三代冬彦, 平賀 泰, 岡山浩美, 岡田威一郎, 川名弘剛, 佐藤奈保子, 干川 摂, 内山恵理, 北 梢, 工藤奈津子, 清水慈子, 岩本圭輔, 横山知美, 風野めぐみ, 高橋理恵, 加藤沙織, 羽村 章: 部分床義歯補綴学実習におけるチェックリスト方式を用いた新たな評価法の検討, 第32回日本歯科医学教育学会大会 (北海道) プログラム・抄録集, 152, 2013.
5. 石川結子, 大津光寛, 岡田智雄, 石井隆資, 平林幹貴, 永島未来, 羽村 章: 統合失調症患者に対し, 通院継続のため精神状態に配慮した一例, 日本障害者歯科学会雑誌, 34 (3): 213, 2013.
6. 永島未来, 大津光寛, 平林幹貴, 羽村 章, 荻部洋行, 岡田智雄, 石井隆資, 石川結子: 当センターにおける歯科治療恐怖症例 1年経過後の傾向, 日本障害者歯科学会雑誌, 34 (3): 247, 2013.
7. 大津光寛, 羽村 章, 石川結子, 一條智康: 摂食障害患者の歯の酸蝕の進行程度に関与する因子について, 第17回日本摂食障害学会・学術集会プログラム・抄録集, 112, 2013.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. Hamura A : The SIMROID[®] a human patient robot simulation system human. The 2nd trilateral dental symposium on “Dental Virtual Education Today” . The Nippon Dental University School of Life Dentistry at Tokyo, 2013.11.14.

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 羽村 章 : 日本歯科大学の現在, 日本歯科大学西多摩校友会講演会, 名栗温泉大松閣 (埼玉県飯能市), 平成26年 2 月22日.
2. 羽村 章 : 診療室で行うう蝕予防, 茨城県日本歯科大学校友会学術講演会, 水戸プラザホテル (茨城県水戸市), 平成26年 2 月23日.

● 共同利用研究センター Research Center for Odontology

1. 所属構成員等

教 授	古西 清司（併任）
准 教 授	廣田 文男（～11月）、橋本 修一、那須 優則、鈴木さつき
講 師	戸円 智幸
助 教	三橋扶佐子、深田 哲也
技 術 職 員	多辺田朱美（4月）、関野 理美、片柳 亮太（5月～）
客員准教授	橋本 尚詞
客 員 講 師	立花 利公

2. 研究テーマ

- 1) GPI- アンカー蛋白質を介した細胞内情報伝達機構の研究 Study of intracellular signal transduction via GPI-anchor proteins.
- 2) 骨型アルカリ性ホスファターゼ（ALP）の分子構造に果す2価金属イオンの役割 Role of divalent metal ions on molecular structure of bone type alkaline phosphatase (ALP).
- 3) 細胞増殖因子受容体のシグナル伝達に対する細胞表在 ALP の影響について Effect of ecto-ALP on cell signal transduction of growth factor receptors.
- 4) ラット炎症惹起歯髄内におけるプロスタグランジン類生成酵素の活性発現とこれら酵素に対する歯科用薬剤・ユーキノールの作用について Effect of eugenol as a dental medicine on appearances of prostaglandin synthetase activities in inflamed pulps of rat mandibular incisors.
- 5) 唾液腺に対する放射線防護 Radioprotection on salivary gland.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

- 1) 特許取得 特許出願人；株式会社ビーブランド・メディコーデンタル，発明者；橋本修一，前田宗宏，石塚克巳，勝海一郎，取得日；平成25年9月4日，特許番号；第5280801号，発明の名称；歯科用組成物。
- 2) 特許公開 特許出願人；わかもと製薬株式会社，発明者；沼部幸博，伊藤 弘，橋本修一，公開日；平成25年12月26日 出願番号；特願2013-101760発明の名称；歯周病を検出する方法及び迅速診断キット。
- 3) 平成25年度日本歯科大学研究プロジェクト「ヒト歯根膜細胞分化促進プロジェクト」が採択。（代表者）古西清司，（分担者）那須優則，内川喜盛，河原井武人，田代有美子，4,000,000円。
- 4) 平成25年度日本歯科大学研究プロジェクト「レーザー照射は歯周治療後の治癒促進に寄与するか？—臨床的・生化学的見地から—」が採択。（代表者）沼部幸博，（分担者）伊藤 弘，関野愉，村檉悦子，石黒一美，今井一志，小川智久，鈴木麻美，久野彰子，橋本修一，戸円智幸，那

須優則, 羽村 章, 1,938,760円.

- 5) 平成25年度日本歯科大学研究プロジェクト「歯髄幹細胞由来スフェロイドと漢方薬剤を用いた中枢神経組織創傷修復」が採択. (代表者) 肖 黎, (分担者) 井出良治, 小林朋子, 那須優則, 熊澤康雄, 岡村 尚, 3,810,000円.

4. 学位取得者

記載事項なし

5. 主催学会等

- 1) 研究力増進プログラム (13)「幹細胞研究におけるシングル・セル解析」, 日本歯科大学生命歯学部九段ホール, 平成25年6月14日, 主催者 共同利用研究センター.
- 2) 研究力増進プログラム (14)「あの大隅良典博士に motive force をもらおう」, 日本歯科大学生命歯学部九段ホール, 平成25年7月5日, 主催者 共同利用研究センター.

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

- 1) 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (B), 取得, 一般 (継続), 平成22年度～平成25年度, 鉄代謝異常を伴う先天性運動失調マウスの病理学的及び分子生物学的解析, 研究代表者: 橋本尚詞, 研究分担者: 日下部守昭, 立花利公, 3,250,000円.
- 2) 日本学術振興会科学研究費取得, 基盤研究 (C), 取得, 一般 (新規), 平成25年度～平成26年度, 侵襲性歯周炎原因菌のキノールペルオキシダーゼの病原性に関する研究, 研究代表者: 古西清司, 1,040,000円.
- 3) 日本学術振興会科学研究費補助金, 基盤研究 (C), 取得, 一般 (継続), 平成23年度～平成25年度, 唾液腺細胞の放射線障害に対するアミノチオール系防護剤の効果, 研究代表: 那須優則, 研究分担者: 中原 貴, 910,000円.
- 4) 株式会社エースネット委託研究費取得 (継続), 2013年6月1日から2014年3月31日, 消毒剤薬評価試験, 古西清司 (代表), 300,000円.

8. 研究業績

A. 著書

1. Kiyoshi Konishi : Chapter 8. Physiological roles of a periodontopathic bacterial membrane-bound quinol peroxidase. p.107-p.123 : Daisuke Ekumi et al. eds. Studies on periodontal disease. Humano Press (a brand of Springer), New York, 2014.

B. 原著

1. Tominaga N, Nakahara T, Nasu M, Satoh T. Isolation and characterization of epithelial and myogenic cells by “fishing” for the morphologically distinct cell types in rat primary periodontal ligament cultures, ☆◎ *Differentiation*, 2013 ; 85 : 91-100. doi : 10.1016/j.diff.2013.01.003.
2. Ide Y, Nakahara T, Nasu M, Matsunaga S, Iwanaga T, Tominaga N, Tamaki Y (7authors). Postnatal mandibular cheek tooth development in the miniature pig based on two-dimensional and three-dimensional x-ray analyses, ☆◎ *Anat Rec (Hoboken)*, 2013 ; 296 : 1247-54. doi : 10.1002/ar.22725.
3. Kobayashi H, Kumagai K, Gotoh A, Eguchi T, Yamada H, Suzuki S (7th) (8 authors). Upregulation of epidermal growth factor receptor 4 in oral leukoplakia. ☆◎ *Int J Oral Sci.* 2013 ; 5 (1) : 14-20. doi : 10.1038/ijos.2013.10.
4. Eguchi T, Kumagai K, Kobayashi H, Shigematsu H, Kitaura K, Suzuki S (10 authors). Accumulation of invariant NKT cells into inflamed skin in a novel murine model of nickel allergy. ☆◎ *Cell Immunol.* 2013 ; 284 (1-2) : 163-71. doi : 10.1016/j.cellimm.2013.07.010.
5. Takeda M, Ikeda M, Takahashi M, Kanazawa T, Nasu M, Matsumoto S. Suppression of ATP-induced excitability in rat small-diameter trigeminal ganglion neurons by activation of GABAB receptor, ☆◎ *Brain Res Bull*, 2013 ; 98 : 155-162. doi : 10.1016/j.brainresbull.2013.08.005.
6. Kobayashi H, Kumagai K, Eguchi T, Shigematsu H, Kitaura K, Suzuki S (8th) (12 authors). Characterization of T cell receptors of Th1 cells infiltrating inflamed skin of a novel murine model of palladium-induced metal allergy. ☆◎ *PLoS One.* 2013 ; 8 (10) : e76385. doi : 10.1371/journal.pone.0076385.
7. Takeda M, Takahashi M, Kitagawa J, Kanazawa T, Nasu M, Matsumoto S. Brain-derived neurotrophic factor enhances the excitability of small-diameter trigeminal ganglion neurons projecting to the trigeminal nucleus interpolaris/caudalis transition zone following masseter muscle inflammation, ☆◎ *Mol Pain*, 2013 ; 9 : 49. doi : 10.1186/1744-8069-9-49.
8. Torii D, Konishi K, Watanabe N, Goto S, Tsutsui T. Cementogenic potential of multipotential mesenchymal stem cells purified from the human periodontal ligament. ☆◎ *Odontology*, 2014 ; DOI 10.1007/s 10266-013-0145-y.
9. Saiki K, Konishi K. Porphyromonas gingivalis C-terminal signal peptidase PG0026 and HagA interact with outer membrane protein PG27/LptO. ☆◎ *Mol. Oral Microbiol.* 2014 ; 29 : 32-44, doi : 10.1111/omi.12043.
10. Ohara-Nemoto Y, Rouf SMA, Naito M, Yanase A, Tetsuo F, Konishi K (12th) (13 authors). Identification and characterization of prokaryotic dipeptidyl-peptidase 5 from Porphyromonas gingivalis. ☆◎ *J. Biol. Chem.* 2014 ; 289 : 5436-5448, doi : 10.1074/jbc.M113.527333.
11. 渡邊公博, 古西清司 : 歯周病原細菌の殺カイク活性に対するアスタキサンチンの抑制効果. ○ *小児歯科学雑誌*. 2013 ; 51 (4) : 440-446. (学位論文)

- Watanabe K, Konishi K : Protection by astaxanthin against silkworm-cidal effect of periodontopathic bacterium. 2013 ; 51 (4) : 440-446.
12. Shigematsu H, Kumagai K, Kobayashi H, Eguchi T, Kitaura K, Suzuki S (11 authors). Accumulation of metal-specific T cells in inflamed skin in a novel murine model of chromium-induced allergic contact dermatitis. ☆◎ PLoS One, 2014 ; 9 (1) : e85983. doi : 10.1371/journal.pone.0085983.
 13. Ishikawa M, Tachibana T, Hashimoto H, Toyomura J, Ito T, Tsuboi K (10 authors). Functional analysis of three novel cell lines derived from human papillary thyroid carcinomas with three different clinical courses, ☆◎ Human Cell, 2014 ; 27. doi : 10.1007/s13577-014-0088-9.
 14. Komoike N, Kato T, Saijo H, Arihiro S, Hashimoto H, Okabe M, (10 authors) Photodynamic diagnosis of colitis-associated dysplasia in a mouse model after oral administration of 5-aminolevulinic acid. ☆◎ In Vivo, 2013 ; 27 (6) : 747-753.
 15. Islam MS, Kusakabe M, Horiguchi K, Iino S, Nakamura T, Hashimoto H (7th), (11 authors). PDGF and TGF- β promote tenascin-C expression in subepithelial myofibroblasts and contribute to intestinal mucosal protection in mice. ☆◎ Br J Pharmacol, 2014 ; 171 : 375-388. doi : 10.1111/bph.12452

C. 総説・解説

1. 古西清司, 高橋幸裕, 才木桂太郎, 田代有美子, 河原井武人 : 感染微生物学実習書, 日本歯科大学, 東京, 2013年.
2. 宮崎 隆, 傘孝之, 横山正起, 棚木寿男, 新谷明喜, 今井一志, 柴田 潔, 柳井智恵, 古西清司, 宮坂 平, 石田鉄光, 八田みのり, 横山大一郎, 長谷川充, 小森 成, 岡田智雄, 黒田聡一, 青木春美 : 材料科学 (改定7版), 日本歯科大学, 東京, 2013年.
3. 高橋幸裕, 田代有美子, 古西清司 : 口腔レンサ球菌のアドヘジン, 日本細菌学雑誌, 68巻2号 : 日本細菌学会, 東京, 2013年.
4. 古西清司 : インフルエンザの特効薬は DHA 由来の体内成分?, JOID News Letter, No. 24, 日本口腔感染症学会編集, 兵庫, 2014年.

D. 報告 (臨床・症例・研究等)・紀要

1. 堤ちはる, 山本恒雄, 三橋扶佐子, 村木将人 : 地域小規模児童養護施設の食生活の課題と栄養士の支援について, 日本子ども家庭総合研究所紀要, 49, 29-44.
2. 古西清司, 三橋扶佐子 : 研究力増進プログラム (13) 「幹細胞研究におけるシングル・セル解析」, テキストと実習報告, 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター, 6月14日.
3. 古西清司, 三橋扶佐子 : 研究力増進プログラム (14) 「あの大隅良典博士に motive force をもらう」, テキストと実習報告, 日本歯科大学生命歯学部共同利用研究センター, 7月5日.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 伊藤 弘, 沼部幸博, 戸円智幸, 橋本修一, 八重柏隆, 小方頼昌, 和泉雄一, 永田俊彦: 歯肉溝滲出液 (GCF) における Hemoglobin (Hb) 検査を用いた PPD・BOP 検査精度の検証, 日本歯科保存学会2013年度春季学術大会 (第138回) プログラム・講演抄録集 (Web 版), 62, 2013.
2. 河原井武人, 古西清司: 侵襲性歯周炎原因菌のキノールペルオキシダーゼに対する阻害剤の検討. 第86回日本生化学会大会, 生化学, 85巻 8 号 (臨時増刊号): 169 (3P-197) 及び講演要旨集 (大会ホームページ), 2013.
3. 前田宗宏, 橋本修一, 石塚克巳, 勝海一郎: オレイン酸, ユージノールおよび酸化亜鉛を主剤とした新規根管充填用シーラーの寸法変化と硬化度, 日本歯科保存学会2013年度春季学術大会 (第138回) プログラム・講演抄録集 (Web 版), 209, 2013.
4. Yamashiro M, Fujita K, Hashimoto S: Effects of local anesthetics on the pulpal blood flow, Program and abstract book of IADR-ARP 2013 (2nd Meeting), p.102 (USB memory), Bangkok, Thailand, 2013.
5. 新出まなみ, 二宮 彩, 境田佳奈, 杉山みち子, 杉本知子, 太田貞司, 梶井文子, 大原里子, 三橋扶佐子, 吉池信男: 介護保険施設の NCM における管理栄養士による取り組み, IPW の自己評価と経口維持での看取りとの関係, 栄養学雑誌, 71 (5): Supplement 339, 2013.
6. 堤ちはる, 三橋扶佐子, 山本恒雄: 地域小規模児童養護施設における栄養士の食生活支援の現状と課題について, 栄養学雑誌, 71 (5): Supplement 319, 2013.
7. 鳥居大祐, 古西清司, 後藤真一, 筒井健機: 培養ヒト歯根膜細胞の特性と硬組織形成能の解析, 第55回歯科基礎医学会学術大会, プログラム・抄録集 (Web 版), 39, 2013.
8. 河原井武人, 古西清司: 侵襲性歯周炎原因菌のキノールペルオキシダーゼに対する阻害剤, 第55回歯科基礎医学会学術大会, プログラム・抄録集 (Web 版), 47, 2013.
9. 那須優則, 中原貴, 井出吉昭: X線照射されたマウスの胎仔期の顎下腺に対するアミノチオール系防護剤の効果, 第55回歯科基礎医学会学術大会, プログラム・抄録集 (Web 版), 201, 2013.
10. 戸円智幸, 深田哲也, 橋本修一: 骨芽様培養細胞 MC3T3-E1 のアルカリ性ホスファターゼ活性を増加する血清中因子について, 第55回歯科基礎医学会学術大会, プログラム・抄録集 (Web 版), 208, 2013.
11. 深田哲也, 戸円智幸, 橋本修一: ラット炎症惹起歯髄におけるプロスタグランジン E 産生酵素にあたえる酸化亜鉛ユージノール練和物の影響, 第55回歯科基礎医学会学術大会, プログラム・抄録集 (Web 版), 213, 2013.
12. 田代有美子, 高橋幸裕, 古西清司: Identification of sialic acid binding site of Streptococcus gor-

- donii surface protein Has, 日本細菌学雑誌, 69 (1) : 215, 2013.
13. 才木桂太郎, 古西清司: Porphyromonas gingivalis のC末端シグナルペプチダーゼとヘマグルチニンと外膜タンパク PG27との結合, 日本細菌学雑誌 日本細菌学雑誌, 69 (1) : 215, 2013.
 14. 倉治竜太郎, 伊藤 弘, 石井マイケル大宣, 橋本修一, 沼部幸博: 口腔清掃後の歯肉溝滲出液 (GCF) に観察された出血反応 (Hemoglobinn) の推移, 日本歯周病学会2013年度秋季学術大会 (第56回) プログラム・講演抄録集, 日歯周誌, 55 (秋季特別号) : 122, 2013.
 15. 沼部幸博, 伊藤 弘, 石井マイケル大宣, 倉治竜太郎, 橋本修一: 歯肉溝滲出液 (GCF) 中 Hemoglobin (Hb) 検出を応用した歯周病迅速診断キットの概要, 日本歯周病学会2013年度秋季学術大会 (第56回) プログラム・講演抄録集, 日歯周誌, 55 (秋季特別号) : 123, 2013.
 16. 伊藤 弘, 沼部幸博, 橋本修一, 森田 学, 稲垣幸司, 埴岡 隆, 王 宝禮, 藤井健男, 山本龍生, 両角俊哉: 喫煙は歯周治療における超過医療費因子となりうるか? —禁煙治療の歯科保険導入を目指して—, 日本歯周病学会2013年度秋季学術大会 (第56回) プログラム・講演抄録集, 日歯周誌, 55 (秋季特別号) : 123, 2013.
 17. Saijo H, Hoshino A, Arihiro S, Kato T, Matuoka M, Saruta M, Mitunaga M, Okabe M, Tajiri H, Hashimoto H. Relationship of Vascular Damage to Disruption of Mucosal Epithelium in Dextran Sulphate Sodium Induced Colitis in Mice. 21st United European Gastroenterology Week. Berlin. 2013.
 18. 秋本琢磨, 安田麻子, 山城三喜子, 橋本修一, 砂田勝久: デクスメデトミジン塩酸塩添加リドカインをラット口腔内に投与した場合のリドカイン分布及び体性感覚誘発電位に与える影響について, 第41回日本歯科麻酔学会プログラム・抄録集, 日歯麻誌, 41 (4) : 132, 2013.
 19. 町田詩織, 佐藤那奈, 筒井友花子, 橋本修一, 砂田勝久: 塩酸デクスメデトミジンがリドカインの坐骨神経複合活動電位および神経内滞留時間に及ぼす影響, 第41回日本歯科麻酔学会プログラム・抄録集, 日歯麻誌, 41 (4) : 183, 2013.
 20. 石井マイケル大宣, 倉治竜太郎, 伊藤 弘, 沼部幸博, 戸円智幸, 橋本修一: 歯肉溝滲出液 (GCF) における酵素活性と ALP 活性との関連について, 日本歯科保存学会2013年度秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 71, 2013.
 21. 伊藤 弘, 沼部幸博, 関野 愉, 村檜悦子, 石黒一美, 戸円智幸, 橋本修一, 佐々木大輔, 八重柏隆, 國松和司, 高井英樹, 目澤 優, 小方頼昌, 渡邊 久, 萩原さつき, 和泉雄一, 廣島佑香, 木戸淳一, 永田俊彦: 歯肉溝滲出液 (GCF) の pH における一考察, 日本歯科保存学会2013年度秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 72, 2013.
 22. 前田宗宏, 橋本修一, 石塚克巳, 勝海一郎: オレイン酸, ユージノールおよび酸化亜鉛を主剤とした新規根管充填用シーラーの根尖封鎖能, 日本歯科保存学会2013年度秋季学術大会 (第139回) プログラムおよび講演抄録集 (Web 版), 210, 2013.
 23. 杉山みち子, 新出まなみ, 二宮彩, 境田佳奈, 杉本知子, 太田貞司, 梶井文子, 大原里子, 三橋扶佐子, 高田健人, 吉池信男: 介護保険施設入所高齢者の最期まで経口摂取を維持した栄養

ケア・マネジメントと IPW の自己評価, 第 6 回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会抄録集, 66, 2013.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 才木桂太郎, 古西清司: ジンジバインの分泌機構, サテライトシンポジウム10「歯周病原菌による歯周組織破壊メカニズム: 現状と展望」, 第55回歯科基礎医学会学術大会, 岡山, 9月20日.

(2) 講演会・研究会・研修会等での講演

1. 古西清司, 那須優則, 内川喜盛, 河原井武人, 田代有美子: ヒト歯根膜細胞分化促進プロジェクト, 平成25年度研究プロジェクト研究報告会, 東京, 3月31日.
2. 沼部幸博, 伊藤 弘, 関野 愉, 村樫悦子, 石黒一美, 今井一志, 小川智久, 鈴木麻美, 橋本修一, 戸円智幸, 那須優則, 羽村 章: Er: YAG レーザー創傷治癒検証プロジェクト, 平成25年度研究プロジェクト研究報告会, 東京, 3月31日.
3. 肖 黎, 井出良治, 小林朋子, 那須優則, 熊澤康雄, 岡村 尚: 歯髄幹細胞由来スフェロイドと漢方薬剤を用いた中枢神経組織創傷修復, 平成25年度研究プロジェクト研究報告会, 東京, 3月31日.

● 内科学講座 Department of Medicine

1. 所属構成員等

教 授 三ツ林裕巳, 佐々木裕芳

准 教 授 渡辺 昌司

講 師 矢島 愛治

非常勤講師 鳴瀬 裕爾, 権 寧博

臨床教授 山口 全一, 古畑 升, 池松 武直, 渡辺 尚彦, 小松 一俊

2. 研究テーマ

- 1) 高血圧症の成因 Pathogenesis of hypertension.
- 2) 中枢神経の血圧制御 Central control of blood pressure.
- 3) 血圧変動の解析 Analysis of blood pressure variation.
- 4) 睡眠時無呼吸症候群の成因 Pathogenesis of sleep apnea disorder.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

記載事項なし

4. 学位取得者

記載事項なし

5. 主催学会等

記載事項なし

6. 国際交流状況

記載事項なし

7. 外部研究費

記載事項なし

8. 研究業績

A. 著書

1. Kawasaki T, Yatagai A, Nakaoka T, Otsuka K, Otsuka Y, Watanabe Y, Otsuka K, Okumiya K, Matsubayashi K, Norboo T, Cornelissene G, Halberg F. SPACE WEATHER EFFECTS ON HUMANS IN SPACE AND ON EARTH. Edited. Grigoriev A.I., Zeleny L.M, 1 (2) : 539-550, 2013.

2. 渡辺尚彦, (監修) 三宅良彦, (編集) 明石嘉浩, 大宮一人, 土田幸子: 閉塞性血栓血管炎 (バージャー病), 大動脈炎症候群 (高安動脈炎). すべてがわかる循環器, 1 版: 237-238, 2013.

B. 原著

1. 渡辺尚彦: 生活習慣 (塩味嗜好) の行動変容へのアプローチ, 反復一週間減塩法について, 日本心療内科学会誌, 17 (3): 141-145, 2013.
2. Watanabe Y, Halberg F, Otsuka K, Cornellisen G. Toward a Personalized Chronotherapy of High Blood pressure and a Circadian Overswinging, Clinical Experimental and Hypertension, 35 (4): 257-266, 2013.
3. Watanabe Y, Kikuchi T, Mitsuhashi T, Kimura H, Tsuchida Y, and Otsuka K. Administration of Angiotensin Receptor II Blockade Improves Vascular Function, Urinary Albumin Excretion, Urinary Albumin Excretion, and Left Ventricular Hypertrophy in Low-Risk Essential Hypertensive Patients Receiving Antihypertensive Treatment with Calcium Channel Blockers, Clinical Experimental and Hypertension, 2013; 35 (2): 87-94. DOI: 10.3109/10641963.2012690472.
4. Satoh M, Kato N, Hosak M, Elnagar N, Tsuchihashi T, Yagi N, Ebara F, Uchiba K, Mori H, Kato M, Yamamoto H, Yoshida K, Miyakawa M, H, Kato M, Yamamoto H, Yoshida K, Miyakawa M, Hatiri Y, Yamamoto Y, Katsuya T, Watanabe Y, Yatagai S, Sato H, Imai Y. Validity of salt intake assessment system based on a 24-h dietary recall method using a touch panel computer. Clinical and Experimental Hypertension, Online, 1-7, 2014. ISSN: 1064-1963.
5. Kawamura H, Mitsubayashi H, Saito N, Ikeda K, Kawakami K, Nabika T, Increased Amplitude of the Circadian in Locomotor Activity, Systolic Arterial Pressure, and Heart Rate in Congenic Rats derived from SHRSP Rats. Clinical and Experimental Hypertension, 2013; 35 (8): 574-581.

C. 総説・解説

1. 渡辺尚彦: 心室性期外収縮, Heart: 3 (4): 32-35, 2013.
2. Halberg F, powell D, Otsuka K, Watanabe Y, Beaty L A, Rosch P, Czaplicki J, Hillman D, Schwartzkopff, Cornellinen. Diagnosing Vascular Variability Anomalies (VVAs), not only MESOR-Hypertensionion (MH), American Journal of Physiology -Heart and Circulatory Physiology, 305 (3): 279-294, 2013.
3. Miura K, Ando K, Tsuchihashi T, Yoshita K, Watanabe Y, Kawarazaki H, Mtsuura H, Kusaka M, Kai H, Kawamura M, and Kawano Y, Report of Salt Reduction Committee of the Japanese Society of Hypertension: (2) goal and strategies of dietary salt reduction in the management of hypertension. Hypertension Research, 36 (12): 1020-1025, 2013.
4. Ando K, Kawarazaki H, Miura K, Mitsuura H, Watanabe Y, Yoshida K, Kawamura M, Kusaka M, Kai H, Tsuchihashi T, Kawano Y. Report of the Salt Reduction Committee of the Japanese Society

of Hypertension : (1) Role of Salt in Hypertension and cardiovascular diseases. Hypertension Research, 36 (12) : 1009-1019, 2013.

5. Cornélissen G, Beaty L, Siegelova J, Gierke CL, Otsuka K, Watanabe Y, Syutkina EV, Masalov A, Gumarova L, Halberg F. An atlas of chronomes to map broad time structures, An atlas of chronomes to map broad time structures, Noninvasive Methods in Cardiology, Faculty of Medicine, Masaryk University. Brno, Czech Republic, 2013.

D. 報告（臨床・症例・研究等）・紀要

記載事項なし

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 伊藤 哲, 矢島愛治, 小松一俊, 平山篤志：既存 ARB により外来随時血圧が降圧目標に達している症例における Azilsartan の家庭血圧に与える効果の検討 ―交感神経活動の面から― 第二回臨床高血圧フォーラムプログラム・抄録集, 143, 2013.
2. 渡辺尚彦, 三橋哲也, 菊池朋子, 大塚邦明, 佐倉 宏, 三ツ林裕己, 河村 博, フランツ ハルバーク, ジャメイン コーネリセン：持続性 ARB/利尿配合剤テルミサルタン/ヒドロクロチアジド錠の時間療法の検討, 第36回日本高血圧学会抄録集, 362, 2013.
3. 小川哲也, 大前清嗣, 村上智佳子, 西沢蓉子, 杉本比美子, 井上朋子, 山下哲理, 興野 藍, 臼井亮介, 松田奈美, 西村英樹, 渡辺尚彦, 大塚邦明, 新田孝作, 佐倉 宏：企業検診における腎機能正常群で7年間の腎機能におよぼす血圧と尿蛋白の影響, Impact of blood pressure and Proteinuria on Renal Function in the Group of Company Health Check database for 7 years, 第36回日本高血圧学会抄録集, 394, 2013.
4. 矢島愛治, 三ツ林裕己, 小松一俊, 伊藤 哲, 榎 寧博, 渡辺尚彦, 平山篤志：いびき・睡眠時無呼吸センターにおける, 肥満度による血圧変化ならびに閉塞性睡眠時無呼吸症候群重症度の検討, Relation of Blood Pressure and Sleep Apnea Classification among Obese Patients in Snoring and Sleep Apnea Care Center, 第36回日本高血圧学会総会日本高血圧学会総会プログラム・抄録集, 385, 2013.
5. 三橋哲也, 渡辺尚彦, 菊池朋子, 大塚邦明, 佐倉 宏, 三ツ林裕己, 河村 博, Halberg Franz, Cornélissen Germaine：高親和性 ARB/持続性 Ca拮抗薬配合剤オルメサルン/アゼルニジピン配合錠の時間療法, 第50回日本臨床生理学会雑誌, 43 (Suppl 70), 2013.
6. 河村 博, 小沢友紀雄, 大田昌克, 笠巻祐二, 中山智祥, 泉 洋一, 矢島愛治, 三ツ林裕己：non-dipper 型血圧変動を示す中年カザフ族の頻度, 活動量およびその時系列, 第50回日本臨床生理学会雑誌, 43 (Suppl 79), 2013.

7. 矢島愛治, 三ツ林裕己, 渡辺尚彦, 小松一俊, 河村 博, 平山 篤志: いびき, 睡眠時無呼吸診療センターにおける肥満と血圧変化に関する検討, 第50回日本臨床生理学会総会, 日本臨床生理学会雑誌, 43 (Suppl 91), 2013.
8. Takayama T, Hiro T, Yoda S, Yajima Y, Kawasaki Y, Kunimoto S, Watanabe I, Hirayama A, Effects of the T/l-type Calcium Channel Blocker Benidipin on Renal Function and Augmentation Index in Hypertensive Patients with Chronic Kidney Disease. The 78th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society, Circulation Journal, 78 (Suppl. I) I-1697, 2014.

G. 講演

1. 小松一俊, 伊藤 哲: 既存 ARB と Azilsartan との降圧療法における違いとは? —イベント抑制を見据えた質の高い治療—第11回腎, 心, 脳連関の会, 川越市, 2014年1月27日.

● 外科学講座 Department of Surgery

1. 所属構成員等

教 授 富田 涼一
講 師 竹川 本夫

2. 研究テーマ

- 1) 消化器疾患の手術前・後における病態生理学的検討 Pathophysiological studies in patients before and after operation for digestive diseases.
- 2) 小腸移植と免疫機能 Assessments on immunological function for small bowel transplantation.
- 3) 侵襲時の生体反応とくに humoral mediator の動態 Kinetics of humoral mediators in critically ill patients.
- 4) 臨床腫瘍学 Clinical oncology.

3. 今年度の研究上の特記すべき事項

記載事項無し

4. 学位取得者

記載事項無し

5. 主催学会等

記載事項無し

6. 国際交流状況

記載事項無し

7. 外部研究費

記載事項無し

8. 研究業績

A. 著書

1. 富田涼一：総合医学 ―外科学講義ノート―，日本歯科大学，東京，2014年.

B. 原著

1. Nakamura I, Shibata M, Gonda K, Yazawa T, Shimura T, Anazawa T, Suzuki S, Sakurai K, Koyama

- Y, Ohto H, Tomita R, Gotoh M, Takenoshita S. Serum levels of vascular endothelial growth factor are increased and correlate with malnutrition, immunosuppression involving MDSCs and systemic inflammation in patients with cancer of the digestive system, © Oncology Letters, 5 : 1682-1686, 2013.
2. Sugito K, Kawashima H, Yoshizawa S, Uekusa S, Hoshi R, Furuya T, Kaneda H, Hosoda T, Konuma N, Masuko T, Ohashi K, Ikeda T, Koshinaga T, Tomita R, Shinojima Y, Fujiwara K, Watanabe T, William A Held, Nagase H. Non-promoter DNA hypermethylation of zygote arrest1 (ZAR1) in neuroblastoma, © Journal of Pediatric Surgery, 48 : 782-788, 2013.
 3. Hoshino M, Sugito K, Kawashima H, Goto S, Kaneda H, Furuya T, Hosoda T, Masuko T, Ohashi K, Inoue M, Ikeda T, Tomita R, Koshinaga T. Prediction of contralateral inguinal hernias in children : a prospective study of 357 unilateral inguinal hernias, © Hernia, DOI 10.1007/s10029-013-1099-2, 2013.
 4. Yazawa T, Shibata M, Gonda K, Machida T, Suzuki S, Kenjo A, Nakamura I, Tsuchiya T, Koyama Y, Sakurai K, Shimura T, Tomita R, Ohta H, Gotoh M, Takenoshita S. Increased IL-17 production correlates with immunosuppression involving myeloid-derived suppressor cells and nutritional impairment in patients with various gastrointestinal cancer, © Molecular and Clinical Oncology, 1 : 675-679, 2013.
 5. Suzuki S, Shibata M, Gonda K, Kanke Y, Ashizawa M, Ujiie D, Suzushino S, Nakano K, Fukushima T, Sakurai K, Tomita R, Kumamoto K, Takenoshita S. Immunosuppression involving increased myeloid-derived suppressor cell levels, systemic inflammation and hypoalbuminemia are present in patients with anaplastic thyroid cancer, © Molecular and Clinical Oncology, 1 : 959-964, 2013.
 6. Tomita R, Sugito K, Inoue M, Ikeda T, Sakurai K, Fujisaki S, Park E, Koshinaga T. Sacral nerve terminal motor latency in patients after ileal-J-pouch-anal anastomosis, © Japanese Journal of Clinical Physiology, 43 (6) : 150-155, 2013.
 7. Tomita R, Sakurai K, Fujisaki S. Significance of the lower esophageal sphincter preservation in preventing alkaline reflux esophagitis in patients after total gastrectomy reconstructed by Roux-en-Y for gastric cancer, © International Surgery, 99 : 174-181, 2014.
 8. Tomita R. Are there any functional differences of the enteric nervous system between the right-sided diverticular colon and the left-sided diverticular colon? An *in vitro* study, © International Journal of Colorectal Disease. DOI 10.1007/s00384-014-1837-7, 2014.
 9. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 鈴木周平, 原由起子, 平野智寛, 榎本克久, 天野定雄 : 乳癌術前化学療法中の Indoleamine 2, 3-dioxygenase の発現と腫瘍径の変化について, © 癌と化学療法, 40 : 1578-1580, 2013.
- Sakurai K, Fujisaki S, Nagashima S, Maeda T, Tomita R, Suzuki S, Hara Y, Hirano T, Enomoto K, Amano S. Indoleamine 2, 3-Dioxygenase activity during neoadjuvant chemotherapy in patients

- with breast cancer, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 1578-1580, 2013.
10. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 鈴木周平, 原由起子, 榎本克久, 天野定雄: 乳癌晩期再発例における Indoleamine 2, 3-dioxygenase の発現について, ○癌と化学療法, 40 : 1590-1592, 2013.
- Sakurai K, Fujisaki S, Nagashima S, Maeda T, Tomita R, Suzuki S, Hara Y, Enomoto K, Amano S. Indoleamine 2, 3-Dioxygenase activity for breast cancer patients with recurrence 5 or more years after surgery, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 1590-1592, 2013.
11. 藤崎 滋, 高階 幹, 鈴木周平, 富田涼一, 櫻井健一, 高山忠利: 大腸癌肝転移の化学療法後の CR は治癒を意味するか, ○癌と化学療法, 40 : 1662-1664, 2013.
- Fujisaki S, Takashina M, Suzuki S, Tomita R, Sakurai K, Takayama T. Does complete response of liver metastasis from colorectal cancer after chemotherapy mean cure?, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 1662-1664, 2013.
12. 富田涼一, 藤崎 滋, 櫻井健一, 杉藤公信, 越永従道, 柴田昌彦: 大腸癌局所再発による小腸イレウスの検討, ○癌と化学療法, 40 : 1942-1944, 2013.
- Tomita R, Fujisaki S, Sakurai K, Sugito K, Koshinaga T, Shibata M. Malignant small bowell ileus caused by local recurrence after colorectal cancer surgery, ○Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 1942-1943, 2013.
13. 鈴木周平, 藤崎 滋, 高階 幹, 櫻井健一, 富田涼一, 高山忠利: 胃癌の胃全摘術後の吻合部に発生した食道癌に対し局所切除を施行した症例, ○癌と化学療法, 40 : 2136-2138, 2013.
- Suzuki S, Fujisaki S, Takashina M, Sakurai K, Tomita R, Takayama T. Local resection and less-invasive re-reconstruction by reuse of the Roux-en-Y limb in a patient with lower esophageal cancer previously treated with total gastrectomy with Roux-en-Y anastomosis, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 2136-2138, 2013.
14. 櫻井健一, 藤崎 滋, 前田哲与, 長島沙樹, 原由起子, 富田涼一, 鈴木周平, 榎本克久, 天野定雄: 前方境界線の断裂を認め局所療法に難渋した非浸潤乳管癌, ○癌と化学療法, 40 : 2360-2362, 2013.
- Sakurai K, Fujisaki S, Maeda T, Nagashima S, Hara Y, Tomita R, Suzuki S, Enomoto K, Amano S. Diagnosis of ductal carcinoma *in Situ* with interruption of anterior border of the mammary gland by ultrasonography, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 2360-2362, 2013.
15. 櫻井健一, 藤崎 滋, 前田哲与, 長島沙樹, 原由起子, 富田涼一, 鈴木周平, 平野智寛, 榎本克久, 天野定雄: 局所療法で根治しえた Neuroendocrine DCIS, ○癌と化学療法, 40 : 2363-2365, 2013.
- Sakurai K, Fujisaki S, Maeda T, Nagashima S, Hara Y, Tomita R, Suzuki S, Hirano T, Enomoto K, Amano S. Successful treatment of neuroendocrine ductal carcinoma *in situ* with loco-regional therapy, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 2363-2365, 2013.
16. 鈴木周平, 櫻井健一, 長島沙樹, 藤崎 滋, 富田涼一, 原由起子, 榎本克久, 天野定雄:

治療方針に難渋した非浸潤性乳管癌, ○癌と化学療法, 40 : 2408-2410, 2013.

Suzuki S, Sakurai K, Nagashima S, Fujisaki S, Tomita R, Hara Y, Enomoto K, Amano S. The difficulty of choosing a treatment strategy for ductal carcinoma in Situ of the breast cancer screening, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 2408-2410, 2013.

17. 藤崎 滋, 高階 幹, 鈴木周平, 富田涼一, 櫻井健一, 高山忠利, 高橋 宏, 山本知則: 進行消化器癌患者の心臓外科手術を要する病態と癌再発について —消化器外科医の立場から—, ○癌と化学療法, 40 : 2444-2447, 2013.

Fujisaki S, Takashina M, Suzuki S, Tomita R, Sakurai K, Takayama T, Tkahashi H, Yamamoto T. Condition of patients who require heart surgery during treatment for advanced digestive cancer and early recurrence after surgery, ○ Japanese Journal of Cancer and Chemotherapy, 40 : 2441-2447, 2013.

18. 富田涼一, 丹正勝久, 藤崎 滋, 櫻井健一, 杉藤公信, 越永従道: 癒着性イレウスの選択的造影所見からみた治療方針 —特に四方分類による—, ○日本救命医療学会雑誌, 27 : 15-18, 2013.

Tomita R, Tanjoh K, Fujisaki S, Sakurai KI, Sugito K, Koshinaga T. Shikata's classification on selective enteroclysis for treatment principle of intestinal obstruction due to adhesions, ○ Japanese Journal of Emergency Treatment, 27 : 15-18, 2013.

19. 富田涼一, 藤崎 滋, 櫻井健一, 朴 英智, 井上幹也, 杉藤公信, 池田太郎, 越永従道: 豊胸術後に認められた乳房生理食塩水破裂に乳癌を伴った症例について, ○ Therapeutic Research, 35 : 313-318, 2014.

Tomita R, Fujisaki S, Sakurai K, Paku E, Inoue M, Sugito K, Ikeda T, Koshinaga T. Breast cancer with rupture of implant in breast after augmentation mammoplasty with saline-filled implants, ○ Therapeutic Research, 35 : 313-318, 2014.

C. 総説・解説

1. 富田涼一: 知っておきたい疾患と治療ポイント 5. 小児期に合併症を併発したメッケル憩室, 臨床外科, 68 : 552-555, 2013.

D. 報告(臨床・症例・研究等)・紀要

1. 藤崎 滋, 高階 幹, 鈴木周平, 富田涼一, 高山忠利: 胃癌胃全摘症例における食道癌手術の工夫, 日本大学医学会雑誌, 72 : 191-192, 2013.

E. 翻訳

記載事項なし

F. 学術雑誌掲載講演抄録

1. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 原由起子, 平野智寛, 榎本克久, 谷 真弓, 天野定雄: 閉経前乳癌における化学療法剤の種類による化学的閉経の検討, 日本外科学会雑誌, 114: 709, 2013.
2. 富田涼一, 藤崎 滋, 櫻井健一, 朴 英智, 柴田昌彦: 合併症の有無からみた80歳以上高齢者胃癌切除例の検討, 日本外科学会雑誌, 114: 940, 2013.
3. 藤崎 滋, 高階 幹, 富田涼一, 櫻井健一, 高山忠利: 超高齢者消化器癌手術の術式の選択と成績関する年齢の影響について, 日本外科学会雑誌, 114: 1042, 2013.
4. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 鈴木周平, 原由起子, 榎本克久, 平野智寛, 天野定雄: 超音波検査で前方境界線断裂様の所見を認めた非浸潤性乳癌の1例, 日本乳腺甲状腺超音波医学会雑誌, 2013.
5. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 鈴木周平, 原由起子, 榎本克久, 平野智: 超音波検査で前方境界線断裂様の所見を認めた非浸潤性乳癌の1例, 日本乳腺甲状腺超音波医学会雑誌, 2013.
6. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 鈴木周平, 原由起子, 榎本克久, 平野智寛, 天野定雄: 乳管内進展範囲の同定が困難であったアポクリン癌の1例, 日本乳腺甲状腺超音波医学会雑誌, 福島, 2013.
7. 富田涼一, 藤崎 滋, 櫻井健一, 朴 英智, 柴田昌彦, 越永従道: 大腸癌局所再発による小腸イレウス, 第35回日本癌局所療法研究会抄録集, 130, 2013.
8. 鈴木周平, 藤崎 滋, 高階 幹, 櫻井健一, 富田涼一, 高山忠利: 胃癌術後の吻合部に発生した食道癌に対し局所切除を施行した1例, 第35回日本癌局所療法研究会抄録集, 167, 2013.
9. 藤崎 滋, 高階 幹, 鈴木周平, 櫻井健一, 富田涼一, 高山忠利, 高橋 宏, 山本知則: 進行消化器癌患者の心臓外科手術を要する病態と癌再発について, 第35回日本癌局所療法研究会抄録集, 223, 2013.
10. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 鈴木周平, 原由起子, 飯塚美沙都, 平野智寛, 榎本克久, 谷 真弓, 天野定雄: 前方境界線の断裂を認め局所療法に難渋した非浸潤乳管癌の1例, 第35回日本癌局所療法研究会抄録集, 208, 2013.
11. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 前田哲与, 富田涼一, 鈴木周平, 原由起子, 飯塚美沙都, 平野智寛, 榎本克久, 谷 真弓, 天野定雄: 局所療法で根治しえた Neuroendocrine DCIS の1例, 第35回日本癌局所療法研究会抄録集, 209, 2013.
12. 富田涼一, 藤崎 滋, 櫻井健一, 朴 英智, 柴田昌彦: 慢性便秘症縦走筋壁内神経系における VIP, substance P 調節機構, 日本外科系連合学会学雑誌, 38: 671, 2013.
13. 富田涼一, 藤崎 滋, 櫻井健一, 柴田昌彦: 高齢者胃癌手術直接死亡例の臨床病理学的検討, 日本外科系連合学会学術集会, 38: 674, 2013.
14. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 鈴木周平, 富田涼一, 原由起子, 萩原美桜, 前田哲与, 平野智寛, 榎本克久, 谷 真弓, 天野定雄: 広範囲な乳管内進展を呈した Neuroendocrine DCIS

- の1例, 日本外科系連合学会雑誌, 719, 2013.
15. 富田涼一, 藤崎 滋, 櫻井健一, 朴 英智: 肝硬変併存胆石症の開腹手術症例についての検討, 第25回日本肝胆膵外科学会学術集会プログラム・抄録集, 536, 2013.
 16. 藤崎 滋, 高階 幹, 富田涼一, 高山忠利: 大腸癌多発肝転移切除後に生じた単発肝転移に対し化学療法により CR となった1例の臨床経過, 第25回日本肝胆膵外科学会学術集会プログラム・抄録集, 522, 2013.
 17. 町田洋一郎, 藤崎 滋, 高階 幹, 富田涼一, 高山忠利: 左大腿ヘルニア陥頓に続いて左上腰ヘルニア陥頓をきたしそれぞれ根治術を施行した1例, 第829回外科集談会プログラム・抄録集, 37, 2013.
 18. 藤崎 滋, 高階 幹, 長島沙樹, 富田涼一, 櫻井健一, 高山忠利, 山本智則: 左房粘液腫合併進行胃癌の胃切除・開心術後早期に発生した多発肝転移に対し化学療法が著効した1例, 第68回日本消化器外科学会総会抄録集 (オンライン), P-91-8, 2013.
 19. 長島沙樹, 藤崎 滋, 高階 幹, 櫻井健一, 富田涼一, 高山忠利: 特殊な網嚢ヘルニアの1例, 第68回日本消化器外科学会総会抄録集 (オンライン), P-149-3, 2013.
 20. 櫻井健一, 原由起子, 藤崎 滋, 北島 晃, 塩味正雄, 長島沙樹, 鈴木周平, 榎本克久, 富田涼一, 天野定雄: 人間ドック, 職域検診, 住民検診で異常を指摘されて2次精査期間を受診した症例の病態について, 第54回日本人間ドック学会学術大会抄録集, 8, 2013.
 21. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 富田涼一, 前田哲代, 原由起子, 鈴木周平, 平野智寛, 榎本克久, 天野定雄: 家族性大腸腺腫症に対する予防的結腸切除後に認めた肝細胞癌および甲状腺癌の1例, 第46回日本甲状腺外科学会学術集会, 名古屋, 2013. 9.
 22. 富田涼一, 藤崎滋, 朴英智, 柴田昌彦: S 状結腸過長症の縦走筋を用いた壁内神経調節機構について, 第21回日本消化器病関連学会週間抄録集 (オンライン), 外 P-511, 2013.
 23. 藤崎滋, 高階幹, 富田涼一, 高山忠利: 胃癌胃全摘症例における食道癌手術の工夫, 第21回日本消化器病関連学会週間抄録集 (オンライン), 外 P-12, 2013.
 24. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 富田涼一, 前田哲代, 原由起子, 鈴木周平, 平野智寛, 榎本克久, 天野定雄: 乳癌1次検診で異常を指摘されて2次精査機関を受診した症例の病態について, 日本癌治療学会雑誌, 48: 999, 2013.
 25. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 富田涼一, 前田哲代, 原由起子, 鈴木周平, 平野智寛, 榎本克久, 天野定雄: 乳房切除後疼痛症候群に対する Lafutidine の有用性について, 日本癌治療学会雑誌, 48: 1082, 2013.
 26. 櫻井健一, 藤崎 滋, 長島沙樹, 富田涼一, 前田哲代, 原由起子, 鈴木周平, 平野智寛, 榎本克久, 天野定雄: 乳癌術後皮膚再発病変に対する局所療法の有用性, 日本癌治療学会雑誌, 48: 2203, 2013.
 27. 藤崎 滋, 高階幹, 富田涼一, 櫻井健一, 高山忠利: 消化管穿孔にて発症した oncologic emergency 症例の検討, 日本癌治療学会雑誌, 48: 3007, 2013. 10.
 28. 富田涼一, 藤崎滋, 櫻井健一, 柴田昌彦: 高齢者胃切除例における合併症の臨床的特徴につい

- て，日本癌治療学会雑誌，48：2706，2013.
29. 富田涼一，池田太郎，杉藤公信，櫻井健一，藤崎 滋，越永従道：小児期潰瘍性大腸炎におけるJ型回腸囊肛門吻合術後の仙骨神経機能，日本臨床生理学会雑誌，43：86，2013.
 30. 藤崎 滋，富田涼一，櫻井健一，高山忠利：超高齢者大腸癌の治療と選択—手術症例の特徴の検討—，日本大腸肛門病学会雑誌，66：913，2013.
 31. 富田涼一，藤崎 滋，櫻井健一，朴 英智，柴田昌彦：高齢者胃癌切除術後直死例について，日本臨床外科学会雑誌，74：724，2013.
 32. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，富田涼一，前田哲代，原由起子，平野智寛，鈴木周平，榎本克久，天野定雄：Lapanitib 長期単独療法が腫瘍抗作用を奏し cCR を得た乳癌多発性肝転移の1例，日本臨床外科学会雑誌，74：688，2013.
 33. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，富田涼一，前田哲代，原由起子，鈴木周平，平野智寛，榎本克久，天野定雄：乳癌術後皮膚再発病変に対する局所療法の有用性，日本臨床外科学会雑誌，74：689，2013.
 34. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，富田涼一，前田哲代，原由起子，鈴木周平，平野智寛，榎本克久，天野定雄：超音波でリンパ管腫との鑑別が困難であった副乳の1例，日本臨床外科学会雑誌，74：727，名古屋，2013.
 35. 藤崎 滋，富田涼一，櫻井健一，高山忠利：虫垂炎高度炎症例に対する腹腔鏡下虫垂切除術における術野展開—剥離操作の標準化は可能か，日本内視鏡外科学会雑誌，18：420，2013.
 36. 富田涼一，櫻井健一，藤崎 滋：Slow transit constipation における消化管ホルモンの役割，第10回日本消化管学会総会学術集会プログラム・抄録集，259，2014.
 37. 富田涼一，藤崎 滋，櫻井健一，朴 英智：大腸癌浸潤による悪性小腸イレウスに対する術式と経口栄養摂取の関連について，日本静脈経腸栄養学会雑誌，29：353，2014.
 38. 富田涼一，藤崎 滋，櫻井健一，朴 英智：大腸癌局所再発性小腸イレウスの臨床的検討，日本腹部救急医学会雑誌，34：567，2014.
 39. 松田美穂，藤崎 滋，高階 幹，富田涼一，高山忠利：虫垂と一塊となった腫瘍を形成した急性化膿性卵管炎の一例，日本腹部救急医学会雑誌，34：415，2014.
 40. 富田涼一，藤崎 滋，櫻井健一：早期胃癌の術後5年以上経過した幽門輪温存幽門側胃切除における迷走神経温存の有用性，第86回日本胃癌学会総会記事，332，2014.

G. 講演

(1) 特別講演・シンポジウム等での講演

1. 藤崎 滋，高階 幹，富田涼一，櫻井健一，高山忠利：超高齢者大腸癌の治療に何を求めるか—手術症例の特徴の検討—（シンポジウム8：高齢者に対する治療方針（大腸），第75回日本臨床外科学会総会，名古屋市，2013年11月22日）.
2. 藤崎 滋，高階 幹，鈴木周平，富田涼一，高橋 宏，山本知則，高山忠利：消化器外科医からみた進行消化器外科患者の心臓外科手術を依頼する病態と癌再発について（パネルディス

- セッション1：担癌患者の心臓血管外科手術)，第38回日本外科系連合学会学術集会，東京，2013年6月6日。
3. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，平野智寛，富田涼一，鈴木周平，前田哲代，原由起子，久保井洋一，榎本克久，谷 真弓，天野定雄：石灰化病変のみを呈する乳癌に対する乳房温存療法における今後の課題（パネルディスカッション2：乳房温存療法の長期成績と今後の課題），第38回日本外科系連合学会学術集会，東京，2013年6月6日。
 4. 櫻井健一，藤崎 滋，前田哲代，平野智寛，長島沙樹，原由起子，富田涼一，鈴木周平，榎本克久，天野定雄：肉芽腫性乳腺炎の保存的治療に対する治療効果の評価について（パネルディスカッション7：外科系各科における最新の画像診断），第38回日本外科系連合学会学術集会，東京，2013年6月6日。
 5. 富田涼一，藤崎 滋，朴 英智，柴田昌彦：術後10年経過した早期胃癌での迷走神経・幽門輪温存胃切除後のQOLについて（ワークショップ4：胃癌術後における切除・再建法の工夫—長期QOLからみたコンセンサスの構築—），第68回日本消化器外科学会総会，宮崎市，2013年7月17日。
 6. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，富田涼一，前田哲代，原由起子，平野智寛，鈴木周平，榎本克久，天野定雄：肉芽腫乳腺炎の診断と治療効果の評価について（ワークショップ10：良性乳腺疾の診断と治療），第75回日本臨床外科学会総会，名古屋市，2013年11月22日。
 7. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，富田涼一，前田哲代，原由起子，鈴木周平，平野智寛，榎本克久，天野定雄：進行・再発（Stage IV）乳癌の oligometastases 症例における治療戦略について（ワークショップ15：Stage IV 臓器癌に対する治療戦略 [肝・胆・膵，乳腺]），第75回日本臨床外科学会総会，名古屋市，2013年11月22日。
 8. 藤崎 滋，高階 幹，富田涼一，高山忠利：虫垂腫瘍・小腸腫瘍に起因する Oncologic emergency のピットフォール（Oncologic emergency のピットフォール），第50回日本腹部救急医学会総会，東京，2014年3月7日。
 9. 富田涼一，藤崎 滋，櫻井健一，丹正勝久：術後癒着性イレウスでの選択的小腸造影による手術適応について（救急 トピックス），第16回日本臨床救急医学会総会・学術集会，東京，2013年7月13日。
 10. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，前田哲与，富田涼一，鈴木周平，原由起子，榎本克久，平野智寛，谷 真弓，天野定雄：乳癌術前化学療法中の Indoleamine 2, 3-dioxygenase の発現と腫瘍径の変化について（主題シンポ），第34回癌免疫外科研究会，岡山，2013年5月16日。
 11. 櫻井健一，藤崎 滋，長島沙樹，前田哲与，富田涼一，鈴木周平，原由起子，榎本克久，平野智寛，谷 真弓，天野定雄：乳癌再発例における Indoleamine 2, 3-dioxygenase の発現について（主題シンポ），第34回癌免疫外科研究会，岡山，2013年5月17日。
 12. 藤崎 滋，高階 幹，鈴木周平，櫻井健一，富田涼一，高山忠利：大腸癌肝転移の化学療法後に得られたCRは治癒を意味しない（主題シンポ III 転移性肝癌の病態別にみた局所治療戦略），第35回日本癌局所療法研究会抄録集，2013年5月31日。

- (2) 講演会・研究会・研修会での講演
記載事項なし